

14.2_n

45



始



1426
45

明治四十五年
大正元年
度愛知縣水產試驗場事業報告

明治四十五年 大正 愛知縣水産試験場事業報告

目次

| | | |
|-----|---------------------------|------|
| 養殖部 | 鹹水養殖試験 | 一頁 |
| | 淺草海苔移植試験 | 一頁 |
| | 養殖傳習生養成 | 二頁 |
| 漁撈部 | ピロートル漁業試験 | 五頁 |
| | 漁具 | 六頁 |
| | 試験ノ成績 | 九頁 |
| | 遠州灘深海部調査 | 十頁 |
| | 朝鮮海漁業試験 | 十一頁 |
| | 麗水海灣介漁業試験 | 十一頁 |
| | 朝鮮南部沿海ニ産スルわかがひ及たいらぎノ種類並漁場 | 十一頁 |
| | 麗水海灣ニ於ケルわかがひ及たいらぎ漁場 | 十二頁 |
| | わかがひ及たいらぎ漁具 | 二十二頁 |

大正 3. 11. 8 内交

わかがひたいらぎノ販路及需要状況……………二十七頁

本年度本縣出漁船ノ漁業成績……………二十九頁

結論……………三十一頁

鮫鱈網漁業試驗……………三十三頁

朝鮮南海岸ニ於ケル鮫鱈網漁業……………三十四頁

鮫鱈網ノ構造使用法……………三十五頁

試驗ノ經過……………四十八頁

鮫鱈網漁獲物……………五十二頁

結論……………五十五頁

漁撈傳習生養成……………五十六頁

製造部

鱈製鮫製造試驗……………五十八頁

原料……………五十八頁

製造順序方法……………五十八頁

製品……………五十九頁

輸出向鹽藏鮫製造試驗……………六十頁

原料……………六十一頁

調査部

製造順序方法……………六十二頁

製品……………六十四頁

製造傳習生養成……………六十五頁

鮫漁業基本調査……………六十七頁

養殖適地調査……………八十五頁

短期水産講習……………八十六頁

養殖部

鹹水養殖試験

技手 藤田政勝

多年本場ニ於テ施行シタル鰯鯉鰻等ノ淡水養殖試験ハ頗ル好成績ヲ奏シ其結果之ガ經營者各地ニ續出シ沿岸到ル處養魚池ノ設テアラザルナク益隆盛ニ赴キツ、アルモ鹹水魚類ノ養殖ニ至リテハ未ダ殆ト行ハレズ唯僅ニ二三車蝦ノ蓄養ヲナスモノアルニ過ギズ地ノ利ニ乏シカラザル本縣ニシテ如此状態ニアルハ蓋シ幾多理由ノ存スラランモ畢竟今日迄其方法ノ充分ニ研究セラレタルモノナク探テ以テ模範トスベキモノナキニ職由セズンバアラズ加フルニ養魚界ノ大勢ハ今ヤ通ワテ淡水性魚類ノミノ養殖ニ執着スルヲ許サズ進マデ海魚ノ養殖ヲ計リ其方法ヲ講究シテ之レガ指導啓發ニ努ムルノ急務ヲ促シ來レリ此レ本場ニ於テ本試験ヲ開始シタル所以ナリトス

試験ノ組織ハ従前ノ淡水養殖試験ト同様特別會計ニヨルモノニシテ作業資金三千圓ヲ運轉經營セントスルニアリ從テ營利試験ニ重キヲ置クト雖モ同時ニ又研究試験ヲ併セ行フモノトス

養池ノ面積ハ五千坪ニシテ之レヲ堤防ニテ大小數面ニ區畫シ各地ニハ樋門ヲ設ケテ池水ノ注排ニ便シカレ、すゝき、もろを、くるさゑび、くろたゐ、等ノ育成又ハ蓄養ヲ試ミル計畫ナルガ養殖部ノ位置選定ニ意外ノ日子ヲ要シ漸ク大正元年十二月二十七日ヲ以テ知多郡豊濱町大字豊濱字小佐郷ニ決定セラレ同町ノ企畫ニ係ル小佐灣埋立地内ノ一部ヲ無料借入レ設備スル事トナリシモ到底明年度ニ入ラザレバ工事完成セズ從テ事業開始ノ運ヒニ至ラザルヲ以テ總テ詳細ハ明年度ニ於テ報告スル所アラントス

海苔移植試験

前年本場ニ於テ愛知郡庄内川尻及海部郡鍋田村地先ニ淺草海苔ノ移植試験ヲ行ヒタルガ其成績見ルベキモノアリシ爲メ地元漁業組合ハ之ヲ繼承シ試培スルニ至レリ依テ本年度ハ熱田灣ニ面スル知多郡名和村地先及衣ヶ浦ニ派スル同郡東浦村地先ニ於テ本試験ヲ施行シタリ概要左ノ如シ

名和村地先 十一月二十二日渥美郡牟呂吉田村ヨリ種莖五十株ヲ取寄セ即日天白川尻即南柴田新田地先ニ築立テ了シタルガ十二月中旬ニハ大ニ成長セルヲ以テ第一回ノ採摘ヲナシ製造其他ニ關シ地元漁業組合員ニ實地指導ヲ行ヒ相當ノ製品ヲ得タリ爾來成育旺盛ニシテ隨時採收シ望ヲ囑シツ、アリシニ一月中旬ニ至リ俄然「だた」病ノ胃カス所トナリ其後多少採摘セシモ青のりノ蕃殖盛ニシテ漸次終了ヲ見ルニ至レリ

東浦村地先 十一月二十四日前同様渥美郡牟呂吉田村ヨリ種莖五十株ヲ宇藤江菅榮新田地先ニ移植シ十二月中旬已ニ充分ノ成長ヲ認メタルモ都合ニヨリ同月二十日ニ至リ第一回ノ採摘ヲナシ地元漁業組合員ニ製法其他ノ傳習ヲナセリ爾來引續キ成育良好品質亦佳良ナリシモ之レ亦一月中旬ニ至リ俄然「だた」病ニ胃サレ遂ニ恢復ヲ見ルニ至ラザリシハ遺憾ナリキ

右ノ如ク本年度ニ於ケル移植海苔ハ「だた」病ニ胃サレ充分ナル成績ヲ見ル能ハザリシモ大ニ地元漁業者ノ注意ヲ喚起シ名和村ノ或當業者ノ如キハ直ニ本事業ノ頗ル有望ナルニ囑目シ着手ノ念禁ズル能ハズ本場ニ位置ノ選定ヲ求メ十二月下旬牟呂吉田村ヨリ種莖數百株ノ移植ヲ試ミルニ至リタルガ時期已ニ遅カリシニ拘ハラズ相當ノ利益ヲ收メタリト云フ

養殖科傳習生養成

前年ノ如ク本年度モ將來養殖事業ニ従事セントスル子弟ヲ縣下ニ募集シ四月一日ヨリ十一月三十日ニ至ル八ヶ月間専

ラ水産養殖ニ關スル技術ト學理トヲ簡易實用的ニ傳習セリ修業者ハ五名ニシテ左ノ如シ

- 豊橋市東八丁
- 幡豆郡吉田村
- 碧海郡高濱町
- 知多郡豊濱町
- 寶飯郡三谷町

- 今村正貫
- 牧清盛
- 深谷治道
- 田中清藏
- 鈴木喜代吉

漁撈部

前年度ニ引續キ「ビームトロール」漁業試験及ビ朝鮮海漁業試験ヲ施行シ傍ラ傳習生ノ養成ニ從事シタリ

ビームトロール 漁業試験

技 手 中 北 靜

明治四十二年初メテ本試験ニ着手スルヤ先以テ縣下當業者ノ使用シ馴レタル在來ノ打瀬網ト同一構造ノモノヲ新調シ股網ニ附シタル長サ二十五尺ノ桁ニテ網口ヲ開張セシメ一本ノ曳網ニテ曳曳方法ニヨリ試験スルコトトシ同年夏期ニ至ルマテ繼續試験セシカ此構造ノ漁具ニ對スル諸關係ハ略判然シ且成績不良ナラザリシヲ以テ之ト比較研究ノ爲メ英國式「ビームトロール」ヲ造リ同年秋期ヨリ試験ヲ行ヒタルニ該漁具ハ網口ニ重キ桁脚ヲ備ヘ加フルニ沈子網ハ頗ル重且大ナルガ故ニ弱風ノ時ハ就業シ得サル場合多ク尙又網糸過大ニシテ水ノ抵抗強ク其他局部ニ於テモ不工合ノ點アリシヲ以テ四十三年度ニハ細糸製ノ網地ヲ用ヒテ新ニ網ヲ構成シ又桁脚ヲモ改造シ使用上便利ナルニ至リタルモ從來ノ如ク曳網ヲ長ク(水深五倍内外)延長スルハ網ノ股網海底ニ垂觸シ之レカ爲メ魚類ノ網口ニ入ラントスルヲ却テ驚逸セシムル虞レアルガ故ニ四十三年秋期ヨリ四十四年ノ夏期ニ至ルマテ專ラ此欠點ヲ補フベキ方法ニ關シ攻究ヲ重ネタル結果網ノ沈子部ニ於ケル構造ヲ改作シ且沈子ノ重量ヲ輕減シテ弱風ノ日ニハ其儘之レヲ使用シ強風ノ日ニハ別ニ備ヘ置ケル鐵錘ヲ加着スルコトトシ以テ風力ニ應ジ網ノ重量ヲ加減シ得ル裝置トシ船ノ引曳力ト漁具トノ權衡ヲ保ツニ容易ナラシメタルヨリ作業大ニ便利トナリ能ク風力ヲ察シ漁具ノ重量ヲ加減スルトキハ曳網ノ延長度ハ水深ノ四倍内外ヲ以テ適度トシ場合ニヨリテハ多少之レヲ超ユルコトアルモ別ニ差支ナキコトヲ確メ得タルト共ニ漁獲上ノ成績モ亦良好ナルニ至レリ然レトモ夏期ノ如ク從業上常ニ風力ノ不足ヲ感スル場合若クハ底質軟泥ノ漁場ニ出漁スル際ノ如

キハ可成の輕キ網ヲ用ユルノ要アリ現在使用中ノ網ハ風力ニ應シ重量ヲ加減シ得ヘキ裝備アリト雖トモ網口ニ具フル桁脚ハ鐵製ニシテ一個ノ重量十四貫匁余アリ極度ニ沈子部ノ重量ヲ輕カラシムルモ右ノ如キ場合ニ於テハ常ニ多少遺憾ナキ能ハサルカ故本年度ハ軟風期ニ於テモ亦海底泥質ノ漁場ニ於テモ一層使用ニ便ナル漁具漁法ニ關シ試驗セント欲シ五月ヨリ十月迄ハ多ク伊勢海ニ出漁シ十一月以降ハ專ラ遠州海ニ於テ試驗シタリ左ニ其概要ヲ記セン

漁具

本年度ノ試驗ニ供シタル漁具ハ從來使用シタル漁具ノ構造ヲ拆衷シタルモノニ係リ其網ノ構成方法ハ前年度ノ報告ニ記載シタルモノト全様ナルモ桁脚ヲ用ヒス股網ニ附着シタル桁ニ依ツテ網口ノ開張ヲ計リタルハ恰モ本試驗ノ當初使用シタルモノノ裝置ニ等シ網ノ大サハ囊ノ長サ二十尺袖網ノ長四十七尺五寸(片手)ニシテ長サ三十五尺ノ天上網ヲ付備シタルモノナルカ春夏ノ候内海ニテ試驗シタル際ニハ漁獲物ノ關係上小目網(曲尺八分)ヲ用ヒ尙ホ此期節ハ風力軟弱ナルト海底泥質ナルトヲ以テ網ヲ輕カラシムル爲メ秋冬期ニ使用スル大目網ニ比シ沈子ノ重量ヲ約半減シ別ニ扁平橢圓形ニシテ一個百匁内外ノ陶製沈錘數十個ヲ備ヘ置キ風力ノ都合ニヨリ臨機適當ニ之ヲ加着スルニ便セリ斯ク鐵鑽ヲ用ヒス特ニ陶製扁平ノ沈錘ヲ選ヒタルハ鐵鑽ハ泥中ニ喰込ミ易ク囊中ニ泥土ヲ引込ム恐レ多キ故ナリ而シテ外海ニ於テ使用スル網ハ其期節秋冬季ニシテ風力強ク漁場亦硬質ナルヲ以テ前年度十二月以後ニ試驗シタルモノ(構造ハ前年度ナリ)ト全一構造ノモノヲ用ヒ風力ニ應シ沈子部ノ重量ヲ加減スル爲メニハ鐵鑽ヲ使用シタリ尙本年度ノ漁具ニハ桁脚ヲ廢シタルヲ以テ袖網ノ高サヲ保タシムル爲メ普通打網ノ如ク高サ二尺ノ手木ヲ袖網ノ先端ニ付シ股網ハ總長五十尋トシ之ヲ中央ヨリ折返シ兩端ヲ袖網ノ端ニ結着シ又桁ハ股網ノ兩端ヨリ二十五尺前方ニ取付ケタリ其長サハ三十尺三十五尺ノ二種トシ風力ノ強弱ニ應シ適宜ニ之ヲ選用スルニ便ナラシメタルカ春夏ノ候内海ニテハ多ク三十尺ノモノヲ

用ヒ秋冬期外海ニテハ專ラ三十五尺ノモノヲ使用シタリ而シテ揚網ノ際ニハ木栓ノ振取ニヨリ水中ニ於テ桁ノ一端ヲ股網ヨリ取放チ網口ヲ塞キテ引上ケテ容易ナラシムルヨウ裝置シタリ今左ニ本年度試驗シタル漁具ノ構造ヲ概記スベシ

小目網ノ構造

- 背網 綿糸十五本合八分目ヲ用ヒ前縁ヨリ三尺マデハ百五十掛ソレヨリ后端マテハ二百掛ニシテ全長十五尺トス
- 腹網 綿糸十五本合八分目二百掛長十三尺ノモノ、前縁ニ南京麻糸二子撚經一分五厘二寸五分目三十五掛長三尺ノ網地ヲ縫合シ全長十六尺トス
- 三角網 綿糸十二本合八分目前縁二百掛ニシテソレヨリ漸次兩落トシ未端一目ニ終リ全長十二尺ノモノ、左右各一枚
- 囊尻網 綿糸二十一本合七分目三百掛長十尺ノモノヲ中央ニテ折返シ其兩端ヲ背網及腹網ノ后縁ト縫合ス
- 漏斗網 綿糸九本合八分目前縁百六十五掛ソレヨリ漸次兩落トシ后縁十五掛ニ終リ長七尺五寸ノモノ、四枚ヲ用ユ
- 袖網 綿糸九本合百掛八分目四枚及ビ九分目四枚ヲ片袖ニ用ヒ其高サハ袋脇ノモノ十二尺五寸ニシテ以下一枚毎ニ五寸落トシ總テ堅目ニ用ユ
- 縮結 浮子方沈子方共袋口ハ五尺ニ袖網ハ(片手)四十七尺五寸ニ「いせ」込ム
- 天上網 綿糸九本合セ九分目前縁四百掛ソレヨリ兩落トシ百掛ニ終リ長三十七尺ニシテ前縁ハ長サ二十五尺ノ浮子網ニ縮結シ小浮子八枚ヲ付シ后縁ハ袋口ニ兩縁ハ袖網ノ浮子網三十五尺間ニ縫着ス
- 下擦網 南京麻糸經一分五厘四寸目三十掛長サ二十四尺
- 沈子網 沈子通シ網ハ經五分「ターロツア」添網ハ經七分葉網ヲ用ヒ長各百十尺ニシテ兩端ヘハ「アイヌブライス」ヲ造リ「コース」ヲ嵌入シ之レト股網ノ端ト「シヤツクル」止トス

沈子 陶製一個ノ重量三十五匁内外ノモノ百八十個トシ袋口ニハ十個ヲ附シ他ハ袖先ニ至ルニ從ツテ漸次間隔ヲ粗ニスルヨウ配置ス又疾風以上ノ風力ニハ袋口ニ一個三十匁内外ノ鉛片十個ヲ卷着セリ

浮子網 棕梠製三分總長百十尺ノモノ二條ニシテ兩端ハ沈子網ノ端ニ設ケタル「スプライス」ノ傍ニ結止ス

浮子 漆製長八寸五分巾二寸厚五分ニシテ袋口ニハ四枚兩端ニハ十二枚宛ヲ付セリ

大目網構造

前年度ノ報告ニ記載ノモノト同一ナルヲ以テ重テ茲ニ掲記セズ但本年度ノモノニハ桁脚ヲ用ヒサルカ故ニ天井網ノ構造少シテ相違スル所アリ即チ前年度ノモノハ長サ四十七尺ニシテ前線ハ桁ニ撞着シタルモ本年度ノモノハ長サ三十五尺トシ前線ヲ三十尺ノ線網ニ縮結シ小浮子十二枚ヲ付シタルニアリ

付 屬 具
手木 檜材徑一寸五分長二尺ニシテ袖網ノ先端ヨリ一尺五寸前方ニ於テ上部ヲ浮子網ニ下部ヲ沈子網ニ結付シ以テ袖網先端ノ高サヲ保タシム

沈鏟 陶製ニシテ扁平ナル橢圓形ヲナシ(長經三寸五分短經三寸厚三分)一個ノ重量百匁内外ヲ有シ一端ニ小孔アルヲ以テ之レニ細紐ヲ通シ沈子網ニ結着スルニ便シ網ノ重量ヲ加減スルニ用ユルモノニテ總數四十個ヲ備ヘタルガ使用數ハ風力ニ應ジテ參酌シ主ニ海底泥質ノ場所ニ於テ使用ス

鐵鎖 重量二十封度長五尺ノモノヲ一鏈トシ十鏈ヲ備フルモ夏季内海ニテハ之ヲ用ユルコト甚ダ稀ナリ

手石 扁平ナル橢圓狀ノ石ニテ一個ノ重量三貫目其中央ヲ鐵線ニテ縛リ之レニ長三尺内外ノ麻網ヲ付シ風力ヲ見計ヒ二個乃至四個宛ヲ股網ニ結付ス其個所ハ股網ト沈子網トノ接合部ヲ距ル前方五尺内外ノ處トス

桁 檜材中央經三寸五分兩端二寸五分ニシテ長サハ三十尺三十五尺ノ二種トシ弱風ノ際ニハ短カキモノヲ用ヒ風力

十分ナルトキハ長キモノヲ使用ス而シテ桁ノ一端ニハ長サ五尺許リノ麻網ヲ附シテ股網ニ結付スルニ便シ他端ニハ麻網ニテ長三寸程ノ眼ヲ設ケ投網ノ際股網ニ取付ケタル眼索ヲ此眼ニ貫キ其端ヲ木栓ニテ止メ此木栓ニハ長三十尋ノ網ヲ附シ其端ヲ曳網ニ結止ス揚網ノ際此栓網ヲ取り木栓ヲ引抜キハ桁ノ一端ハ股網ヨリ外レ左右ノ袖網ハ互ニ接着シ網口閉塞スルヲ以テ網ヲ引上グルニ甚ダ輕易ナリトス此裝置ハ四十二年ノ漁具ニ設ケタルモノニ等シ

股網 「マニラ」麻網經八分長サ五十尋ノモノヲ中央ヨリ折返シ此部分ヲ曳網ト兩端ヲ沈子網ノ端ト各「シャツタル」止メトス

曳網 「マニラ」麻網經一寸二分長四百五十尋ヲ備フ

但前記漁具ノ試験ニ用ヒタル漁船ハ從來ノ如ク十九噸西洋形帆船愛知丸ニシテ鐵裝モ前年度報告ニ記載シタルモノニ等シ

試驗ノ成績

本年度試驗シタル漁具ノ構造ハ大略前記ノ如クニシテ前年度十二月以後ニ於テ使用シタル網ニ本試驗着手ノ當初(即チ四十二年一月ヨリ全年八月マテ)試用シタルモノト同趣向ノ網口開張裝置ヲ利用シタルモノニ係リ可成網ヲ輕クシ且桁脚ノ如キ一定重量ヲ有スル重キ附屬具ハ之ヲ廢シタル等其他總テノ點ニ於テ出來得ル限リ風力ノ強弱並ニ漁場底質ノ軟硬ニ應ジ常ニ工合能ク操業シ得ルヨウ參酌改造シタル者ナリ從來快ク網ヲ曳走スルニハ疾風ノ中位以上ノ風力ヲ要スル爲メ夏季ノ如キハ常ニ漁具ノ使用上風力ノ不足ヲ感シ甚不便多カリシモ本年度ノ漁具ヲ以テスレバ中位ノ和風時ニ於テモ網ヲ曳走スルニ容易ニシテ殊ニ内海泥底ノ漁場ニアリテ弱風ノ際ハ泥土ヲ壘中ニ引込ミ易カリシモ斯ル場合甚ダ少キニ至リ尙又網口ノ開張裝置ヲ變更シテ分割スベカラザル一定重量ヲ有スル桁脚ヲ用フル代リニ一個三貫

目内外ノ手石ヲ以テ袖先ノ沈定ニ供シ風力ノ強弱ニヨリ其附着數ヲ任意加減スル事トナセシハ前年度ノ漁具ニ比シ使用上甚ダ利益トスル所ニシテ風力ノ不足勝ナル夏期ニ於テ特ニ其然ルヲ感セリ而シテ又本年度ノ桁ハ前年度ノモノノ如ク檜材ヲ用ヒズ檜材ニシテ股綱ヲ浮上セシムル力アルヲ以テ相當速力ニテ曳走スルトキハ曳綱ヲ水深ノ五倍内外マテ延長スルモ股綱及曳綱ノ海底ニ接スルコトナキヲ確メ得タリ故ニ投網后風力増大シ來リタル場合ノ如キニ際シテハ曳走速度整調スルニ甚便宜トナリ此他又桁ノ栓拔装置ニヨリ水中ニテ網口ヲ閉塞セシメ得ル事トセルヨリ本船ノ如ク手用揚網機ニヨルモノニアリテハ桁脚ヲ備フルモノニ比シ頗ル揚網作業ヲ輕易ナラシメタリキ要スルニ本年度ノ漁具ハ風力トノ權衡ヲ保ツニ一層便利ヲ計リタル等ニヨリ網ノ使用ヲ容易ニシ就業日數ヲ増加セシメタルト共ニ漁獲ノ増進ヲモ見ルニ至レリ而シテ風力ト漁具トノ權衡ニ關シテハ小目網(夏期内海泥質ノ漁場ニ使用スルモノ)ニアリテハ中位ノ和風時ニハ別ニ沈鍾ヲ付セズ手石二個ヅ、ノミトシ疾風時ニハ沈鍾十個手石二個強風時ニハ沈鍾三四十個ト手石四個ヅ、ヲ付セリ又大目網(冬期外海硬質ノ漁場ニテ使用スルモノ)ニ對シテハ和風時ニハ手石二個ノミ疾風時ニハ鐵鎖二鏈ト手石二個強風時ニハ鐵鎖四五鏈ト手石三四個付スルヲ標準トシ曳綱ハ水深ノ四倍延長シ一時間二海里ノ速度ヲ以テ曳走セシムルヲ最モ適當トナセリ

遠州灘深海部調査

明治四十三年度及四十四年度ニ於テ數回「ビームトローラ」ヲ用テ遠州灘沖合水深五十尋内外ノ邊ヨリ百尋線附近マダノ揚所ヲ調査シタルニ相當ノ漁獲物アリ且底礁其他甚シキ障礙物ニモ會セス將來打瀬網漁場トシテ出漁範圍ヲ擴張スルニ適當ナル場所ト認メタルヲ以テ引續キ本年度モ探査ニ從事スル豫定ナリシガ漁具ノ曳綱ニ所々脆弱ノ部分ヲ生ラ深水部ヲ調査スルニハ長サノ不足ヲ訴フルニ至レリ然レドモ豫算ノ都合上之ヲ補充シ得ザリシガ故本年度ハ遂ニ本調

査ヲ遂行スル能ハザリキ

朝鮮海漁業試驗

技 手 小 川 濟

本年度施行シタル朝鮮海漁業試驗ハ麗水海灣ニ於ケルわかたひ、たいらぎノ漁業ト鉸罾網漁業トノ二種ナリ而シテ該試驗ノ結果ハ別ニ述ブル所ノ如ク夫々相當ノ成績ヲ收メ既往六ヶ年間ノ試驗調査ト相俟テ朝鮮海ニ於ケル打瀬網漁業經營ノ基礎ヲ確固カラシメタリ今ヤ本縣當業者ノ彼地ニ出漁スルモノ大ニ増加シ通漁ハ漸次移住ニ轉ズル狀態ニ進ミ來リ又該海ノ調査モ主ナル部分ハ既ニ結了シタルヲ以テ本試驗ハ本年度閉鎖スル事トナセリ

麗水海灣介漁業試驗

本場ニ於テ昨四十四年度朝鮮南岸ニ於ケル沖合性介類ノ蕃殖狀況ヲ調査シタル結果全羅南道麗水半島ト慶尙南道南海島トニ據セラレタル麗水海灣ニわかたひ及たいらぎノ夥シク蕃殖スルヲ探知シタルモ時既ニ年度ノ終リニシテ此等介類ノ販路並ニ需要ノ狀況等ニ就キ充分調査ノ時日ナク可惜好望ノ漁場モ之ヲ民間ニ獎勵シテ該漁業ノ開發ヲ促スニ足ルヘキ要素ヲ確ムルコト能ハザリシヲ以テ本年度ニ於テハ更ニたいらぎ、わかたひノ蕃殖狀態ヲ精査スルト共ニ一面ニハ之等介類ノ需要狀況ヲ調査シ販路ヲ開キ以テ本漁業ヲシテ確實ナル事業タラシメ此漁場ヲ基本トスル移住漁村ノ經營ヲナサシメント努メタリ其梗概左ノ如シ

朝鮮南部沿海ニ産スルわかたひ及たいらぎノ種類並ニ漁場

あかがひハ動物學上絲鰓類あかがひ科ニ屬シ本邦ニ於テハ南ハ九州ヨリ北ハ北海道函館ニ至ル間ニ産シ廣嶋灣、播磨灘、和泉海、伊勢海、三河灣、東京灣、九十九里沿海、青森灣等ニ多シ二種アリ一ナ Area, inflata Ry. 一ナ Area, Satomi Dkr. ト云フ九十九里ニ産スルモノハ後種ニシテ本縣其他ノモノハ前種ナリ

たいらぎハ偽鰓類あこやかひ科ニ屬シ本邦ニテハ七尾灣、伊勢海、三河灣、東京灣（富津、木更津沖合）紀伊水道阿波沿海、和泉海、兒島灣口、島原海灣、柳川沖合、大村海灣、鈴田沖合等ニ産ス數種アレドモ普通ニ見ルモノハ Pinna japonica Ry. ニシテ本縣産ノモノ亦此種ニ屬シ方言たてかひトモ稱セラル

麗水海灣其他朝鮮南部沿海ニ産スルあかがひ及たいらぎハ本縣所産ノモノト其種類チ同フシ曾テ本場ノ調査シタル慶尙南道釜山ヨリ全羅南道駕莫洋ニ至ル間ノ沿海ニ於テハあかがひハ動物學的分布ノ見地ヨリスレハ到ル處其産アルチ見ルモ漁場トシテノ觀察ヨリ云ハ鎮海灣、東島灣、麗水海灣、駕莫洋チ擧グメク就中麗水海灣、鎮海灣、駕莫洋等ハ蕃殖最モ濃厚ニシテ同海ノ一富源ト稱スルニ足ルベシ、又麗水半島以西ニ於テモ好漁場アルガ如ク推測セラル、モ調査ノ暇ナカリシチ以テ茲ニ述ブル能ハズたいらぎハあかがひノ如ク蕃殖ノ區域廣カラズ鎮海灣白岩附近ニテハ餘リ古カラザル多量ノ死殻チ漁獲シタルコトアルモ生介ハ一個チモ得ザリキ東島灣ニハ稀薄ナル蕃殖アルチ見晋州灣内ニテモ曾テ死殻チ獲タル事アリ或漁業者ヨリ釜山港口ニテ打網ニ依リ時々一二個チ漁獲スルコトアリト聞キ同所ニ於テ介桁網チ使用シタルコトアルモ遂ニ一個チモ獲ル能ハザリキ獨リ麗水海灣ニ於テハ實ニ驚クベキ蕃殖チナシ其面積ノ廣キト濃厚ナルトハ本邦ニテモ其比アルチ聞カザル所ナリ此他去ル明治四十年十一月本場中北技手ハ西海岸群山浦沖合十二東波島ノ東側ニ於テ普通ノ打網網チ用キテ一網二百餘個ノたいらぎチ漁獲シタルコトアルチ見レバ該方面ニモ夥シク蕃殖スルモノ、如シ

麗水海灣ニ於ケルあかがひ及たいらぎ漁場

麗水海灣附近赤貝調查場圖

凡例

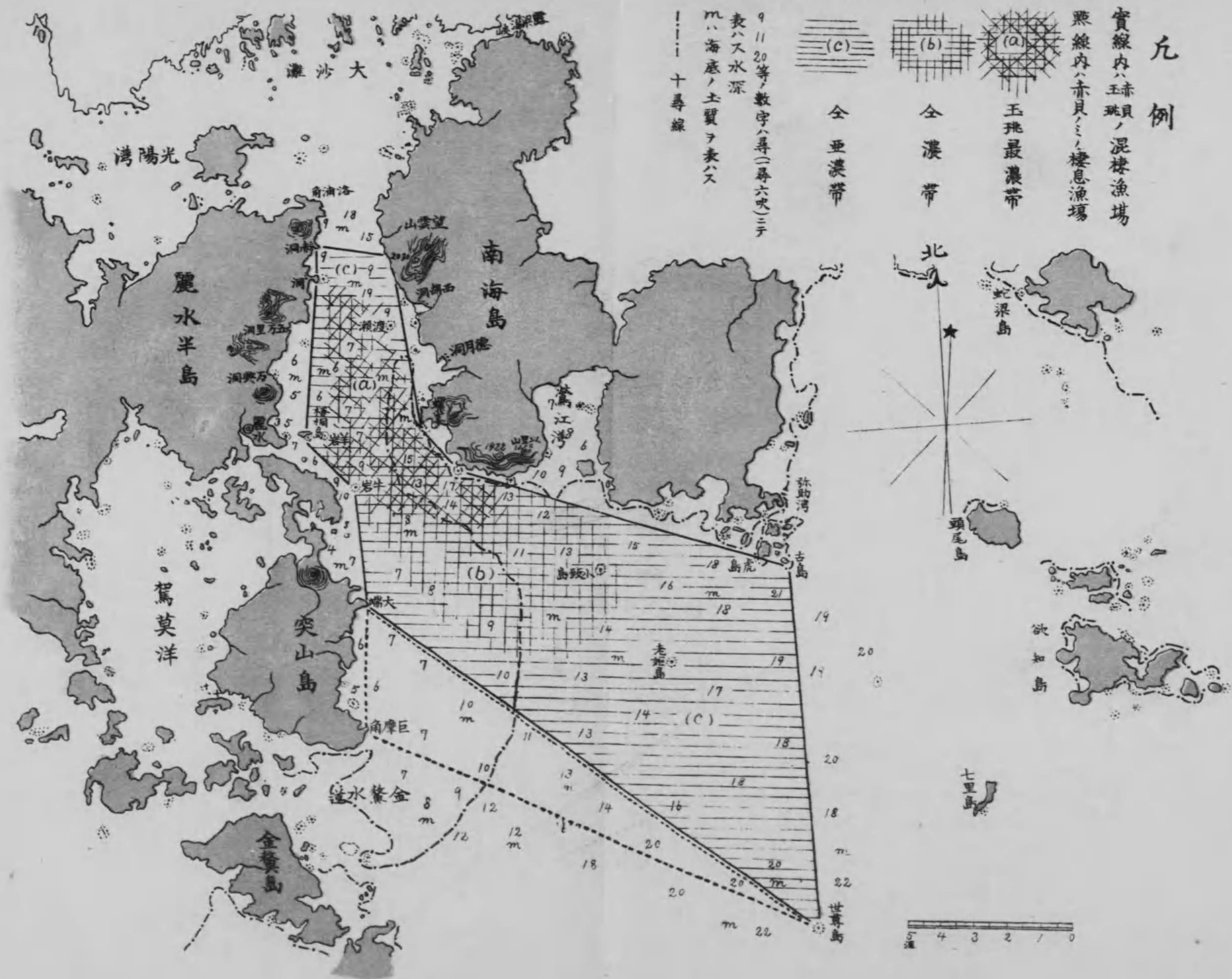
實線内、玉斑、混棲漁場
點線内、赤貝、棲息漁場

(a) 玉斑最濃帶

(b) 全濃帶

(c) 全亞濃帶

9、11、20等、數字、(尋) (尋六呎) (三寸)
表ハ水深
m、海底ノ土質ヲ表ス
--- 十尋線



麗水海灣ニ於ケルわかがひ及たいらぎノ蕃殖狀況ニ就テハ前年度ノ報告ニ其概要ヲ記述セリ然ルニ前年度ハ調査ノ時
日少カリシ爲メ其ノ區域蕃殖ノ模様等ハ極メテ大体ヲ知リ得タルニ過ギズシテ前年度調査ノ區域外ニモ尙ホ蕃殖帶ノ
連續スル見込アリシカバ本年度ハ更ニ詳細之レガ調査ヲナスノ豫定ナリシ處恰モ該海面ノ管轄官廳タル全羅南道及慶
尙南道廳ニ於テモ該漁場ノ保護取締方法ニ付キ調査ノ必要ヲ認メ技術者ヲ派遣シテ調査スルコト、ナリタルヲ以テ該
調査ニ協力シテ蕃殖ノ厚薄及面積等ニ付キ稍詳細ナル調査ヲ遂ゲタリ左ニ其概況ヲ記述スベシ
わかがひノ蕃殖狀況

區域 麗水半島ノ赤洞ヨリ對岸南海島望雲山ノ南標高二〇三〇ニ至ル一線及麗水半島瓦洞ノ岬端、梧桐島、牛岩、突
山島ノ巨摩角、世尊島、彌助群島ノ古島、南海島以里山西方一四二二高地、螺峯岬端ヲ連絡シタル線内一帶ノ海底
蕃殖ノ模様 蕃殖ノ濃淡ハ之レヲ調査スルニ適當ノ器具ナク確知スルコト能ハズト雖モ區域内一帶蕃殖ヲ遂ゲ就中麗
水港ノ沖梧桐島ヨリ南海島螺峯ニ至ル一線以南ニハ殊ニ多クわかがひ桁網十二挺ヲ使用スル漁船四時間内外ノ作業ニ
ヨリテ一千個以上ノ漁獲アルモノト認メラル然レドモたいらぎノ最濃帶ニハ極メテ稀薄ニシテ前記漁船ヲ以テ三時間
内外操業スルモ五十個乃至二百個ノ漁獲アルニ過ギズ

年齢わかがひハ殼ニ比較的著シキ成長線(年輪)アルモ七八年以上ノモノニアリテハ明ニ之レヲ認メ難キガ故ニ從テ
其ノ年齢ヲ明カニスルコト能ハズト雖モ概括的ニ之レヲ云ハバ漁獲セラル、モノ、大部分ハ六年以上八年以内ノ年輪
ヲ算スルモノ最モ多ク九年生以上ト思ハルモノ及ヒ三四年生ト思ハル、モノハ相合シテ全漁獲ノ三分ノ一内外ナルガ
如シ

たいらぎノ蕃殖狀況

區域 麗水半島ノ東岸赤洞ヨリ南海島望雲山ノ南標高二〇三〇ニ至ル一線及瓦洞ノ南岬端、梧桐島、牛岩、突山島ノ

大端ヲ經テ世尊島ニ至ル一線及世尊島ヨリ彌肋群島ノ古島、南海島以里山西方一四二二高地、螺峯端、望雲山ノ南二
 ○三〇高地ニ至ル線ヲ以テ圍マレタル海底
 蕃殖ノ模様 前區域内ニ於ケルたいらぎ蕃殖ノ状態ハ説明ノ便ヲ圖リ之ヲ三部ニ分チテ最濃帶、濃帶、亞濃帶トナス
 べシ

最濃帶(別紙圖面ノル)ハたいらぎノ蕃殖最モ濃厚ナル區域ニシテ麗水半島ノ瓦洞南方岬端、梧桐島附近ノ羊岩
 牛岩ヲ連結シタル線及ヒ牛岩ヨリ小致島ニ向ヒタル一線上南海島以里山ノ西方ナル標高一四二二高地ヲ正北ニ望ム點
 及之レヨリ同高地麓ノ沿岸十尋線ヲ沿フテ渡瀨ニ至ル一線、渡瀨ヨリ瓦洞ニ向ヒタル一線トチ以テ圍マル其面積約十
 八平方海里此坪數千八百四十七萬五千九百八十六坪ニ達ス此區域内ニ於ケルたいらぎハ殆ソド棲息シ得ラル、限リ密
 生シタルモノニシテ一坪平均七十個内外ノ蕃殖ヲナセルモノト推定セラル、モノナリ但此推定ノ方法ハ左ノ如シ
 〔該區域内ニ棲息スルたいらぎノ平均体高(五寸)體幅(二寸三分)ノ相乘積(一一、五平方寸)ヲ二分シタル數(五、七五
 平方寸)ヲ以テたいらぎノ棲息中海底面ヲ塞ク平面積トシ其三倍ノ面積(一七、二五平方寸)ヲ以テたいらぎ一個ノ棲
 息上必要ナル地積ト見做シ(營養状態ノ良好ナル場所ニ於テハ自然状態ニアリテ地面ヲ塞ク體積
 ノ三倍ヲ以テ介介ノ蕃殖シ得ル面積ト見做スコトヲ得ルモノトス)此面積ヲ以テ一坪ノ面積ヲ除スル
 トキハ二〇八個ノ棲息アル計算トナルモ多少疎ナル部分モアリ又所ニヨリテハ死介ノ多キ場所等アルヲ以テ其約三
 分ノ一即チ七十個ヲ以テ一坪ニ對スル平均數ト推定セルナリ而シテ猶ホ此ノ濃密ナル蕃殖ヲナセル事實的ノ證據ト
 シテハ岡山縣下ニ行ハル、「たいらぎ掻」ヲ投ズルニ到ル處トシテたいらぎニ觸レザルナク且ツ其ノ爬牙ヲ泥中ニ
 突入セシメントスルモ爬牙ハ簇立セル「たいらぎ」ニ妨ケラレテ容易ニ之ヲ押入ル、コト能ハズ而シテ此漁具(幅
 二尺三寸)ヲ以テ約一尺ノ長サヲ掻キ起ストキハ毎回四個乃至十五六個ノたいらぎヲ漁獲セリ又該帶内ニ於ケル
 たいらぎハ概ネ七八年生ノ成介ニシテ幼介極メテ尠ク(寧ロ殆ソド無シ)且ツ他ノ粗帶ニ於ケルモノニ比シ發育不良

ニシテ肉柱ノ重量ノ如キ他ノ疎帶ニ於ケルモノハ平均十九匁ヲ有スルモ此帶内ニ於テハ平均十六匁ナリトス之レ蕃
 殖過多ノ結果營養ノ不充分ナルヲ證スルニアラザルナキ乎此他殼ノ側面ト縁邊ト相接シテ成育シタル結果殼ノ不正
 形ヲナセルモノ等アル事實ニヨリテモ其蕃殖ノ濃密ナルヲ推知シ得ルナリ

濃帶(別圖b) 前記最濃帶ニ比スレバ約二分ノ一ノ蕃殖ヲナセル處ニシテわかガヒト混棲シたいらぎハ壹坪
 ニ對シ平均參拾五個ノ棲息數アルモノト推定セリ而シテ次ニ記スル亞濃帶トノ境界ハ顯著ナラス且ツ文字ヲ以テ示ス
 ニ適當ノ目標ナキ爲メ茲ニ記サズ其ノ概形ヲ圖示セリ此帶内ニ於ケルたいらぎハ前記最濃帶ニ棲息スルモノニ比スレ
 バ蕃殖ノ稀薄ナル丈ケ發育良好ニシテ肉柱ノ如キ重量遙ニ多ク且ツ殼ノ發育モ亦タ良好ナリ

亞濃帶(別圖c) 其蕃殖ノ程度ニ於テハ前記ノ濃帶ト強テ區別スルヲ要セザルモ主トシテ一年生乃至四年生ノ
 幼介ノ蕃殖セル部分ニシテ五年以上ノ成介ハ稀ニ見ル處ナリ三四年後ニ至ラバ好漁場タルベキヲ信ズ
 年齢及成長度 たいらぎノ年齢ニ就テハ一年生ヨリ九年生マデノ標本ヲ採取スルコトヲ得タルモ六年以上ニ至リテハ
 成長線明瞭ナラズ爲メニ年齢ヲ明ニスルコト能ハズト雖モ最濃帶ニ於ケルたいらぎハ概テ六年以上ノ成介ニシテ八九
 年生ト思ハル、モノ最多チ占メ亞濃帶ニ於テハ概テ四年以内ノ幼介ナルガ如シ成長度ニ就テハ一年ヨリ四年マデハ發
 育最モ顯著ニシテ四年以上ニ至リテハ成長稍遲緩ナル傾キアリ而シテ一年ヨリ五年マテハ殼ハ長サヨリモ高サヲ増シ
 五年以後成長度ノ減ズルト共ニ殼ノ高サノ發育ハ漸次ニ減シテ長サニ發育ヲ増セル痕跡ヲ見ル又伊勢海產ト其殼ヲ比
 較スルニ全体ニ於テ伊勢海產ノモノニ比シ殼ノ發育甚ダシク劣レルヲ見ル之レ蕃殖夥多ノ結果ニ依ルナラン乎左ニ麗
 水海產ノたいらぎ成長度ヲ表示スベシ
 たいらぎノ成長度

| 事項 | 年齢 | 一年生 | 二年生 | 三年生 | 四年生 | 五年生 | 六年生 | 七年生 | 八年生 | 九年生 |
|----|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 体長 | | 二、九〇 | 三、一〇 | 三、七〇 | 四、一〇 | 四、七〇 | 五、一〇 | 五、七〇 | 六、一〇 | 六、七〇 |
| 体高 | | 一、二五 | 一、四〇 | 一、五〇 | 一、六〇 | 一、七〇 | 一、八〇 | 一、九〇 | 二、〇〇 | 二、一〇 |
| 体幅 | | 〇、四三 | 〇、五〇 | 〇、五五 | 〇、六〇 | 〇、六五 | 〇、七〇 | 〇、七五 | 〇、八〇 | 〇、八五 |

備考 大ナルモノハ体長一尺二寸体高六寸肉柱ノ重量六十匁ニ達スルモノアリ又伊勢海産ノモノニシテ本場ニ備フル標本ニハ体長一尺三寸七分体高七寸体幅三寸四分ニ達スルモノアリ

たいらぎノ大サト肉量トノ關係

| 長 | 幅 | 高 | 總重量 | 殻ヲ去リタル肉量 | 肉柱量 |
|------|------|------|-------|----------|------|
| 八、六〇 | 一、九〇 | 四、七〇 | 九〇、〇四 | 五四、〇 | 二〇、〇 |
| 九、七〇 | 一、七〇 | 四、六〇 | 八九、九二 | 四六、〇 | 一一、〇 |
| 九、三〇 | 一、五〇 | 四、五五 | 八九、九二 | 五〇、〇 | 一一、〇 |
| 八、九〇 | 一、八五 | 四、八〇 | 八九、九二 | 六〇、〇 | 一八、〇 |
| 八、九〇 | 一、七〇 | 四、四〇 | 八九、九四 | 五六、〇 | 一六、〇 |

漁場ノ位置地貌並ニ海運

麗水海灣ハ突山島及麗水半島ノ東岸ト南海島ノ西岸トノ間ニ成リ灣口ハ直径十三海里南東ニ開キテ外洋ニ連ル灣奥麗水半島ノ洛浦角ト其對岸トノ間ハ幅約一海里半ニ狹マリ更ニ開キテ光陽灣トナリ光陽灣ノ東口露梁海峽ヲ通テ普州

灣ニ入ルヲ得ベシ灣ノ東側ハ慶尙南道南海島ノ西岸ニシテ望雲山螺峯以里山等ノ峻峯起伏シ岸深ニシテ十尋線ハ近ク山麓ニ接スレドモ西湖洞徳月洞ノ如キ灣入ヲナス所ハ甚シキ淺床トナリテ全部干瀉ス灣ノ西側ハ全羅南道麗水半島及突山島ノ東岸ニシテ高山相連リ麗水海峽ニヨリテ獨莫洋ニ通ズ

沿岸ノ土性及樹木 農商務省農事試驗場調査朝鮮土性圖ニ依ルニ此地方ノ土質ハ片麻岩ニシテ陸地及山嶽ニハ密林ナク雜草ヲ以テ蔽ハレ稀ニ松楓等ノ老木ヲ散見シ雜木ノ所々ニ繁茂スルヲ見ル

海底 牛岩以北ハ西ヨリ東ニ向テ緩傾斜ヲナシ水深概ネ六七尋ヲ越エズ底盤ハ平坦ナレトモ南海島ノ徳月洞以南ノ沿岸ニ於テ急ニ深度ヲ増シ十三尋乃至十八尋ニ陥没シタル所アリ蓋シ潮流ノ急激ナル結果ニヨルモノナラン之レヨリ少シク沖ニ出テ小致島、老羅島附近ニ至レバ水深十四乃至十六尋トナリ世尊等附近ニテハ二十尋ニ達ス底質ハ灰綠色ヲナシ柔軟細微ナル粘土質ニシテ浮泥アリ

島嶼及岩礁 前ニ掲ゲタルたいらぎ、あかがひノ蕃殖區域附近ニ存在スル島嶼ハ甚ダ多シト雖モ漁場ト直接間係ナキモノハ頗チ避ケテ之レヲ擧グズ區域内ニ存在スルモノ、ミナ記スベシ

梧桐島 高一四六呎周一海里ノ小島ニシテ麗水港ノ直北ニアリ島ノ約半部ハ煙管ニ用ユル少竹密生シテ望見顯著ナリ羊岩 ハ梧桐島ノ東約二分一海里ニアリ大低潮ノ干出六尺ニ達スルモ高潮ニハ没シ所在明カナラズ航行ニハ注意ヲ要ス

牛岩 ハ突山島ノ北東岸約二分一海里ノ沖ニ在リ高サ一二呎ノ岩ニシテ屹立シ顯著ナリ日本型漁船ハ該岩ニ接シテ航行スルモ危險ナシ

渡瀬 數個連續セル洗岩ニシテ大潮ニ没ス
麗水半島ノ五萬里洞沖三分二海里ニ高十九尺ノ無名岩アリ黑色ニシテ沖合ヨリ望メバ顯著ナラスト雖モ漁場ノ目標ト

シテ必要ノ岩ナリ
 小致島 高二四八呎ノ巨岩ニシテ山嶺ニ雜草ヲ生ズ南海島五指岩崎ノ南二海里ニアリ
 老艦島 小致島ノ南東方三海里半ニアリ高八四呎ノ白色岩ナリ
 白島 ハ高一〇〇呎ノ白色岩ニシテ顯著ナリ老艦島ノ東方六海里ニアリ
 以上記スル所ハ水面上ニ露出シ若クハ露出セザルモ水面下數尺ヲ出デザル岩礁島嶼ヲ列舉シタルモノニシテあかがい
 たいらぎノ漁場ニ於テ漁業者ノ船位ヲ知ルニ最重要ナル目標ナリ而シテ此他ニ暗礁或ハ底礁等ハ全ク其存在ヲ認メ
 ズ

山嶽 漁場ノ目標トシテ重要ノモノ尠カラザルヲ以テ之ヲ摘録スベシ

望雲山 南海島西岸中部ニアリ高二六〇七呎島中第一ノ高山ニシテ山脈北東ニ走り盡頭二、〇三〇呎トナリ西潮洞ト
 雲與洞ノ間ニ至リテ海ニ没ス二峯共ニ漁場ノ好目標ナリ
 螺峯 南海島西岸ノ南西角ヲナス高サ一一〇一呎
 以里山 南海島南半部ノ南端ニアリ同島爲江灣ノ西壁ヲナス高サ一六〇七呎山脈西ニ走リ一四二二呎ノ高峯ヲ築キ其
 南麓ハ海ニ没ス
 此他麗水半島ノ東岸ニハ瓦洞ノ南ニ一四〇二呎五萬里洞ノ南ニ一五五九呎萬與洞ノ南ニ一二七七呎ノ高峯アリ共ニ漁
 場ノ好目標ヲナス

河川 沿岸小川ノ注グモノナキニアラザルモ雨期ヲ除キテハ常ニ水枯レテ水流ト稱スルニ足ルモノナク漁場ノ
 北方光陽灣ニハ蟻津江ノ注グアリ該河ハ水量甚ダ多シトナサズ且ツ其排水ハ概ネ晋州灣ニ出ヅルヲ以テ本漁場ニ及ボ
 ス影響ハ多カラズ

港灣 麗水半島ノ東岸ニハ沙浦(洛浦角)、赤洞、瓦洞、五萬里洞等アリ北ヨリ西ヲ經テ南西ニ至ル間ノ風浪ヲ避クル
 ニ適シ突山島ニハ堀前浦大端アリ東及南東ノ風ヲ除キテハ安全ナル泊地ナリ南海島ノ西岸螺峯ノ南麓ニアル小灣ハ東
 及北東ノ風浪ヲ避クルヲ得爲江灣ハ南西風ヲ除クハ各方位ノ風ヲ避クルニ足ル之等ノ諸浦ハ皆ナ不時ノ荒天ニ際スル
 假泊地トナストコロニシテ漁港トシテノ必要條件タル物資ノ供給飲料水ノ供給ニ至リテハ全ク之レヲ缺クリ本漁場ニ
 從漁スル漁船ノ漁港トシテハ麗水港ヲ以テ唯一ノモノトシ漁場ト麗水港トノ關係ハ最深ナルヲ以テ左ニ麗水港ノ
 概況ヲ記サン

麗水港ハ全羅南道麗水郡懸内面ニ屬シ麗水半島ノ南東角ニアリテ突山島ノ北端ト相對シテ幅二分一海里ノ水道ヲ形成
 シ水道ノ南口ハ觀莫洋ニ開キ其中央ニ將軍島アリテ南西ノ風浪ヲ保障シ東口ハ麗水海灣ニ開ク港ノ西隅ハ深ク灣入ス
 ルモ干瀆地ニシテ用ヲナサズ大吃水船ノ錨地ハ其水道内ニアリ水深二尋乃至八尋潮流急ニ失スルノ嫌アルモ打瀬漁船
 ノ如キ小舟ニアリテハ麗水市街地ノ海岸ニ錨船スルコトヲ得ルガ故ニ影響ヲ受クルコト尠シ然レドモ漁船ノ碇繫地ハ
 市街ノ約五丁ノ鐘浦ヲ便トス

麗水港ハ五六年前迄ハ左水營ト稱セラレタル地ニシテ現今内地人ノ居住スルモノ五十餘戸朝鮮人戸數百餘戸ヲ有スル
 一市街ニシテ全羅南道東方地方ニ於ケル物資ノ中繼港トシテ近時著シク内地商賈ノ發展ヲ致セル地ナリ各種ノ物品販
 賣業ハ勿論公共機關トシテハ朝鮮水産組合支部、農工銀行、金融組合、學校組合アリ官衙ハ麗水郡廳、郵便局、警察
 署アリ其他學校、魚市場アリ運輸交通ノ機關トシテ海路ハ朝鮮郵船株式會社ノ釜山麗水線(一日一回着發)麗水木浦間
 外廻線(四日毎一回着發)釜山木浦間外廻線(一週一回)釜山筏橋線(三日一回着發)ノ汽船便アリ陸路ハ道廳所在地
 光州ニ達スル國道開ケ順天邑ニ至ル(八里)間ハ馬車及人車ヲ通ズ
 鐘浦ハ麗水本港ノ東約五丁ニアル小灣ニシテ朝鮮人ノ漁村ナリ全村二十戸内外ノ貧村ナレドモ其地勢小舟ノ碇繫ニ適

シ朝鮮水産組合ノ經營ニヨリ同浦ノ西岸ニ八百餘坪ノ埋立地アリ此近海ニ於ケル鱧漁業者ノ根據地トシテ漁舍漁具庫貯水所等ノ建築工事中ニシテ東岸ニハ山口縣水産組合ノ賣收地アリ兒嶋養貝合資會社ハ此地ヲトシテ罐詰製造工場ヲ設立シ本漁場ニ産スル介類ノ罐詰事業ヲ開始シテ介漁業ニ從事スルモノ、ミナラス一般漁業者ノ根據地トシテ適當ノ地ナリトス

潮汐 麗水海灣ノ潮流ハ滿潮ハ南海島ノ南岸ニ沿フテ來リ一派ハ北ニ向ヒテ光陽灣ニ入り一派ハ西ニ向ヒテ麗水道ニ入り駕莫洋ニ注グ沖合ニ於テハ西ニ流レテ金鰲列島ニ向フ干潮ノ方向ハ之レニ反ス速度ハ南海島ノ南端螺峰一四二二高地ノ沿岸最モ急ニシテ二節内外ノ速度ヲ有シ更ニ洛浦角附近ニ於テハ一層急激ニシテ三節内外ニ達ス潮沙ノ干滿ハ大潮時十五尺内外ナリ

風 十月ヨリ三月マテハ北西風及西風最モ多ク打瀬漁業ニハ日々適良ノ吹勢アリ往々北東風ヲ交エルコトアリ四月及九月ハ風向區々ナレトモ偏東風稍多ク五月ヨリ八月マテハ南風最多ニシテ東風之ニ亞ク

雨雪霧 十月ヨリ三月マテハ降雨殆ントナク七月八月ハ甚タ多シ霧ハ四月ニ始リ六七月ニハ濃霧襲來シテ數日霽レザルコトアリ雪ハ殆ント之ヲ見ズ

沿岸ノ漁村浦 漁場沿岸ニ於ケル漁村及漁業人口等左ノ如シ
 突山島東海岸(巨摩角ヨリ麗水對岸ニ至ル間ノ沿岸)

| 村名 | 總戶數 | 漁業者數 | 漁船數 | 漁業種別 |
|-----|-----|------|-----|--------------------------|
| 大栗里 | 三二 | 二〇 | 二 | 一本釣一雙、手操網一隻 |
| 小栗里 | 二五 | 二〇 | 七 | 延繩二隻、一本釣二隻、手操網一隻 舉網二隻 |

| 村名 | 總戶數 | 漁業者數 | 漁船數 | 漁業種別 |
|-----|-----|------|-----|-------------------------------|
| 鳳林里 | 四五 | 三〇 | 五 | 一本釣三隻、手操二隻 |
| 竹團里 | 一五六 | 二五 | 四 | 一本釣二隻、手操網二隻 |
| 昇白里 | 二〇 | 五 | 一 | 全 |
| 徳里 | 二九 | 二 | 一 | 全 |
| 瑞基里 | 六九 | 一〇 | 一 | 全 |
| 當田里 | 一三三 | 二五 | 五 | 一本釣二隻、手操網三隻 |
| 桂洞 | 二〇 | 五 | 三 | 一本釣二隻、手操網一隻 |
| 月岩洞 | 三〇 | 五 | 三 | 延繩二隻、手操網一隻 |
| 堀美里 | 一九 | 一〇 | 三 | 延繩二隻、建干網一隻 |
| 右斗里 | 八八 | 五五 | 一〇 | 延繩三隻、一本釣四隻、手操網三隻 |
| 計 | 六六一 | 二二二 | 四二 | 延繩九隻、一本釣十六隻、手操網十四隻、舉網二隻、建干網一隻 |

麗水半島東海岸

| 村名 | 總戶數 | 漁業者數 | 漁船數 | 漁業種別 |
|-----|-----|------|-----|------|
| 萬中里 | 一三三 | 二 | 一 | 不詳 |
| 徳里 | 七八五 | 二 | 一 | 全 |
| 新浦里 | 八二一 | 一〇 | 二 | 全 |

| | | | |
|---|-------|----|---|
| 毛 | 一〇四八 | 三六 | 四 |
| 計 | 一、四八三 | 五〇 | 八 |
| | 二七五 | | 全 |
| | | | 全 |

あかがひ及たいらぎ漁具

前年度未本場が麗水海灣ニ於テあかがひ及たいらぎノ非常ニ蕃殖スルヲ探知シタル以來頓ニ世人ノ注意ヲ惹起シ本年
 度ハ漁期ニ至ルヤ本縣ヨリ介桁打瀬九隻岡山縣ヨリたいらぎ七隻此他熊本、岡山兩縣ヨリ介桁打瀬各一隻ノ出漁ヲ
 見ルニ至リタルガ介桁(万牙)ハ何レモあかがひ捕獲用ノモノナルヲ以テ勿論あかがひニハ適當ナルモたいらぎニ向ッ
 テハ漁獲ノ能力甚ダ鈍ク且貝ヲ傷クル事多シ又岡山縣ノたいらぎ捕獲ハ水深十尋以内ノ淺所ニ於テノミ行ハレ深所ニ
 テハ全ク効果ヲ奏セズ兩者共ニ欠点少カラズ漁具改良ノ必要ヲ認メタルモ左ニ其構造使用法ヲ記シ參考ニ供ス

介 桁

本漁具ハ爬牙ヲ以テ泥中ニ潜伏スル介類ヲ掻キ起シ爬牙ノ後方ニ備フル囊中ニ之ヲ掬ヒ入ル、趨向ノ器具ニテ普通打
 瀬網ノ如ク船ヲ横タヘ風力及潮流ヲ利用シテ海底ヲ引廻スモノナリ本場及本縣出漁者並ニ熊本、岡山兩縣當業者ノ使
 用セルモノノ構造相等シク左ニ記スルモノハ本縣ノモノニヨル
 漁具ノ構造

構造ノ主要部分ハ爬牙、臺、桁、支柱、沈石、囊、結付紐、股網、曳網ヨリ成ル

爬牙 臺ニ櫛ノ齒ノ並ビタルガ如ク嵌ラレ泥中ヲ梳キ來リテ介類ヲ掻キ起ス用ヲナス鐵製ニシテ長一尺二寸前端尖

リテ二寸斗リ下方ニ曲ル大ヤハ根元ニテ巾厚各四分アレトモ屈曲部ニ至レバ巾ハ一分ニ減ズ爬牙ノ數ハ一定セス巾巾
 十尺内外ノ漁船ニテ使用スルモノハ一具ニ二十五本乃至二十七本ヲ備ヘ肩巾十二三尺用ノモノニアリテハ三十本乃至
 三十二本ヲ備フ内法一寸七分間隔ニ鐵製ノ臺ニ燒嵌メトナス

臺 爬牙ヲ保チ袋ノ下側網ノ口縁ヲ取付タル材ナリ一寸五分角長ヤハ爬牙ノ數ニヨリ一定セズ即チ二十五本ノモノニ
 アリテハ五尺五寸三十本ノモノニアリテハ六尺五寸ナリ爬牙ハ其根部ヲ臺材ノ中部ニ貫キ後面ニ出ダタル先端ハ打
 曲クテ臺材ニ打チ込ム

桁 袋ノ上側網ノ口縁ヲ取付ケ臺ト相俟ツテ袋口ヲ開張セシムルノ用ニ供セラル、材ニシテ松、杉、檜等ノ圓材經一
 寸二分乃至一寸六分長ヤハ臺ト全ク

支柱 臺ノ兩端ニ立チ桁ト臺トノ間隔ヲ保ツモノニアテ製シ高九寸巾三寸トス但中部沈石ヲ縛リ付クベキ所ハ特
 ニ巾ヲ六寸トス

沈石 卵形ニシテ底部即チ支柱ノ面ト接スル所ハ平面トナセリ高九寸五分經最大部六寸底面四寸ニシテ一個ノ重量五
 貫五百匁乃至六貫匁左右ニ各一個ヲ備フ之ヲ支柱ニ取付クルニハ藁繩ヲ以テ「タワシ」ノ如キモノヲ作り支柱ト石トノ
 間ニ狹ミテ兩者ノ添ヒテ良クシ亞鉛線ヲ以テ石ノ動カザル様固縛ス

囊 南京麻ニ子撚徑一分二三厘ノ網糸ヲ以テ一寸二分目三十掛編卸シ三尋ヲ折返シ兩縁ヲ卷キ縫シテ囊トナス面シテ
 其ノ下側網ノ下面ニハ下擦レトシテ亞鉛線製川崎式漁網ヲ附着シテ破損ヲ豫防セリ此金網ハ折疊自在ナルヲ以テ下擦
 網トシテハ最モ適當ノモノナリ

結付紐 南京麻網經二分五厘沈石ヲ縛リ付ケ且ツ其傾斜度ヲ加減スルニ用ユ

股網 藁製三子打徑一寸又ハ一寸五分長六尋ヲ折返シ兩端ヲ左右沈石ノ頂部ニ設ケタル「ストロップ」ニ結付ス多クハ

打瀬網ノ曳網ノ古品ヲ用フ

史綱 南京麻製徑六分

使用方法

漁船 本漁業ハ打瀬網漁業者ノ赤介漁期ニ際シテ營ムモノナルカ故ニ漁船ハ打瀬網ヲ使用スル漁船ト同一ノモノナリ
木造日本型漁船「スクーナー」型帆裝(后帆ハ支那帆ヲ用フ)ニシテ船体ハ大ナルダケ漁具ノ數ヲ多ク取扱フ從テ其漁獲
モ多シ普通行ハル、漁船ハ肩巾十尺ヨリ十四尺内外ニシテ稀ニ十七尺ニ達スル大形船ヲ以テ營ムモノナキアラザル
モ船体大ニシテ多數ノ漁獲ヲ取扱フ丈ク乗組人員ヲ増加セザルベカラザルガ故ニ漁業經濟上ニ於テ大形船ガ必ズシモ
得策ナリトナス能ハズ最モ廣ク行ハル、者ハ肩巾十二三尺ノ漁船ニシテ一隻ニ介桁十二挺ヲ積載ス積載ノ方法ハ左舷
甲板上ノ胴部ヨリ舳部マデニ六挺ヲ船舷ニ沿ヒ一挺宛併列シ他ノ六挺ハ右舷甲板上胴梁ト前檣トノ間ニ二挺ヅ、舷側
ニ併列シ各具ニ付屬セル曳網ハ輪形ニ整頓シテ桁網ノ上ニ置ク而シテ船体左舷ノ小縁ニハ「ビレーンピン」ヲ以テ曳網
ヲ留ムルニ便ズル爲メ適度ノ場所ニ穴ヲ設ケ巻揚器ハ「ハンドウキンチ」ニ挺ヲ備フ其一挺ハ正横ヨリ取り上グルモ
ノ、爲メニ一挺ハ舳部ヨリ取り上グルモノ、爲メニス航走ニ際シテハ船体傾斜スルコトアルモ介桁ノ轉落スルコトナ
キ様附屬ノ曳網ヲ以テ固縛シ置ク乗組人員ハ四人トス

投下法 漁場ニ達スレバ左舷正横ヨリ風ヲ受クル様船位ヲ保チテ帆ヲ卸シ船体ヲ風ト潮トニ横流セシム此時乗組員ハ
二人宛一組トナリテ船体ノ前後ニ別レ兩端ノ漁具ヨリ同時ニ投下シ順次中央ノモノニ及ビ曳網ハ投下シタル漁具ノ海
底ニ達シテヨリ船体ノ流レ行クニ從ヒ適宜ニ延長ス斯クテ投下シ終レバ帆ト曳網トノ伸縮トニヨリテ船体ノ流速ヲ加
減シ風力充分ナル時ハ曳網ヲ水深ノ三倍迄延長ス但シ曳網ハ兩端ニ至ルニ從テ多ク延バシ最外端ノモノハ中央ノモノ
ヨリモ約三割ヲ増加ス引曳中風力衰ヘ全帆ヲ揚グルモ速力不足ノ場合ハ漸次ニ曳網ヲ縮メ續ホ足ラザル時ハ中央ヨリ

次第ニ一個宛ヲ取り上グ總テ漁具ノ投下曳網ノ延長取扱等ハ船体ノ前後共ニ同時又ハ交替ニ行ヒ漁具ノ船体ニ及ボス
抵抗力ヲ均一ナラシムル事肝要ナリ

取揚法 漁具ノ取入レハ中央ノモノヨリ始メ「ウキンチ」ニテ巻上ゲ股網ト引網トノ接合部マデ巻キ詰ムレバ股網ヲ手
操リ爬牙ヲ外方ニ向クル爲メニ設ケタル「ヒツクリカヘシ」網(臺ノ兩端ニ取リ付ケタル網ニシテ其一端ハ各股網ニ結
付ス)ヲ持チ股網ヲ放セバ介桁ハ逆ニ返リテ爬牙外方ニ向クヲ以テ其時之レモ甲板上ニ引上ケ囊ハ別ニ「ストロツア」
ヲ掛ケ前檣ト後檣トニ設ケタル「フヰツシテークル」ニテ巻キ揚ケ船内ニ取入ル

た い ら ぎ 搔

本漁具ハ專ラ岡山縣下ニ行ハル、漁具ニシテ五分角長二尺五寸ノ鐵棒ニ上方ニ灣曲セル爬牙十二本ヲ二寸間隔ニ植エ
其後面ニ亞鉛鍍ノ鐵線ニテ造リ口ノ形狀稍長キ半圓形ヲナセル金網籠ヲ附ス柄ハ下方六尺ハ徑六分ノ鐵棒ニシテ下端
ハ爬牙ヲ附セル鐵棒ノ中央ニ取付ク其上方ハ水深ニ應ジ適宜ノ長サニ鐵棒(壹寸二分角ニシテ一本ノ長三尋乃至二尋)
ヲ繼ギ合セ使用ス漁法ハ肩巾五尺ノ漁船ニ漁夫二人乗組ミ一人ハ船艙ヲ探リテ船ヲ潮流ニ横ヘ(風強キトキハ船体ヲ
風ニ向ハシム)一人ハ舳部ニ立チテ漁具ヲ海底ニ下シ其柄ニ受クル潮ノ抵抗ト船体ノ横流トニヨリテ潮上ヨリ潮下ニ
海底ヲ搔キ進ミ介アルトキハ爬牙ト介トノ摩レニヨリテ一種ノ音響ヲ聽取スルコトヲ得且ツ手答ヘアルヲ以テ此時漁
具ヲ海底ニ突キ入レ介系ヲ切り拘ヒ上グ柄ヲ手操リテ籠ノ内ニ留レルモノ又ハ爬牙ニ貫カレ懸リ來レルモノヲ收ム
以上ノ漁具ハ目下朝鮮海ニ於テ使用セラル、モノナリ此他内地ニ行ハル、たいらぎ漁具數種アリト雖モ見ルベキモノ
少シ左ニ岡山縣兒嶋郡小串村ニテ使用スルたいらぎ漕網ノ構造使用法ヲ記シ參考ニ供セントス

漁具ノ構造

用尺ハ曲尺トシ網目節數ハ其一尺間ノモノトス
 上側網 綿糸三子撚六十本合一寸六分目二十掛編卸シ長五尺五寸
 下側網 直徑約一分ノ亞鉛鍍針金ヲ以テ製セシ鎖網ヲ用フ目合ハ囊口ヲ大ニシテ五寸目トシ囊尻ニ進ムニ從ヒ細目トナシ其末端ハ三寸目トス而シテ其編卸シノ巾及長サハ下側網ト同様ナリ
 「ヒワチ」 上側網ト同様ノモノニシテ十目掛ニ始マリ漸次落目シ長サ一尺三寸ニ至リテ一目ニ終ル
 袖 上方ハ糸網製ニシテ五目掛下方ハ鎖ニシテ二目掛編卸シ長各一尋トス
 浮子 桐製長八寸ノモノ總數五個ヲ用ヒ内一個ヲ囊口ノ中央ニ他ノ四個ヲ袋脇ト袖先キトニ一個ヅ、ニ配着ス
 沈子 別ニ沈子ナシ徑三分ノ鐵鎖製沈子網ヲ以テ兼用ス長三尋トス
 起シ 鐵鎖長二尋二尺ノモノニシテ張竹取付部ノ左右ニ括付シ沈子網ニ先テ海底ヲ搔キ起スモノナリ
 張リ 袖網ヲ開張スルモノニシテ鐵鎖二分五厘徑ノ丸棒長八寸ヲ袖端ニ又長一尺ノモノヲ袖ノ中央部ニ附スルモノトス
 張竹 長二尋徑一寸五分
 股網 藁製徑八分長十二尋ノモノナニツ折トシテ用フ
 漕綱 藁製徑八分長十五尋乃至二十尋ヲ備フ
 漁船 肩巾五尺四寸ノモノ一隻
 漁法 漁夫二人乗組ミ晝間出漁ス曳網ハ表船梁ニ結付シ更ニ之レヲ腰當ノ船梁ニ支ヘ漁具ヲ投入シ潮下ニ向ヒ轉リ漕ギテ引曳ス曳網ノ延長ハ乗組員ノ腕力ノ強弱ニヨリ長短アレドモ普通二十尋トス而シテ使用回数ハ一朝二十回位宛ニシテ一日二十四回ニ及ビ小潮時ニ漁利多シ豊年ニアリテハ使網一回ニ對シたいらぎ三十個ヲ獲ル事アリ
 漁期 一月ヨリ向フニヶ月間

漁場 泥底又ハ小石場ニシテ水深五尋以上八尋トス

あかがひ、たいらぎノ販路及需要狀況

麗水海灣ニ於ケルあかがひ及たいらぎノ漁場ハ面積廣大ニシテ蕃殖ノ夥多ナルコト前述ノ如クナレバ之レガ開拓ナ計ルト同時ニ販路ヲ開キ利用ノ途ヲ講スルハ縣下當業者ノ出漁獎勵上最モ急要ノ事ニ屬ス依テ本年度ノ試驗ニ就テハ大ニ此点ニ注意シタリト雖モ元來介類ハ一般魚類ニ比スレバ生鮮ノ儘食料ニ供セラル、範圍頗ル狭ク殊ニあかがひノ如キハ日本内地ニ於テモ主ニ都會ノ割烹店ニテ需要セラル、ニ過ギズ總菜料理トシテ一般家庭ノ食膳ニ供セラル、ハ甚ダ僅少ナルヲ以テ多量ノ供給アル場合著シク相場ノ下落ヲ告グルハ免レ難キ所ナリ殊ニ又朝鮮ノ如キ鮮魚ノ供給潤澤ナル地方ニアリテ需要ノ僅少ナルハ全ク止ムヲ得ザル所ナリたいらぎモ一般ノ嗜好ニ適シ家庭料理トシテ用ヒラハ、モノ少カラザルガ如キモ之レ亦々鮮魚ノ壓倒ト蒙ルコト多ク且ツあかがひノ如ク久シキ貯藏ニ耐エザルガ故ニ供給多キニ過グレハ忽チ價格ノ暴落ヲ來スニ至ル依テ大部分ハ之ヲ罐詰又ハ乾介等ノ製品トナシテ販路ヲ求ムルノ外差當リ別ニ良策ナキガ如シト雖モ本漁業ノ發展ヲ確實ナラシメンニハ尙ホ幾多ノ研究調査ヲ要ス左ニ本年度ニ於ケル販路及試賣ノ概況ヲ記スヘシ

あかがひ
 麗水海灣ニ産スルあかがひハ其ノ種類東京灣、伊勢海等ニ産スルモノト同様ノモノニシテ產地ニ於テ之レヲ觀之テ味ハ相異アルヲ感セズト雖モ之レヲ東京、大阪方面ニ送致シテ商賣ノ品評評價ヲ需メタルニ肉量、香味、色澤共ニ劣等ニシテ内地産ニ匹敵セズト云ヘリ然レドモ此品評ハ輸送ニ日數ヲ要シタル爲メ水分乾燥シテ肉面皺裂ヲ生シ色澤褪セ且ツ七八年生ノ老介ヲ多ク出シタル爲メナルガ如カリキ元來東京ニ於テハ東京灣産ヲ大阪ニテハ播州産ヲ本場物ト

唱へ廣嶋、三重、愛知地方ノモノヲ場達ヒト稱シテ二等品トナスモ皆ナ種類品質ノ劣レルニアラズシテ漁獲後市場ニ現ハル、マアノ日數ニヨリ品位ヲ定メタルモノナレバ一概ニ麗水産ノわかガハ品質劣等ノモノトハ言ヒ得ザルナリ知ラズシテ之レヲ觀之ヲ味フニ於テハ取り立テ、論ズル程優劣アルヲ認メザルナリ

朝鮮魚市場ニわかガハ見ルニ至リタルハ昨四十四年本場試験漁船ノ漁獲物ヲ試賣シタルヲ以テ嚆矢トシ當時ハ供給量ノ少カリシ爲メ京城、仁川、龍山等ニ於テハ珍珠トシテ一個七八錢ノ高値ニ賣行キタリシモ本年ハ縣下業者ノ出漁船九隻ニ達シ日々一萬二三千個ノ漁獲アリシカバ之レヲ各地ノ魚市場ニ分割販賣セシニ各地ヲ通リ市場賣上相場ハ一個最低一錢最高七錢ノ間ニ在リテ内地ニ劣ラザル高價ヲ示セリト雖モ如何セン汽車汽船ノ運賃高率ナル爲メ支出嵩ミテ結局ノ收益僅少ナリシハ遺憾ニ堪ヘザルトコロナリ尙東京、大阪方面ヘノ輸出ニ就テハ前述ノ如ク七八年生ノ老員ニ對シテハ品質劣レリトノ品評ヲ得タルモ五年内外ノ成介ニ就テハ内地産ト大差ナキ評價ヲ得運賃ノ如キモ朝鮮内ニ比スレバ遙ニ低廉ニシテ原産地ヨリ京城ニ至ルモノト東京ニ至ルモノト大差ナキ有様ナルモ東京、大阪方面ニ於テハ内地産ノ集荷多量ニシテ價格却テ低廉ナレバ漸ク其運賃荷造費ヲ償フニ過ギザル有様ナリキ而シテ又鮮人間ニ於ケル需要ノ有無ヲ見ルニ元來朝鮮人ハわさり、かさ、いのかい等介類ノ嗜好甚ダ深ク不廉ノ價ヲ拂フテ嗜食スト雖モわかガハノ如キ水深キ場所ニ棲息スル介類ハ從來之レガ漁法ヲ從テ食味ヲ知ラザレバ之レニ價ヲ拂フモノナキモノ、如シ

之レヲ要スルニあかがいハ生鮮ノ儘需要セラレ、範圍上記ノ如ク未ダ甚ダ狭小ナルヲ以テ之レガ販賣ニ就テハ尙幾多ノ研究ヲ要スベシサレバ荷造輸出ノ方法ヲ講究シ運賃其ノ他ノ費ヲ減ジテ實收入ノ増加ヲ圖ルコト必要ナルト共ニ多數ノ漁船ヲ見ルニ至リ漁獲増加スルニ及ンテハ其ノ大部分ハ之ヲ罐詰等ニ製造スルノ途ヲ講スルコト必要ナルベシナラシキ

朝鮮沿岸ニ於テたいらぎノ漁獲セラレ且其市場ニ上リタルハわかガハト同シク昨四十四年本場試験船ノ漁獲物ヲ販賣シタルヲ以テ始メトス從テ朝鮮各市場ニ於ケル賣行ノ狀況ハわかガハト異ナル事ナキヲ以テ重ネテ茲ニ記サスト雖トモ前ニモ述ヘタル如クあかがいは比スレバ家庭向ノ需要幾分カ多ク原産地ヨリ剝身トシ或ハ肉柱ノミトナシテ市場ニ送致販賣スルニ賣行良好ナル傾キアリト雖モ鮮魚ノ出廻ノ多キ場台ハ之カ影響ヲ受ケ價格ノ下落ヲ來シ生鮮ノマ、消費セラル、數量ハ僅少ノ額ニ過ギザルヲ知レ、依テ大部分ハ罐詰乾介等ノ製造ニ供スルノ外他ニ途ナキヲ認メ切リニ製造業者ノ企業ヲ促シタル結果岡山縣兒島養員合資會社ハ本漁業ノ有望ナルヲ認メ直ニ製造工場ヲ麗水港鎮浦ニ新設シテたいらぎ罐詰ノ製造ヲ開始スルニ至リタレバ漁獲物ノ處分ニ關シテハ遺憾ナキニ至レリ兒島養員合資會社ニ於テたいらぎ罐詰ノ製造ヲ開始シタルハ本漁業ノ啓發上有力ナル後援ニシテ且同社ニテハ該漁場ニ産スルたいらぎ并ニわかガハニ付キ利用方法ヲ攻究シ之レガ販路ヲ開カンコトニ意ヲ注ギ各種ノ製品ニ付キ鋭意研究中ナレバ全社ノ罐詰經營ノ將來ハ大ニ注目スヘキナリトス

本年度出漁船ノ漁業成績

本年二月末麗水海灣ニたいらぎ、わかガハノ蕃殖夥多ナル漁場ヲ探知シタルモ本漁業ハ未タ漁獲物處理販賣ノ見込確立セズ直ニ之レヲ業者ニ獎勵スルノ涉ビニ至ラザリキ然レドモ縣下ノ業者ニシテ本漁業ノ有望ナルヲ聞知シ新ニ漁船ヲ續シ出漁セルモノ俄ニ九隻ニ達シ此等ノ業者ハ十月下旬乃至十一月中旬ニ麗水近海ニ到着シ直ニ同漁ニ着手ス業ハ豫定ナリシカ當時同地方ハ季節風タル偏西風ノ卓越スル時季ニシテ本漁業ニハ最モ適當ノ時季ナルモ本年ハ風力甚ダ軟弱ニシテ介析漁業ノ如キ大ニ風力ヲ要スル漁業ニハ適良ノ風勢アル日少カリシト漁獲物處理ノ方法未ダ確立セザル爲メ羅老列島ト金齋列島間ノ漁場ニテ打瀬網漁業ニ從漁シ十二月末ニ至ルマデ麗水魚市場ニ漁獲物ヲ售賣セ

由來朝鮮南岸ニ於ケル打潮網漁業ハ釜山港ヲ中心トシテ東ハ迎日灣西ハ金鰲列島以東ヲ漁場ノ範圍トシ金鰲列島以西ノ海ニ於テハ漁獲物ノ售賣機關備ハラザルト水深二十尋ヲ越ユル所ナキ淺海ニシテ冬季水温ノ低下ニ伴ヒ魚族沖合ニ退去シテ漁獲ナキニ至ルノ故ヲ以テ從來打潮網漁業者ノ此ノ方面ニ出漁スルモノナク往年一月中旬本場試験漁船ガ打潮網漁場調査ノ爲メ該海區ニ本漁業ヲ試ミタル當時モ漁獲物ハムダ類ノミニシテひらめ、かれいノ類ハ殆ド皆無ノ状態ニテ價值ナキ漁場ト認メタリシニ本年當業者ノ從漁シタル成績ヲ見ルニ十一月、十二月頃ノ氣候ニ於テハひらめ、かれい、こち、したひらめ、いしもち、しばゑび、たい等ノ漁獲頗ル多ク、一漁船ノ漁獲高一ヶ月百四十圓乃至二百圓ニ達シ釜山ヲ根據トスル漁船ニ比シ優ルトモ劣ルコトナキ優良ノ成績ヲ擧ゲ本漁業ノ新生面ヲ開クニ至レリ朝鮮南沿岸ノ如キ淺クシテ平坦ナル泥底ノ海區ニシテ打潮網、手操網等ノ漁具ニアラザレバ漁獲シ能ハザル底棲魚類營ヘバひらめ、かれい、したひらめ、こち等ノ魚族ニ富ム所ニ於テ如斯打潮網漁業ノ發展ヲ來セルハ彼我兩海ノ事情ニ鑑ミ慶スベキ事ナリトス又冬季間麗水魚市場ニ於ケル打潮網漁獲物ノ販路ヲ觀ルニたい、ゑびまなかつ等ノ外ハ悉ク皆地方鮮人間ニ消費セラレ順天、筏橋、夫陽、河東方面ヨリ出買商人常ニ群集シ需要ノ多キコト全ク想像ノ外ニアリキ

越テ一月ニアリテハ氣温ノ低下ニ從ヒ漁場ハ所里島南部以東欲知島沖合ノ深所ニ移リ風位ノ關係上漁場ト市場間ノ往復航海ニ多クノ時間ヲ要スルニ至リタルト共ニ當月ヨリハ風力モ加ハリ又たいらさ儲詰工場モ新設セラル、コト、ナリ漁獲物處理ノ方法モ茲ニ一部確立シタルヲ以テ各船ハ介漁業ニ從事シ四月末乃至五月中旬マテ麗水港鐘浦ヲ根據地トシテ引續キ從漁セリ

本年度ハ前述ノ如ク需要販路ノ狀況未ダ分明スルニ至ラザルニ突然縣下ノ出漁者ノ増加ニヨリ急遽製造家ノ起業ヲ見ルニ至リタル有様ニシテ充分當業者ニ満足ナ與フルコト能ハザリシノミナラズ比年稀レナル微風靜寧ノ好天打潮網漁業ノ爲メ出漁日數モ尠カリシ等ノ事情ニヨリ收穫金ハ豫想ノ如ク少ク數上ラズ漁船一隻一ヶ月ノ漁獲高百四十圓内外ニシテ一般打潮網漁業ノ盛漁期ニ於ケル收穫ト大差ナキ結果ニ過ギザリシハ深ク遺憾トスル所ナリ然リト雖トモ本漁業ニ從事シタル漁業者ハ漁場ニ於ケルわが、たいらさノ蕃殖夥多ナルニ垂涎シ又該地方ニ於ケル打潮網漁業及ヒ鮫鱈網漁業等ノ有望ナル狀況ヲ實地ニ目撃シ移住ノ經營ヲナスニ好適ノ地ナルヲ認メ往年釜山港ニ移住シタル打潮網漁業者ノ全部ヲ擧ゲテ介漁業ノ根據地トナセル鐘浦ニ移住スルニ至リ本年始メテ出漁シタルモノモ來ルベキ漁期マテニハ此ノ地ニ移住スルノ希望ヲ以テ歸還シタルハ本試驗ノ目的ヲ達シ得タルモノト稱スルヲ得ベキナリ

結 論

以上述ヘ來レル麗水海灣ノわが及たいらさ漁業ハ未ダ其ノ開拓半途ニシテ漁獲ノ方法漁獲物ノ處理方法等今後研究ヲ要スル事項多ク今日直ニ基礎ノ確立セル漁業トナス能ハサルモ縣下當業者ニシテ本年此漁業ニ從事シ又ハ實況ヲ目撃シタルモノハ皆此漁場ノ有望ナルニ矚目シ彼地ニ移住シテ本漁業ニ從事セントスルモノ續出スルニ至リ中ニハ既ニ土地家屋ノ購入ヲ了シタルモノ等アルニ至リタルハ聊カ慶ブベキ事實ナリト雖モ當業者ノ經濟上ヨリ仔細ニ之レヲ觀レバ將來施設研究ヲ要スル事項甚ダ多シ然レドモ今後起ルベキ問題ハ直接本場ノ行フベキコト尠ク特ニ現地ニ出船シテ試驗スルマデモナキコトナレバ本試驗ハ本年度限り之レヲ閉鎖スルコト、ナセリ終リニ本漁業ノ將來ニ付キ施設研究ヲ必要トスル主ナル事項ニ付キ茲ニ聊カ私見ヲ述ベテ本報告綱筆セントス

一、漁場保護ノ方法ヲ設定スルコト

麗水海灣ニ於ケルわかひ、たいらぎノ漁場ハ幾十年以來之レガ漁獲ヲナスモノナカリシ結果如斯非常ナル蕃殖ヲ遂ゲタルモノナルガ其蕃殖ノ多大ナルヲ頼ミ漁獲者ノ自由ニ任セテハ諸漁ノ弊ニ陥リ幾年ナラズシテ漁場ノ涸渇ヲ來スヤ疑ナク適當ナル蕃殖保護ノ方法ヲ設ケ漁業ノ永續ヲ圖ル必要アルヤ論ナキコトナリ蕃殖保護ノ方法トシテ必要ノ事項ハ種々アルベシト雖モ左ニ最モ必要ナリト思フモノ二三ヲ述ベ參考ニ供スベシ

漁場ノ權利ヲ附與スルコト 漁場ヲ保護シ目的物ノ自然蕃殖ヲ扶ケンガ爲メ規則ヲ以テ取締ノ方法ヲ講ズルノ必要ナルコト茲ニ論ズルノ要ナシ然レドモ規則ノ眞ニ勵行セラレハ、ヤ否ヤハ一ニ當業者ノ精神ニ依ルモノナリサレバ介漁業ヲシテ漁場ノ沿岸ニ於ケル各漁村民獨占ノ事業ヲラシメ當業者ヲシテ漁場ヲ愛護シ蕃殖ヲ計ルノ精神ヲ以テ漁業ニ從事セシムルハ該漁ノ永續ヲ圖ルニ最善ノ策ナリトス本漁業ノ如キハ今漸ク開發ノ緒ニ就キタルモノニシテ且ツ漁場モ廣ク蕃殖モ夥多ナルモノナレバ今日ヨリ制限又ハ禁止ヲ設クルノ必要ナク又一部分ノ當業者ヲシテ之ヲ獨占セシムルハ公益上考量ヲ要スル問題ナリトスルノ論ナキニアラザルモ此際斷然タル處置ニ出ヅ漁場ノ權利ヲ附與スルニ於テハ當業者ハ之レヲ自己ノ財產トシテ之レヲ愛護スルガ故ニ漁場保護上必要ノ規則ハ自ラ勵行セラレ又規則ヲ以テ取締ヲナシ難キ事項譬ヘハ輪番採集漁場内ニ介般其他ノ蕃殖妨害物ノ投棄ヲ禁ズルコトノ如キ微細ノ點マデモ注意シテ善良ノ方法ヲ講ゼラルベシ而シテ又本漁業ニ從事スルモノ、同業組合ヲ設ケ蕃殖保護ノ方法ヲ講ズベキヲ論ズルモノアリ有理由ノ議論ナリト雖モ如斯機關ヲ以テ規則ヲ勵行シ不正行爲者ノ取締ヲナサントスルニハ砂カラザル費用ヲ要シ徒ニ當業者ノ負擔ヲ重カラシムルモ効果容易ニ上ラザルノ嫌ナキ能ハズ

漁具ノ制限 將來漁業ノ開發ニ伴ヒ幼介ヲ捕獲スルモノ又ハ徒ニ傷害ヲ與ヘテ之レヲ漁獲セザルモノ若クハ漁場内ニ於ケル他ノ漁業ニ害ヲ及ホスコトノ多キ漁具ヲ用フルモノアルニ至ラザルヲ保セズ之等ノ漁具ニ對シテハ絕對禁止若クハ一定ノ條件ヲ附セル等適當ノ制限ヲ加フルコト必要ナリト雖モ時期尙早ナリトシテ之レヲ放任セバ之レガ制限

ヲ加フルニ當リテ不平者ヲ出シ實行上困難ヲ感ズルノミナラズ漁業者ニ迷惑ヲ及ホスコト亦ク掛カラザルナリ

漁獲ノ制限 わかひ及たいらぎノ産卵及孵化發育ノ狀態ヲ調査シ蕃殖上最モ緊要ノ期間ヲ定メ介漁業ヲ禁止スルハ勿論產出セラレタル卵子ノ發育ヲ妨グル漁業ノ禁止ヲナスコト必要ナルベシ

二、漁具ノ改良ヲ圖ルコト

麗水海灣ニ於ケルわかひハ漁業發達ノ晚ニハ其ノ産額甚大ノモノナルベシト雖モ需要販路ノ關係上現今ニ於テハたいらぎニ及バザルコト遠シ蓋シたいらぎハ其ノ蕃殖ノ上ヨリ云フモ需要方面ノ觀察ヨリスルモ同所ニ於ケル生産ノ最大ナルモノニシテ利用方法ノ確立スルニ至ラバ南鮮沿岸ニ於ケル重要ノ一產物タルニ至ルベキナリ利用ノ方法ヲ確定セシメントスルニハ差當リ可成安値ニ之レヲ供給スルノ途ヲ講ゼザルベカラズ然ルニ本縣當業者ノ用セタル漁具ハわかひ萬牙ニシテたいらぎノ漁獲ニ向ツテハ效果少ナク設備ノ割合ニ所獲多カラザルヲ以テ高價ニ賣行カザレバ相當ノ利益ヲ見ル能ハザル事トナル然シナガラ前已ニ述ベタルガ如キ狀態ニアル今日ニテハ高値ヲ望ムモ能ハザルガ故此際漁具漁法ヲ改良シテ漁獲高ノ増進ヲ計リ假令價格ハ廉ナルモ數ニ依テ之ヲ價フノ方針ニ出ヅ此豐饒ナルたいらぎヲ廣ク社會ノ需要ニ供スル途ヲ講ゼザルベカラズ之レ漁具ノ改良ヲ必要トスル所以ニシテ其構造ニ關シテハ本場ニテモ研究中ナリ

鮫鱈網漁業試驗

朝鮮沿海ニ於ケル打網漁業ハ近年鮮魚ノ需要増加ト輸送機關ノ發達魚市場ノ増設等ニヨリ益有望ノ域ニ進ミ本縣當業者ノ出漁スルモノ亦々増加スルニ至リタリト雖モ該漁業ハ夏季ニ至レバ風力微弱ニシテ操業ニ適スル日少キ

ト氣候温暖ニシテ漁獲物ノ處理ニ困難ナ來シ收得著シク減ズルヲ常トスルガ故ニ此期間ニ於ケル打瀬漁業者ノ就業方法ヲ確立シテ利益ノ増進ヲ圖ルハ出漁獎勵上最モ緊要ノコトナリト雖モ元來風力ニヨリテ漁具ヲ運用スルハ打瀬漁業ヲシテ夏季ノ微風期ニ於ケル收益ノ増加ヲ期セシメントスルハ甚ダ困難ナル問題ナリトス故ニ本年度ニ於テハ種々調査ノ結果鮫鯨網漁業試験ヲ行ヒ夏季ノ打瀬漁業ト打瀬漁船ヲ用ヒテ鮫鯨網ヲ營ムモノトノ經濟上ノ得失如何ヲ調査スル事トナセリ而シテ又前年度ノ試験ニヨリ探知シタル麗水海灣ノわかび及たいらぎ漁場ノ開發上ニモ該方面ニ於ケル周年ノ經營方法ヲ講究スル必要アルヲ以テ四月ヨリ九月ニ至ル六ヶ月間即チ打瀬網漁業及介漁業ノ衰頽期間ニ於テ本試験ヲ施行シタリ左ニ其概況ヲ述ブベシ

朝鮮南海岸ニ於ケル鮫鯨網漁業

朝鮮沿海ニ於ケル鮫鯨網漁業ハ西海岸方面ニ於テハ七山灘延平列島近海ノ如キ大漁場ノアルアリテ二十余年前ヨリ内地人ノ出漁スルモノ甚ダ多ク彼ノ地ニ於ケル重要漁業ノ一ヲナスト雖モ南海岸ニ於テハ漸ク四五年前ニ開發セラレタル漁業ニシテ初夏ノ候産卵ノ爲メ近岸ニ群游スルイしもちたらのうをノ漁獲ト中秋後深所ニ移行スルしはるびノ漁獲トヲ目的トシ春漁ハ四月下旬ヨリ六月下旬恰モ打瀬網及介漁業ノ衰頽期ヲ盛漁期トシ秋漁ハ十月十一月ヲ以テ盛漁期トナス長崎、熊本、福岡縣等ヨリ出漁スルモノ年々増加シ又朝鮮人ニシテ内地人ノ漁具漁法ヲ學ビ本漁業ニ從事スルモノ近年大ニ増加ナ來セルガ如シ從來當業者ノ經營スル漁場ハ羅老列島ヨリ居金島、損竹列島、青山島近海及麗水海灣、鎮海灣内等ニシテ漁獲物ハ前記ノ外たい、はも、にべ、まなかつを等ナルガ就中いしもち、たらのうをハ鮮人向ノ漁獲魚トシテ其需要ノ廣キ各種ノ魚類中之レニ及ブモノナシトス而シテ本漁業ニ從事スル漁業者ハ春三月内地ヨリ渡來シ汝自灣口或ハ光陽灣口等ニテしばるびヲ漁シ四月下旬ノ大潮時ヨリハ羅老島近海ノ漁場ニ移リいしもちノ漁獲

ニ從事シ八月上旬同方面ノ漁期終ルト共ニ或者ハ鎮海灣方面ニ轉ジテ九月末蝦漁業ノ時期ニ至ルマデ漁業ヲ繼續スルモノモアレドモ概テ内地ニ歸帆シ再ビ九月中旬ニ渡來シテ居金水道、汝自灣口、羅老島近海等ニ於テしばるび漁業ニ從事シ十二月中旬ニ至リ内地ニ歸帆スルヲ常トス漁業ノ組織ハ肩巾六尺乃至七尺ノ漁船ニ漁夫二人乃至四人乗組ミ魚鮫鯨網及蝦鮫鯨網各一統同豫備網各一統宛テ備フ而シテ此期間ニ於ケル漁獲金高ハ春漁ハ五百圓乃至六百圓秋漁ハ三百圓乃至四百圓合計八百圓乃至一千圓ニ達スト云フ

鮫鯨網ノ構造使用法

本網ハ九州ノ有明、不知火海等ニ盛ニ行ハル、漁業ニシテ其創始ハ福岡縣ノ柳川ニアリテ淺キ濁水ノ海ニ發達セル漁具ナリ幅廣ク高サ低ク長方形ニ開口セル囊網ニシテ之ヲ海底ニ張置シ潮流ニ從ヒ網中ニ流レ込ミタル魚類ヲ捕獲スル趣向ノ漁具ナリ其構造左ノ如シ

上側網及下側網 網口ヨリ囊尻ニ至ルニ從ヒ漸次ニ目合テ小ニシ且目數ヲ減シ幅ヲ狭クナシタルモノニシテ上下相等シ目合編網ノ方法次ノ如シ

但シ本構造ハ網口ニ五十三尺ノ浮竹ヲ附スルモノニシテ福岡縣柳川ノ式ニ則レリ尺度ハ鯨尺ニ依ル

| 糸ノ太サ | 目ノ大サ (尺ニ對スル節數) | 掛目ノ數 | 編卸ノ長 | 摘 | 要 |
|-------|----------------|------|------|-----------|---|
| 綿糸二十本 | 三、〇 | 三〇〇 | 二尺 | 蛙股編(以下同シ) | |
| 全十八本 | 三、〇 | 三〇〇 | 二 | | |
| 綿糸十六本 | 三、〇 | 三〇〇 | 四 | | |

兩側網

| 全十八本 | 綿子燃糸二十本 | 糸ノ太サ | 目ノ大サ (尺ニ對スル節數) | 掛目ノ數 | 編卸ノ長 | 摘要 蛙股編(以下同シ) |
|------|---------|------|-------------------|------|------|-----------------|
| | | 全六本 | 一二、九 | 二五〇 | 四 | |
| | | 全六本 | 一二、五 | 二五二 | 四 | |
| | | 全六本 | 一二、一 | 二五四 | 四 | |
| | | 全六本 | 一一、七 | 二五六 | 四 | |
| | | 全六本 | 一一、三 | 二五八 | 四 | |
| | | 全六本 | 一〇、九 | 二六〇 | 四 | |
| | | 全六本 | 一〇、五 | 二六二 | 四 | |
| | | 全六本 | 一〇、一 | 二六四 | 四 | |
| | | 全六本 | 九、七 | 二六六 | 四 | |
| | | 全八本 | 九、三 | 二六八 | 四 | |
| | | 全八本 | 八、九 | 二七〇 | 四 | |
| | | 綿糸八本 | 八、五 | 二七二 | 四 | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|
| 全八本 | 全八本 | 全八本 | 全八本 | 全八本 | 全八本 | 全十本 | 全十本 | 全十本 | 全十二本 | 全十二本 | 全十二本 | 全十四本 | 全十四本 | 全十四本 |
| 八、一 | 七、七 | 七、三 | 六、九 | 六、五 | 六、一 | 五、七 | 五、三 | 四、九 | 四、五 | 四、二 | 三、九 | 三、六 | 三、三 | 三、〇 |
| 二七四 | 二七六 | 二七八 | 二八〇 | 二八二 | 二八四 | 二八六 | 二八八 | 二九〇 | 二九二 | 二九四 | 二九六 | 二九八 | 三〇〇 | 三〇〇 |
| 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 |

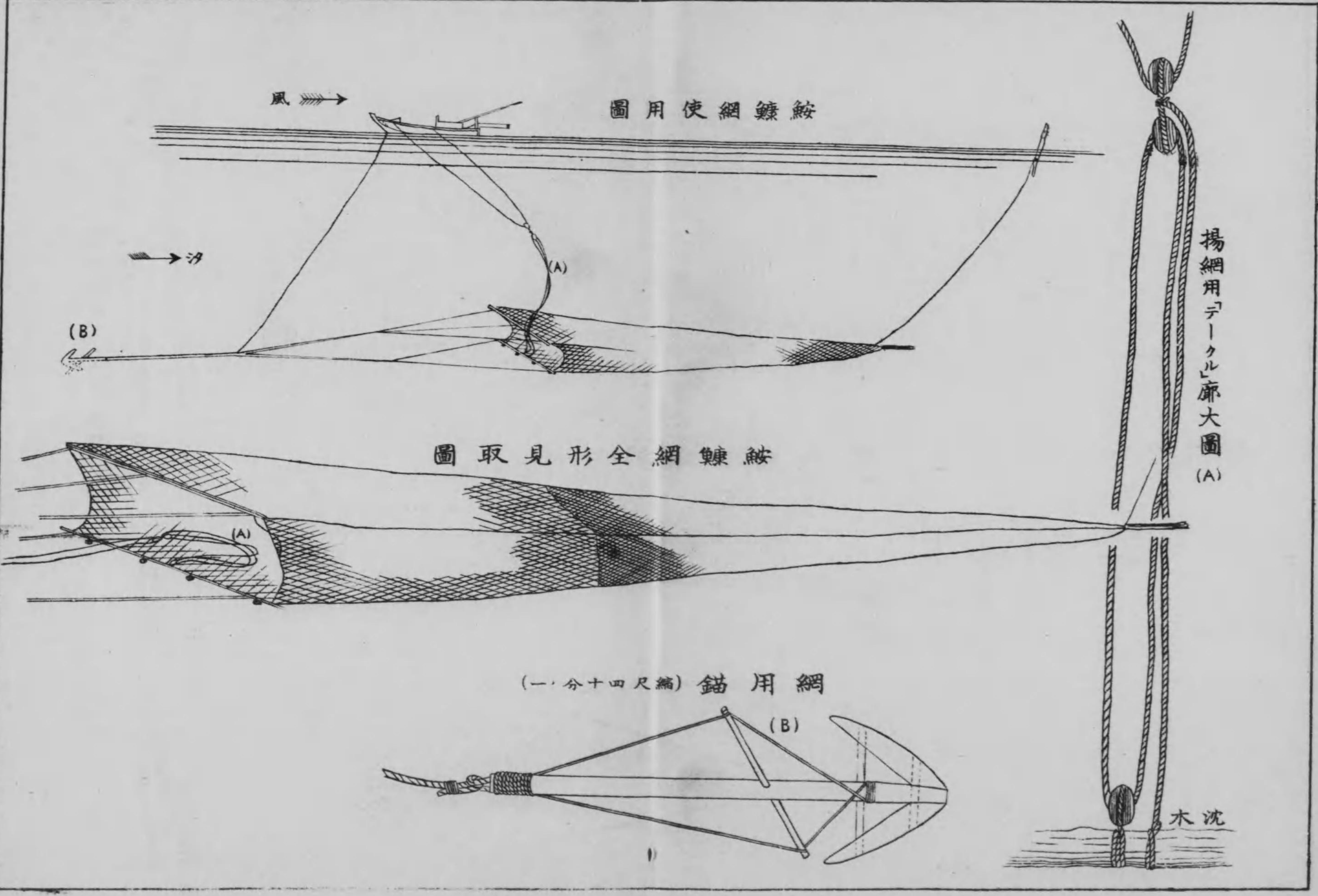
囊尻

| 綿糸八 子燃八 本 | 糸ノ太サ | 目ノ大サ (尺ニ對ス) | 掛目ノ數 | 編卸ノ長 |
|-----------------|------|----------------|------|------|
| 全六本 | 八 | 八、一 | 二四八 | 四 |
| 全六本 | 八 | 八、五 | 二四四 | 四 |
| 全六本 | 八 | 八、九 | 二四〇 | 四 |
| 全六本 | 八 | 九、三 | 二三六 | 四 |
| 全六本 | 八 | 九、七 | 二三二 | 四 |
| 全六本 | 六 | 一〇、一 | 二二八 | 四 |
| 全六本 | 六 | 一〇、五 | 二二四 | 四 |
| 全六本 | 六 | 一〇、九 | 二二〇 | 四 |
| 全六本 | 六 | 一一、三 | 二一六 | 四 |
| 全六本 | 六 | 一一、七 | 二一二 | 四 |
| 全六本 | 六 | 一二、一 | 二〇八 | 四 |
| 全六本 | 六 | 一二、五 | 二〇四 | 四 |
| 全六本 | 六 | 一二、九 | 二〇〇 | 四 |

| 綿糸十六 子燃十六 本 | 糸ノ太サ | 目ノ大サ (尺ニ對ス) | 掛目ノ數 | 編卸ノ長 |
|-------------------|------|----------------|------|------|
| 全十四本 | 八 | 三、〇 | 二八〇 | 四 |
| 全十四本 | 八 | 三、〇 | 二八〇 | 四 |
| 全十四本 | 八 | 三、三 | 二八〇 | 四 |
| 全十四本 | 八 | 三、六 | 二七六 | 四 |
| 全十二本 | 八 | 三、九 | 二七二 | 四 |
| 全十二本 | 八 | 四、二 | 二六八 | 四 |
| 全十二本 | 八 | 四、五 | 二六四 | 四 |
| 全十二本 | 八 | 四、九 | 二六〇 | 四 |
| 全十本 | 八 | 五、三 | 二五六 | 四 |
| 全十本 | 八 | 五、七 | 二五二 | 四 |
| 全十本 | 八 | 六、一 | 二四八 | 四 |
| 全十本 | 八 | 六、五 | 二四四 | 四 |
| 全十本 | 八 | 六、九 | 二四〇 | 四 |
| 全十本 | 八 | 七、三 | 二三六 | 四 |
| 全十本 | 八 | 七、七 | 二三二 | 四 |

魚捕

| 綿子燃糸 十本 | 糸ノ太サ | 大目ノ サノ (尺ニ對ス) | 掛目ノ數 | 編卸ノ長 | 摘 要 |
|------------|------|---------------------|------|------|--------|
| 全十本 | 全十本 | 二四、〇 | 七五 | 四 | |
| 全十本 | 全十本 | 二三、〇 | 一〇四 | 四 | |
| 全十本 | 全十本 | 二二、〇 | 一三三 | 四 | |
| 全十本 | 全十本 | 二一、〇 | 一六二 | 四 | |
| 全十本 | 全十本 | 二〇、〇 | 一九一 | 四 | |
| 全八本 | 全八本 | 一九、〇 | 二二〇 | 四 | |
| 全八本 | 全八本 | 一八、〇 | 二四九 | 四 | |
| 全八本 | 全八本 | 一七、〇 | 二七八 | 四 | |
| 全八本 | 全八本 | 一六、〇 | 三〇七 | 四 | |
| 全八本 | 全八本 | 一五、〇 | 三三六 | 四 | |
| 全八本 | 全八本 | 一四、五 | 三六五 | 四 | |
| 全八本 | 全八本 | 一四、〇 | 三九四 | 四 | |
| 綿子燃糸 八本 | 全八本 | 一三、五 | 四二二 | 四 | |



鮫鎌網使用圖

鮫鎌網全形見取圖

錨用網 (縮尺四分一)

以上ノ網地ハ麻網ヲ用フルトキハ水切り良好ニシテ漁獲力ヲ増スモ網ノ價高キカ故ニ概ネ綿糸網ヲ用ヒ二子撚ニテ蛙股編トナシ(魚捕ニハ本目編ヲ用ユルモ妨ケナシ)特ニ目合ノ不同ヲ避クル爲メ手製トシ機械製網ヲ用ヒズ而シテ編網ニ先チ充分網糸ヲ煮熟シ後チ之ニ薄キ糊ヲ施シ編網ヲ終レバ再ビ煮熟緊張シテ左ノ如ク縫ヒ合ス

上側網、下側網、両側網ノ縁端ヲ縫合シテ漏斗狀トナシ其ノ後端ニ囊尻ヲ附シ又其ノ後方ニ魚捕ヲ接合ス而シテ囊口ニハ麻製二千撚經二分五厘ノ縁網ヲ貫通ス縁網ト網地トハ每一尋間隔位ニ別系ヲ以テ結付シ網地ノ一方ニ片寄ルコトヲ防グ縁網ニハ別ニ之レト同大ソ綿糸又ハ麻繩ヲ以テ「ナベトリ」ヲ附シ上、下側網ニ屬スル部分ハ浮竹沈木ヲ結付スルニ備ヘ兩側網ニ屬スル部分ハ網地ヲ操リ寄スル際之レヲ握リ持ツ爲メニ便ス魚捕ノ末端ハ別ニ縫合ヲナサズ「トツタリ」ト稱シ綿糸三十本合一寸目百五十掛長三尋乃至四尋ノ網地ノ兩縁ヲ縫合シテ筒狀トナシシタル網ノ一端ヲ縫合シ置キ魚ヲ船内ニ取入ル、際此ノ部分ニ捕魚ヲ送り入レテ船内ニ取リ込ムニ便ス之レ網ノ魚捕部ノ損傷ヲ避クル爲メナリ而シテ投網ニ際シテハ浮標網ノ一端ヲ以テ魚捕トどつたりノ接合部ヲ緊縛シどつたりノ尻ハ開キ放シトナス

以上各網地ノ總重量ハ約十貫目ナルモ當業者ノ使用スルモノニシテ細キ網糸ヲ用ヒ若クハ網地ノ用量ヲ節減シタルモノハ八貫四五百匁ナルモノアリ普通使用セラル、モノハ九貫五百匁内外ナリトス麻網ニテハ八貫匁掛ヲ普通トシ九貫匁ノモノハ上等品トナス

澁染

以上ノ如ク縫合シタル網ハ柿澁ヲ以テ染メ上ゲ最初ノ一回ハ澁液約三斗五升ヲ要ス特ニ柿澁ヲ用フルハ網糸ヲ固メテ

水切チ良好ナラシムルヲメナリ
澁染ハ毎潮時必ズ施シ一回ニ約二斗七八升乃至三斗ヲ要スルヲ以テ柿澁ノ價不廉ナル朝鮮ニ於テハ一ヶ月ノ澁染費少クモ七圓五十錢多キハ十圓ヲ要ス經濟上研究ヲ要スルコトナリ

浮竹

周一尺二三寸ノ青竹二本ヲ其根部ヲ兩端トナル様ニ組ミ合セテ長十尋三尺トシ更ニ中央部ノ浮力及強力ヲ増ス爲メニ別ニ中部ノ周六寸乃至七寸ノ青竹二本ヲ添ヘ(元口ヲ中央ニ置ク)更ニ強力ノ不足ナル部分ニハ松又ハ檜等ノ當木ヲナシテ毎五尺間隔ニ繫縛ス

沈木

普通足間木ト稱ス陸材中央ノ周一尺二寸兩端三寸長五十三尺多少ノ屈曲アハモ差支ナシ甚シク屈曲スルカ又ハ一材ニテ所用ノ長ヲ得ザルトキハ二材乃至四材ヲ接合ス接合ハ込栓留ニシテ接合部兩端ニケ所ハ亞鉛針金ヲ以テ卷ク
沈石
重量五貫匁内外ノモノ二個七貫匁内外ノモノ二個ヲ要ス何レモ中央部ヲ結縛シ其網ノ兩端ヲ各一尺五寸位殘シ置キ沈木ニ結付スルニ便ス

浮竹用「テークル」

浮竹ノ兩端ニ附シ置キ浮竹ヲ船内ニ吊シ上グルニ用フ徑三分馬尼刺麻網長七尋單滑車二個附屬セルモノニシテ二組ヲ要ス
沈木用「テークル」
沈木ノ兩端ニ附シ置キ沈木ヲ船舷マデ引上ゲタル後之ヲ船内ニ吊シ上グルニ用フ徑四分馬老刺麻網長七尋單滑車二個

附屬セルモノ二組

四股網

浮竹及沈木ノ兩端ヲ二股網ニ連絡スル網ニシテ馬尼刺麻網徑七分四十尋ノモノ二條中央及兩端ニハ古網地又ハ細網ヲ以テ「シーリング」ヲ施シ中央ヨリ折返シテ兩端ヲ浮子竹及沈木ノ兩端ニ結附ス
浮竹ニハ別ニ四股網ト二股網ノ接合部ヨリ竹ノ中央部ニ至ル一條ノ網アリ竹ノ中央ヨリ撓ミテ折レザル様附シタルモノニシテ普通漁船ハ此網ヲ附セザルモノ多シ長二十尋徑六分馬刺麻網ヲ用フ

二股網

四股網ト親網トノ中間ニアル網ニシテ徑一寸長四十尋馬尼刺麻網ヲ用フ其中央及兩端ハ古網地又ハ細網ヲ以テ「シーリング」ヲ施シ中央部ヨリ折返シ一端ハ浮竹ヨリ來レル四股網ニ一端ハ沈木ヨリ來レル四股網ニ結附ス

親網

網ト船体トヲ繫留スル網ニシテ其ノ兩端七八尺ハ「シーリング」ヲ施シ一端ハ船軸ノ末端ニ穿テル孔ヲ通シテ固ク結ビ附ケ一端ハ二股網ノ中央部ニ結附ス徑一寸四分馬尼刺麻網長三十尋ヲ要ス

船用錨網

親網ノ末端即チ二股網ト親網トノ接合部ヨリ船体ニ至ル網ニシテ船体ノ繫留ニ要スル網ナリ徑八分馬尼刺麻網長三十尋ヲ要ス
後網
船用錨網ノ末端ヨリ約二三尋前方ニ附シアル單滑車ニ通シタル網ニシテ船体ヲ潮流ニ横フル爲メニ使用ス一端ハ船部ニ他端ハ船部ニ結ビ付ク馬尼刺麻製徑七分長三十尋ナリ

鰹材軸ハ總長一丈四尺九寸幅四寸五分厚四寸二分爪ノ長六尺八寸巾(最大)六寸三分厚四寸爪端ト軸ノ外側トノ間隔ハ三尺三寸五分ニシテ軸ノ上端ヨリ五六寸下方ニハ孔ヲ穿テ親綱ノ結附ニ便シ筭ハ軸ノ下端ヨリ軸長約三分ノ一ノ所ニ附セラル

揚網綱

馬尼刺綱徑七分長三十尋單滑車二個ヲ通シテ一端ハ沈木ノ中央部ニ結附セラレ一端ハ延綱(揚網綱附屬)ノ單滑車ノ下端ニ輕ク結附セラル延綱ハ單滑車一個ヲ通セル徑七分ノ馬尼刺綱ニシテ一端ハ船体左舷中央部ノ「ビレンピン」ニ一端ハ二番貫木上ノ「ビット」ニ止メラル長五十尋位ヲ要ス

船内ノ裝置及附屬具

揚網用「ウキンチ」

普通鰹鯨網船ニハ「ウキンチ」ヲ据付クルモノナキモ打瀬漁船ノ如ク「ウキンチ」ヲ据付クルモノニアリテハ揚網揚錨等ニ至便ナリ而シテ揚網ニ「ウキンチ」ヲ用ユル場合ハ揚網綱ヲ卷回ニ導ク爲メニ左舷中央部ニ絡車ヲ設ケ「スナツチプロック」ニヨリ「ウキンチ」ノ「ローラー」ニ達セシムルノ裝置ヲ要シ錨ヲ卷クニハ船部ノ右舷側ニ一個ノ「スナツチプロック」ヲ取付ケ別ニ又二番船梁上ニ絡車ヲ設ケテ前橋ト錨綱ノ摩擦ヲ避ケシムルノ裝置ヲ必要トス但シ揚網用「スナツチプロック」ヲ二番船梁上ノ絡車ニ代用スルモ可ナリ

船床ノ突出セルモノハ左舷側ノミ取除クコトヲ要ス之レ網ノ揚卸シニ妨ゲトナレバナリ

船床ノ左舷側上ニ於テ「ダグキット」ノ代用ヲナサシムル爲メあまたツノ支柱ヨリ臺ノ支柱ニ一木ヲ架シ之レニ二本ノ「ビレンピン」ヲ差シ浮竹及沈木引揚用「テークル」ノ尻ヲ掛クルニ便ス

浮標 網ノ所在ヲ知ルニ便スル爲メ可成浮力ノ大ナルモノヲ用フ浮標用ノ網ハ徑二分麻綱ニシテ水深ノ四倍乃至五倍ヲ要ス

撈棒 撈材徑三寸内外長六尺ノモノ一本浮竹及沈木ヲ撈卸スルニ際シ浮竹及沈木ヲ撈テ入レ又ハ撈テ出スニ用フ

熊手 魚類ヲ掻キ寄スルニ用フ

「スコップ」角形 魚類取扱用

金輪 鐵線亞鉛鍍一番線四條乃至五條ヲ以テ徑三尺位ノ輪トナシ置キ漁獲物ヲ船内ニ取入ル、際囊外ヨリ適宜ノ大サニ分割スルニ用フ

蓋 壹本

「ボートフック」 壹本

漁具使用法

出漁ニ先テ漁網ノ上側網ハ浮竹ニ下側網ハ沈木ニ各其緣綱ノ兩端ニ附セラレタル結繩ヲ以テ結付シ別ニ徑二分位ノ細網ヲ以テ緣綱ノなべどりヲ通シテ浮竹及沈木ニ卷キ附ク四股綱ハ船体ノ右舷ヨリ凡テノ取付材ノ外方ヲ廻リテ左舷ニ持來リ上下相捻レザル様注意シテ浮竹及沈木ノ各兩端ニ結附シ浮竹ノ中央ニ附スベキ網ハ其先端ヲ船方ヨリ船体ノ外側ヲ廻ハシ來リテ結附シ而シテ浮竹及沈木ハ船体左舷側ニ置カレテ網ハ其中央部ニ捻レナキ深囊口ヨリ順次ニ疊ミ上ケ置ク錨ハ右舷二番貫木上ニ載セ錨軸ノ末端ハ右舷小線上ニ輕縛シ錨ト網トヲ連絡スル綱具及揚網綱等ハ總テ纏捲セザル様叮嚀ニ甲板上ニ輪形ニ整置ス

錨鍊網ハ潮流ノ速度及流向ト密接ナル關係アル漁業ニシテ速度緩慢ナル時ハ網ノ開張不良ニシテ漁獲ナク急激ニ失スレバ網具ヲ破損スルコトアリ又流向區々ナル場所例ヘバ艀角ノ多キ水道内ニシテ流向一定セザル所ハ俄然異ナル方向

ヨリ潮流來リテ浮竹ヲ直立セシムルヲ網ニ大破損ヲ生セシムルガ如キコトアリ又海水ノ上層ト下層ト流向ヲ異ニシ
 或ハ速度ヲ異ニスル場合ニハ漁具ヲ投入スル能ハサル等種々ノ故障アリテ潮流ノ緩急方向ヲ斟酌スルハ最モ緊要ノ事
 ナリトス本漁業ニ適スル潮流ノ速度ハ一時間二哩乃至三哩ニシテ流向整然タル場所ヲ良シトス而シテ又清澄ナル海水
 ヨリモ濁水晝間ヨリモ夜間暗夜ヨリモ月明風波アル時ヨリモ平水ノ方漁獲多シトス清澄ナル海水ニ於テハ晝間始メ
 効力ナク最モ漁獲ノ成績良好ナルハ日没前後ニ跨ル滿潮時ヲ良シトス又海底ノ硬軟ヲ論セズ錨搔キ能ク網地ヲ纏絡ス
 ル岩礁其他ノ障害物ナキ限リハ從漁スルコトヲ得故ニ漁船一漁場ニ出レバ漁獲物ヲ出買船ニ販賣シ得ルノ地ニアリテ
 ハ特別ノ故障ヲ生セサル限リハ四六時中間斷ナク漁業ニ從事シ潮時ヲ終ルマデ港ニ入ルコトヲ要セズ然レドモ網ハ一
 回使用スレバ多少ノ破損ヲ生シ其都度修繕ヲ要スルガ故ニ盛漁期ト雖モ夜間ハ滿干共ニ從漁シ晝間ハ干滿何レカノ一
 潮時ヲ以テ網ノ乾燥手入レノ爲メニ費スヲ常トス金鯨列島以東海水ノ清澄ナル海面ニ於テハ晝間全ク漁獲ノ効力ナキ
 ガ如シ

投網法

漁場ニ至レバ全帆ヲ卸シテ網錨ヲ投ズ多數漁船ノ密集スル漁場ニ於テハ前後方ニ於ケル他船ト可成多クノ間隔ヲ保タ
 シムルコトニ注意スルヲ要ス錨網ハ潮時ニ鑑ミ網ヲ投ズルニ尙早キ場合ハ船ヲ繫留スルニ足ルキ程度トシ悉ク之レヲ
 延バサズ直ニ投網シ得ル場合ハ網ヲ延長シツ、徐々ニ放入ス斯クテ甲漁夫ハ錨船ニ就キテ潮流ヲ右舷ヨリ受クル機船
 首ヲ廻シ乙漁夫ハ船体ノ流下スルヲ見テ二股網四股網ヲ右舷ヨリ投入ス投下セラレタニ網全ク延ビテ船潮流ヲ正横ヨ
 リ受クルニ至レバ後網ヲ以テ其ノ儘船位ヲ保タシメテ錨ヲ上グ此ノ間既ニ丙漁夫ハ「トツタリ」ヲ附セル浮標ヲ投ジ
 魚捕ヨリ順次ニ網地ノ捻轉セザル様注意シテ投網ス之レト同時ニ他ノ漁夫ハ兩側網ノ縛ヲ解キテ投入シ網全部ヲ投入
 シ終レバ船部ト船部ニ各一名ノ漁夫ヲ配置シテ浮竹及沈木ノ「テークル」ヲ弛メ他ノ漁夫ハ棒ヲ以テ浮竹ト沈木ト同

時ニ船外ニ擲テ出シ沈木ニハ等距離ニ沈石ヲ結附シ然ル後其ノ兩端ニ附セル「テークル」ヲ全ク放シ其ノ木ニ沿フテ
 内方適宜ノ所ニ結ビ付ク此ノ場合網ハ兩端ノ支持ヲ放タル、モ沈下セザル様豫メ揚網ヲ以テ船体中央部ノ「ビレンビ
 ン」ニ止メ置キ次ギニ浮竹ノ「テークル」及ビ網ヲ放テ各索具ノ走出若クハ網地ノ引掛リ等故障ナキヲ見定メタル後
 沈木ヲ支持セル揚網網ヲ「ビレンビン」ヨリ放ス斯クシテ沈木全ク海底ニ達スレバ充分揚網網ニ餘裕ヲ與ヘテ船体ノ
 動搖ヲ網ニ傳ヘザル様ニシ爰ニ投網ヲ終レバ船部ニ結ビ付ケタル後網ヲ「ウキンチ」ニ掛ケテ卷キ船首ノ
 潮流ニ向フマデ卷キ縮ム此ノ場合風右舷ヨリ強ク來リテ船体ヲ揚網網ノ上ニ來ラシムル恐レアルヲ以テ此網ノ内端ヲ
 二番貫木ノ右舷ニ取ルナリ

沈石ヲ沈木ニ縛ビ付ケルニ當リ注意スベキコトアリ沈石ハ重量ノ大ナルヲ外方ニ小ナルヲ内方ニ用ヒ等距離ニ結付ク
 ト雖モ潮流ノ轉換期ニ至リ潮向右廻スル場合ハ右方ノ沈石ヲ少シク右方ニ偏セシメ左廻スル場合ニハ之レト反對ニシ
 流勢ノ早ク轉換スル方ノ沈定ヲ輕クスベシ次ギニ一回從業シタル後再ビ反對ノ潮流ヲ受ケテ從漁セントスル場合ハ一
 旦錨ヲ海底ヨリ四五尋位卷キ上ゲ然ル後前記ノ手續ヲ以テ投網スベシ投網後ハ船長獨リ甲板上ニアリテ海況ニ注意ス
 ルノミ他ノ船員ハ揚網時ニ至ルマデ用務ナシ

揚網法

潮時ノ終リ前約一時間ニ至レバ揚網ニ着手ス先ツ投網ノ際巻詰メタル後網ヲ延バシテ船体ヲ潮流ニ横ヘ延網ノ末端ヲ
 左舷小縁上ニ設ケタル終車ニ導キ更ニ「スナツチ」ニ掛ケ總員「ウキンチ」ニ就キテ之レヲ卷キ上グ斯クテ延網
 ト揚網用「テークル」ノ接合部來レバ此處ニ附着セル滑車ヲ終車ノ傍ニアル「ビレンビン」ニ掛ケ揚網用「テークル」ノ引
 手ヲ少シク手操リテ前同様ニ「ウキンチ」ニ掛ケテ沈木ノ船舷ニ達スル迄巻キ詰メ沈木船舷ニ達スレバ甲乙二名ノ漁夫
 ハ前後ニ別レテ浮竹及沈木ニ附セル「テークル」ヲ以テ浮竹及沈木ヲ船舷ニ吊シ總員船体ノ前後兩端ヨリ等距離ニ分レ

テ網ヲ手操リツ、漸次船ノ中央ニ集リテ網ヲ手操リ揚クルモノトス魚ノ囊ニ入りタルモノハ囊長ノ中程ヨリ後方ニ遊
ギ居ルヲ以テ之ヲ操リ揚クルニ從ヒ漸次魚補ニ送り込ミ後ヲ金輪ヲ以テ適宜ノ大サニ外方ヨリ魚ノ充テル囊ヲ仕切リ
更ニ之ヲ「トツクリ」ニ送り込ミ引揚ケテ船艙ニ注ギ入ル漁獲物ハ全ク海藻類其他海盤車ノ如キ雜物ヲ混スルコトナキ
ヲ以テ處理甚ク容易ナリ漁獲物ノ取入レヲ終リ再ビ投網ナスル場合ニハ錨網ヲ操リ上ケテ立チ錨トナシ置キ潮流ノ來
ルマテ網ノ破損ヲ修理ス

再ビ投網セキル場合ニハ船体ノ潮流ニ横ハリ居ル間ニ網地ヲ洗滌シ然ル後錨ヲ取り上ケ錨ヲ取り揚クルニハ錨網ヲ船
ノ左方ニ設ケタル「スナツチブロック」ニ掛ケ更ニ二番貫木上ノ轆車ヲ通シテ「ウヰンチ」ニ導キ捲キ上ケ錨軸船舷ニ來
レバ前橋ノ「ハリヤード」ヲ以テ錨ヲ捲キ上ケ船体ノ右舷ニ取リ入ル
網ノ手入方法

網地ハ暇アル毎ニ乾燥ニ勉メ雨天連日ニ亘リ乾燥スル能ハザル場合ニ於テハ一日數回海水ヲ注ギ堆積セル網地ニ温蒸
ヲ與ヘザルコトニ注意ス

試験ノ經過

本試験ハ鮫鱈網漁業カ打漁漁業者ノ夏季ノ經營トシテ適當ノモノナリヤ否ヤヲ試験シ經濟上ノ得失如何ヲ確メントス
ルコトヲ目的トシタルモノナレバ打漁網漁業ノ不振ニ趣ク時期即チ四月初ヨリ着手ノ筈ナリシモ當時漁期尙早ニシテ
一般鮫鱈網漁業者ハ未ダ蝦漁業ニ從事シ居ル有様ナリシカバ少シク試験ノ着手ヲ延期シ四月末ヨリ五月末ニ跨ル八十
八夜ノ大潮時ヨリ開始スルコト、ナシ試験船ハ全月二十八日麗水港ヲ發シテ羅老列島ニ向ヒ全二十九日漁場附近ノ根
據地ナル外羅老島竹亭浦ニ到着シタリ時恰モ木漁業ノ爲メニハ最モ適良ノ潮時ニシテ當業者ハ一日千金ノ思ヒヲナセ

リト雖モ潮時ノ初メ二十九日ヨリ三十日マテハ天候險惡ニシテ南西ノ風雨襲來シ沖合波浪高クシテ出漁スルコト能ハ
ズ五月一日ニ至リ漸ク出漁スルヲ得タルモ當日一般漁船ハ羅老島、損竹列島、居金島間ノ海面ニ散在シ任意ニ漁場ヲ
トシ居ル有様ニテ各船共ニ初日ノ出漁ナレバ何處ニ魚道ノ存スルカ察スルニ由ナク本場試驗船ハ各船散在ノ中心附近
ト思ハル、邊リニ於テ從業シタルモ遂ニ魚群ニ遭遇セズ僅ニいしも二百余尾ノ漁獲ヲナシタルニ過ギザリキ一般漁
船モ多獲ノ模様ナク漁況甚ク不振ナリシカバ寧ロ他船ノ密集園内ヲ脱シテ魚群ノ失路ヲ扼セントシ翌二日ハ更ニ西方
ニ進ンデ示山島ノ南微西沖合負子島ト「シエーア」島トノ見通線上中心點附近ヲ相シ全日午後ノ滿潮ニ投網シタリ一般
漁船モ漸次西進シ來リタルモ示山島ト舞鶴島ノ見通線以東ニアリテ本場試驗船トハ約二海里ヲ隔テ本場試驗船附近ニ
ハ一船モ從漁スルモノナク朝鮮人ノ底刺網漁船二三隻ノ從漁スルモノアルノミナリシガ午後七時投網ノ後ハ附近ノ海
面一帯いしもちノ發スル鳴聲ヲ以テ宜シキヲ感シタル程ニシテ濃厚ナル魚群ノ游泳アルヲ推想セラレタリキ午後十一
時網ヲ取り揚クルニ果シテ網ノ魚捕部七八尋ハ全ク魚ヲ以テ滿サレ海中ニ直立セリ斯クテ魚ニ滿テル網ハ總員之ニ掛
リテ引ケトモ來ラズ如何トモ術ノ施スヘキモノナカリシカハ暫ク放置シテ潮流ノ換ハルヲ待テタルニ雖モ千潮ノ急勢
來リ網ハ潮流ニ押シ流サレテ浮上リタル爲メ船ヲ進メテ辛シテ之ヲ船舷ニ引キ附ケタルモ此頃ヨリ南東風暴ノ來リテ
波浪漸次ニ高マリ天候險惡ノ模様ヲ呈シ魚ノ充滿セル網ハ波ノ爲メニ船舷ニ打チ寄セラレテハ打チ返ヤレ網地ハ所々
ニ損所ヲ生ラテ魚ヲ逸スルコト夥シク漁獲物ノ收容甚ク困難ヲ感シタリシモ全力ヲ盡シ辛シテ之ヲ取り入レ船艙ノ船
部及艙部艙部ノ三室ヲ除クノ外滿室ニ積入レテ漸ク之ヲ船内ニ收容シタリ而シテ此漁獲物ハ其數數萬尾ニ達スル見込
ナレバ之ヲ漁場ニ於ケル鮮人出買船ニ賣却セントスルモ多クハ皆數日來ノ買人ヲ以テ積載力ノアルモノナク且ツ小賣
金ヲ以テ營業セルモノ、ミナレバ一手ニ之ヲ引受ケ買入ヲナシ得ルモノナキヲ以テ余儀ナク魚市場ニ搬致スルニ決シ
強風雨ヲ犯シテ微留麗水港ニ向ヒ翌三日麗水港着、馬山、三千浦方面ノ市況ヲモ取調ヘタリ結果麗水魚市場ニ賣却ス

ルノ得策ナルコト判明シ全所ニ之ヲ販賣シタリ此日ノ漁獲高石首魚一萬六千九百四十尾内大一萬三千三十尾小三千四百六十尾ニシテ此賣却金二百三十三圓八十三錢二厘(普通大一尾一錢五厘八毛小二尾三厘)ヲ得タリ而シテ第一回ノ出漁ハ全漁期中最モ漁獲ノ多キ好潮時ナリシモ天候不良ノ爲メ僅ニ二回ノ從漁ヲナシタルニ過ギズシテ終リタリ然レトモ此潮時ニ於ケル一般當業者ノ漁獲高ハ百二十三十圓乃至七八十圓ニシテ本場試驗船ノ漁獲成績最モ良好ナリキ

第二回ノ出漁ハ五月中旬ノ大潮時ニシテ前回ト同ク羅老島沖合ニ出漁シ魚群ノ狀況ニ鑑ミ示山島附近及居金水道内ニ從漁セリ然ルニ魚群ノ大部ハ最早ヤ内灣ニ入込ミタルモノ、如ク前回ニ比シテハ漁況甚ダ振ハズ五月十二日ヨリ十九日ニ至ル八日間ノ潮時中天候不良ノ爲メ四日間出漁シタルニ過ギズ而シテ又此期間ノ漁場ハ外羅老島西沖及居金水道、三五里島附近ニシテ各船所々ニ散在シタルモ漁況更ニ振ハズ本場試驗船ハ居金島ノ北方水道、羅老島南沖合殺斗汝ノ附近ヲ漁場トシ所々ニ魚群ヲ探リタルモ遂ニ遭遇スルコト能ハズシテ全期間ノ漁獲一千五百四十尾此賣却代金十六圓九十九錢七厘雜魚百十四貫三百匁此賣却代金五圓五十六錢八厘ヲ得タルニ過ギズ一般漁船ハ從漁日數本船ト同數ナルモ其漁獲金ハ四十圓以上八十圓以内ナリシト云フ

第三回ノ出漁ハ五月二十九日ヨリ從漁シ得キ潮候ナルモ降雨ノ爲メ六月二日ヨリ出漁シ全五日ニ到ル四日間從漁セリ然ルニ當時いしもちハ概テ退去シテ主ナル漁獲物ハたものうをトナリ漁場モ亦ク前潮時ニ於ケルいしもち漁場ヨリハ幾分南東方即チ外羅老島ト損竹列島トノ見通線上ニ移リ本場試驗船ハ殺斗汝、揚根汝ノ附近ニテ從漁シタリ此時期ハ例年たものうをノ漁獲少カラズト云フニ當年ハ漁況甚ダ不振ナリシノミナラズ天候不良ニシテ風ハ南東又ハ南西ヨリ來リテ波浪常ニ高ク煙霧絶ヘ間ナキ有様ニシテ漁況頗ル振ハズ僅ニたものうを六百七尾此賣上代金十六圓二十錢三厘いしもち二百五十尾此賣却代金二圓雜魚百七十四貫此賣却代金八圓十二錢ノ漁獲ヲナシタルニ過ギズ一般漁船モ概テ三四十圓内外ノ漁獲ニシテ中ニハ二十圓未滿ノ漁獲者モ少カラザリシヤニ聞ク

第四回ハ六月十三日ヨリ全二十日ニ至ル八日間ノ潮時ニシテ之亦降雨頻多ナリシ爲メ僅ニ十五日ヨリ十八日ニ至ル四日間從漁シタルノミ元來前回ノ潮時ト本潮時トハたものうをノ盛漁期ニシテ當業者ノ重要視スル潮時ナリト雖モ天候甚ダ不良ニシテ充分試驗スル機會ナク漁況モ亦著シク不振ニシテ抄々數漁獲ヲ見ルコト能ハズ遂ニ此方面ニ於ケル鮫鱈網漁業ノ終リテ告タルニ至リタリ此潮時ニ於ケル漁獲ハ前回ニ比シ稍良好ヲ得たものうを一千八十三尾此賣却代金二十一圓五十五錢八厘雜魚二百七十八貫此賣却代金十四圓五十四錢四厘いしもち六百八十四尾此賣却代金八圓八十四錢ナリキ

第五回ノ出漁ヨリハ麗水海灣ニ出漁スルノ計畫ニシテ六月二十六日ヨリ好潮時トナリタルモ當時恰モ此地方ノ雨期ニシテ降雨頻々タルノミナラズ風ハ甚ダ強カラザルモ南東乃至南西ノ方面ヨリ常ニ沖合ヨリ來ルカ故ニ波浪高クシテ出漁スルコト能ハズ漸ク七月四日ヨリ六日ニ至ル三日間出漁シタルニ過ギザリシガ今回ハ南海島嶼沿岸ヨリ渡瀬附近ニテ漁業シたいノ漁獲アル見込ナリシモ時期尙早カリシ故ニヤたいハ僅ニ一網十尾内外ノ漁獲ヲ見タルニ過ギズ躰幅一寸内外ナルたものうをノ幼稚ナルモノ及休長四寸乃至五寸ナル小さいしもちノ漁獲多キノミニシテ漁況甚ダ振ハズはもハ漁獲頗ル多ク一網ニシテ二三十貫匁ノ漁獲アリタルモ價格低廉ニシテ重キヲナサズ之等ノモノヲ合シテ總計百五十二貫匁此賣却代金九圓六十錢ノ漁獲アリタルニ過ギザリキ

第六回ノ出漁ハ雨期ノ最中ニシテ出漁一層困難ヲ感シタルモ風ノ強カラザル限リハ多小降雨アル日モ出漁シタリト雖トモ僅ニ三日間ノ出漁ヲナシ得タルニ過ギズ然ルニ今回ハたいノ漁業漸ク好況ヲ呈シ休長三百匁内外ヨリ一貫五六百匁内外ニ達スルモノ一網四五十尾宛ノ漁獲アリたものうをモ前回トハ派チ異ニシ休巾一寸五分内外ナル中形ノモノ漁獲多ク頗ル好況ナリシモ如何セン天候ノ支障ハ充分ナル活動ヲナスコト能ハズ漸クニシテ雜魚三百九十九貫匁此賣却代金三十九圓六十七錢ヲ得タリ

第七回ノ出漁ハ七月二十六日ヨリ八月二日ニ至ル潮時ニシテ五日間ノ出漁日數ヲ得テ今回ハ少シク沖合ニ漁場ヲ求メントシ安島ノ東沖合五哩ノ附近ニ出漁シタルモ此方面ハ潮流ノ速度少シク緩ニ失シテ充分本網ノ効果ヲ奏セズ漁獲ナカリシヲ以テ前回從漁シタル漁場ニ戻リ終始同所ニ從漁シテ漁獲物ハ前回同クたいチ主ナルモノトシ一網三十尾乃至五十尾ヲ漁獲シたものうを、いしもち等モ亦体形稍大ナリ此他はも、まなかつをノ漁獲モ多ク漁況好景ナリシモ漁獲高ハ雜魚二百七十一貫匁此賣却代金三十三圓五十二錢五厘ヲ得タルノミナリ元來此附近ハ鮫鱈網漁場トシテハ潮流緩慢ニ失シ殊ニ盈月中ノ潮ハ無月ノ潮ヨリモ滿干共ニ三尺ノ差異アル程ニシテ從テ流速モ緩慢ナレバ漁獲ノ成績モ午後ノ滿潮ニ一回多獲アルノミ他ノ潮時ニハ甚ダ掛ク良好ノ漁場トハ稱シ難シ斯クシテ麗水海灣ニ於ケル鮫鱈網漁業ハ第七回ノ出漁時ヨリくらげノ發生夥シク從漁困難ナルニ至リ且ツ釜山近海ニモ本漁業ヲ試驗スル豫定ナリシヲ以テ第八回ハ釜山方面ニ廻航シテ釜山港内、釜山港西口、多太浦沖合等ニ漁場ヲ搜索シタルモ各所共ニ潮流ノ方向區々ニシテ本漁業ニ適セズ九月中旬ノ大潮時ニ到リテハ絶影島沖合ノ深所ニ漁場ヲ求ムルノ目的ヲ以テ全島ノ南沖生島ノ附近ニ投網シタルニ豫知セザル底礁ニ漁網ヲ奪ハレ再ビ本試驗ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタリ

鮫鱈網漁獲物

朝鮮南海岸ニ於ケル鮫鱈網漁獲物ノ主ナルモノハいしもち、たものうを、まなかつを、たい等ナリ就中いしもちハ韓名英(チヨグウイ)ト稱シ朝鮮人ノ最モ嗜好スル魚類ニシテ都鄙山間到處トシテ之ヲ歡迎セザルノ地ナシ羅老島近海ニ於テいしもちノ來游ヲ見ルハ四月中旬頃ヲ初メトシ産卵ノ爲メ沖合ヨリ近岸ノ淺所ニ來ルモノニシテ五月上旬頃ニハ卵子著シク成熟シ雌雄密集シテ群泳ヲナス鮫鱈網漁業者ノ多獲ヲナスハ此時期ニシテ一網數千尾ヲ漁獲シ時トシテハ數萬ノ大群ヲ漁獲シ之ヲ船内ニ收容スルコト能ハザルガ如キコトア七月ニ至レバ概シテ産卵ナリ了リテ著シキ群游

ヲ見ルコト稀レナリ而シテ此方面ニ於ケルいしもちハ二種アリ一チ黄ぐらト稱シ一チ白ぐらト唱フ前ニ述マタルハ黄ぐらニシテ群游最モ濃密ナシ鮮人ノ嗜好スル種類ナリ白ぐらハ前者ニ比シテハ形体ノ大ナルモノアリト雖モ濃厚ナル群游ヲナスコト稀レニシテ嗜好モ亦黄ぐらニ亞グ生鮮、鹽藏、鹽乾共ニ需要アリ最モ需要ノ廣キハ鹽藏ニシテ其方法需要地ニヨリテ多少ノ相違アリ即チ全羅南道木浦以北ノ沿岸及大邱以北ノ市場ニ出ヅルモノハ腹部割キテ腸ヲ除キ鹽漬シタルモノニシテ釜山木浦間ノ沿岸向ハ丸ノ儘口ヨリ鹽ヲ押入レタルモノナリ何レモ長期間貯藏ヲナスモノハ假漬及本漬ヲナス腸腸ハ捕辛トシ又鹽漬シタル液汁ハ各種ノ漬物ヲナスニ當リ液汁トシテ朝鮮人間ニ實用セラルたものうをモ朝鮮人ノ嗜好ニ適スル魚類ニシテ需要頗ル多クいしもちニ亞ギテ漁獲多シ近海ニ游泳スルハ四月ヨリ十一月ニ亘ルモ鮫鱈網ノ盛漁期ハ六月下旬ヨリ七月末ニ至ル間ナリトス而シテたものうをハ鮫鱈齒ヲ有スルガ故ニ網ニ入ルトキハ齒牙網糸ニ懸リ爲メニ破損ヲ受クルコト夥シク修繕ニ手數ヲ要スルコト甚ダ多シ概シテ鹽藏トシテ都會ニ仕向ラル

以上ノ種類ハ鮫鱈網漁獲物ノ最モ主ナルモノニシテ此他まなかつを、たい等ノ貴重ナル魚類ノ漁獲モ多クまなかつをノ如キハ一時ニ數百尾ヲ獲ルコトアリたいモ一網數十尾ヲ漁獲スルコトアルモ新鮮ナル内ニ之ヲ市場ニ搬致スル方法講セラレズ朝鮮人ノ出買船ニヨリテ鹽藏セラレ都會ニ仕向ラル、モノナルガ故ニ二束三文ノ價ニ過ギズはもノ漁獲亦頗ル多シト雖モ朝鮮人間ノ需要ニ過ギザルヲ以テ價甚ダ低廉ナリ次ニ羅老島近海ノ漁場ニ於ケル漁獲物ノ賣買狀況ヲ記述センニ羅老島近海ハ明治四十二年頃ヨリ初メテ從漁セラル、ニ到リタル漁場ニシテ内地人及朝鮮人ノ漁船ヲ合シ本年ハ約七八十隻ニ達シタルモ之ニ對スル漁獲物ノ出買船ハ大小合シテ約三十隻内外ナリシガ如シ而シテ之等ノ出買船ハ概シテ零碎ノ資金ヲ所持シ漁場ニ出デ、漁獲物ヲ買受ケ滿船スルニ至レバ之レヲ漁場附近ノ都會地即興陽、順天、筏橋、麗水、河東、光陽等ニ搬致シ又ハ三千浦、固城、統營、馬山、釜山等ニ搬致販賣シ其得タル仕切金ヲ運轉シ再

ビ營業ヲ繼續スルモノニシテ需要ノ激増スル田植、盆會等ノ時期ニ到ルマデ持越シ利益ヲ見ルガ如キコトハ各市場ニ於ケル仲買人ノ手ニヨリ行ハル、状態ナルガ故ニ此種ノ出買船ハ寧ロ運搬機關タルノ觀ヲナセリサレバ一時ニ多量ノ漁獲ヲナシタル場合ハ一手ニ之レヲ買ヒ受ケルモノナキヲ以テ漁船ハ數隻ノ買船ニ之レヲ分割シテ販賣セザルベカラザルコトナルモ各漁船ガ皆同様ニ多量ノ漁獲ヲナシタル場合ニハ販賣ニ窮スルガ故ニ漁船側ニテハ價ノ高低ヲ論ゼズ先チ爭フテ漁獲物ヲ買船ニ渡サントシ當時ハ尾數ヲ算ヘテ受渡シチナスモ斯ル場合ニハ籠數ヲ以テ受渡シチナシ且ツ一面識モナキモノニ現金取引ヲナサズシテ貸賣チナスガ如キ甚ダシキ危險ヲ忍バザルベカラズ如斯状態ナルガ故ニ稍多量ノ漁獲アリシ場合ニハ相場ノ下落甚ダシク加之言語ノ不通ハ商談ノ進捗意ノ如クナラズシテ漁獲物ノ賣買ニハ非常ノ不便ヲ感ワツ、アリ若シ内地人ニシテ之等ノ實況ニ鑑ミテ漁獲物ノ購買チナシ田植ノ時期又ハ盆會等ノ需要増加スル時機マデ貯蔵スルノ方法ヲ探ルハ有望ノ事業ナルガ如ク思惟セラル、ノミナラズ如斯經營チナスモノアルニ至ラバ漁業ノ利益モ甚大ナルベシ

尙ホ朝鮮人出買船トノ漁獲物取引方法ヲ少シク記述センニ漁獲物ハ各種類毎ニ其大小ヲ撰別シ一々賣買價格ヲ定メ相互立會ノ上數ヲ算ヘテ受渡シチナシ尾數ヲ以テ算シ難キたらのうを、いしもちノ稚魚其他こねり等ノ小魚類ハ籠數ヲ以テ受渡チナス價格ノ協定現物ノ受渡シニ就テハ一々形体ノ大小ヲ論ワテ煩雜ナルコト言語ニ絶スルモノアリ普通漁場ニ於ケル漁獲物相場左ノ如シ

| 種類 | 形 | 容 | 價 | 格 |
|------|---------------|---|----------|---|
| いしもち | 大(体長八寸以上) | | 八厘乃至一錢六厘 | |
| 同 | 小(体長八寸以下四寸位迄) | | 三厘乃至六厘 | |

| | | |
|---------|---------------------|------------|
| たらのうを | 大(体高約二寸五分以上) | 四錢五厘乃至五錢 |
| 同 | 上(体高一寸五分以上) | 一錢八厘乃至二錢五厘 |
| 同 | 上(体高約一寸以上) | 八厘乃至一錢三厘 |
| まなかつを | 大小混合 | 三錢 |
| にべ | 体長三尺内外 | 十錢乃至十五錢 |
| ゑひ | 体重百二十寸内外 | 八厘 |
| ころさめ | 体重十五貫内外 | 二十五錢乃至三十錢 |
| はも | 大(体重約八百匁以上) | 四錢五厘乃至五錢 |
| 同 | 中(付重約四百匁以上) | 一錢八厘乃至二錢五厘 |
| 同 | 小(体重約三百匁以上) | 五厘乃至一錢二厘 |
| たらのうを稚魚 | (体高約一寸以下ノモノ一籠約五貫目入) | 二十五錢乃至二十八錢 |
| こねり | 一籠約四五貫目入 | 十四錢乃至二十錢 |

結論

本年度ニ於ケル鮫鱈網漁業試験ノ概況上述ノ如ク當初豫期セルガ如キ好結果ヲ得ルニ至ラザリシモ本試験ノ目的トセル打瀬網漁業者ノ夏季ノ經營トシテ本漁業ノ適否及其經濟狀況等略ホ知ルコトヲ得タレバ左ニ聊カ鄙見ヲ述ベシ打瀬網漁業者ノ夏季ノ經營ニ困難トスル事情ニアリハ風勢微弱ナル爲メ出漁日數尠ク且ツ充分操業シ得ル日數ノ尠

キコトハ漁獲物ノ變敗シ易キ爲メ可成速ニ市場ニ搬致セントシテ遠距離ノ漁場ニ出漁スルモノ少ク多數ノ當業者ハ皆ナ市場ニ近キ同一漁場ニ出漁スルヲ以テ近來漁獲ノ減少シタルコトニテ此等障礙ノ爲メ當業者ノ蒙ル影響甚ダ少カラズトス本試驗ハ即之ガ救済ノ方法ヲ講ゼンガ爲メ施行シタルモノニテ夏季ノ打瀬網漁業ニ代ハルベキ漁法トシテ鮫鱈網漁業ノ適當ナルヤ否ヲ實地ニ試驗セルモノナルガ前ニ述ベタル如ク本試驗ニ從事中ハ降雨又ハ風力強キニ過ギタル日多ク出漁日數ハ一ヶ月二十日内外ニ亘ルモ實際漁業ニ從事シ得タル日數ハ其三分ノ一内外ニ過ギズシテ打瀬網漁業者ノ就業日數ニ比スレバ却テ薄カリシモ其ノ漁獲金高ハ五月一日ヨリ八月二日ニ至ル約三ヶ月間ニ四百餘圓ニ達シ一ヶ月平均百餘圓ヲ得タリ此成績ハ肩巾十二三尺ノ打瀬漁船ガ釜山近海ニ於ケル同期間ノ漁獲成績ト零ホ一致シ鮫鱈網漁業ノミナリテハ著シキ漁獲高ノ增收ナシト雖モ打瀬漁船ヲ以テ此漁業ニ從事スルトキハ風力強キ日又ハ小潮時ニ際シ網ヲ使用シ得ザル場合等ハ打瀬網漁業ニ從事シ得ベク之ニヨリテ得タル收益ハ即チ增收トナルガ故ニ夏季鮫鱈網ヲ營ムハ利益ナリト稱スルコトヲ得ベシ而シテ又本漁業ノ漁獲物タルいしもち、たちのち等ハ鮮人向ノ鹽藏魚トシテ販路廣ク且ツ處理ノ容易ナルコトハ夏季魚類ノ腐敗シ易キ時期ニ於ケル一利トスル所ナリ打瀬網漁業者ガ本漁業ヲ營マントスルニハ漁網其他ノ購入費僅ニ百五十圓内外ニ過ギザル小資本ヲ以テ足ルガ故ニ起業モ容易ナルベシ而シテ又鮫鱈網漁船ハ普通吃水淺ク手ノ操縦ニ輕快ナルモノヲ用ユト雖モ本縣ノ打瀬漁船ヲ以テスルモ漁業上不便ヲ感ズルコトナク却テ船体大ニシテ漁網ノ大ナルモノヲ使用シ得ルノミナラズ漁獲物ノ收容帆走凌波等ニ便ナルヲ以テ寧ロ適長ナリトスルハ朝鮮海ニ出漁スル打瀬網漁業者ノ夏季ノ營業トシテ本漁業ヲ營ムハ彼ノ地ノ事情ニ適シタル策ニシテ利益少カラザルベシト信ズ

漁撈傳習生養成

四年度モ縣下漁業者ノ子弟ヲ募集シ四月一日ヨリ入場セシメ初メ三ヶ月間ハ主トシテ運用術航海術及造船學氣象學等ノ大意並ニ一般漁業ニ關スル梗概ヲ切實簡單ニ教授シ其後ハ本場所屬西洋形帆船愛知丸ニテ專ラ實技ノ練習ヲナサシムルノ傍ラ又研究ノ爲メ他ノ漁船ニモ乗組マシメ翌年三月末日ヲ以テ傳習ヲ了リタリ修業者ノ氏名等左ノ如シ

知多郡篠島村

辻

政

次

製 造 部

技 手 大 島 慎 二

本年度ニ於ケル事業ハ前年來施行中ナル燻製鰹並ニ輸出向捕獲鰹製造試験ニシテ傍ラ製造科傳習生ノ養成ヲナセリ今左ニ其ノ概況ヲ述ブベシ

燻 製 鰹 製 造 試 験

前年度製造シタル製品ハ全部名古屋市日本罐詰株式會社ニ委託シ東京、横濱、名古屋其他各地へ試賣シタルニ肉質稍々硬固ナリトノ品評ヲ致シタルモノアリシモ概シテ好評ヲ以テ迎ヘラレ相當價格ニテ賣行キタリト雖モ尙進ンテ廣ク販路ヲ索メ併セテ之レガ經濟上ノ諸關係ヲ明ニシ一面ニハ又生産費ノ節減ヲ計ルト共ニ製品價格ノ向上ヲ企圖センニハ更ニ尙調査試験ヲ要スル事項不揚ヲ以テ本年度モ引續キ之レガ試験ヲ施行シタリ然ルニ本年度ハ原料鰹稀有ナル不漁ニ終リ魚價著シク昂騰ヲ來シタリシノミナラズ之レヲ買集ムルニモ大ニ困難ヲ感ワタル程ナリシカバ僅ニ一基橢圓形温燻鰹罐詰一千百四十一個ヲ製造シタルニ過ギズシテ充分ニ叙上諸般ノ調査研究ヲ遂行スル能ハザリシハ遺憾トスル所ナリ今試験ノ梗概ヲ述ブレバ左ノ如シ

原 料

前年度ニ於ケル原料鰹ハ殆ンド体長四五寸体高六七分体重五六分内外ノ中羽鰹ニシテ体概チ肥盈シ脂肪分亦豐カニ且滋味ニ富メルモノナリシガ本年度ノモノハ概シテ体軀大ニシテ体長五六寸体高八九分体重十二三分内外ノ大中羽ヲ主トシ又体質前年度ノモノヨリ劣リ稍々瘠瘦シ脂肪分亦少ク製造原料トシテハ概シテ適長ナラザルモノ多カリキ而シテ

又本年漁獲セラレタルモノハ概不潤目鰹、鯷又ハ「サツバ」等他ノ魚類混ジタリシヲ以テ之レヲ購入製造スルニ當リ選別等ニ不揚手數ヲ要シタリ

製 造 順 序 方 法

製造ノ順序方法ハ殆ンド前年度ニ準據施行シタルモノナルヲ以テ今爰ニハ其變更シタル要点ノミニ付キ概述スベシ
用 鹽 鹽漬ニ使用シタル食鹽ハ前年度ニ於テハ専ラ獨逸産岩鹽ノミナリシガ本年度ハ何レノ販賣店ニモ品切ニシテ之レヲ購求スル事能ハザルガ故ニ已ムナク英國産海鹽ヲ使用シタリ但シ其品質價格前年度ニ使用シタル獨逸鹽ト大差ナク鹽漬用トシテモ格別支障ナキヲ認メタリ

今兩者ノ化學的成分ヲ比較センガ爲メ左ニ分析表ヲ掲ケ參考ニ資スベシ

| 鹽 種 | 獨 逸 鹽 | 英 國 鹽 | 鹽 化 曹 達 | 鹽 化 加 里 | 鹽 化 石 灰 | 硫 酸 石 灰 | 硫 酸 若 土 | 硫 酸 加 里 | 不 溶 解 物 | 水 分 |
|-----|-------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| | 九六、六九 | 九六、七三 | 一、六四〇 | 一、二七 | 一、〇八 | 〇、八〇八 | 〇、一三三 | 〇、〇三三 | 〇、一三三 | 〇、五四二 |
| | | | | | | | 微 量 | 一 | 〇、〇三三 | |

罐 裝 罐裝ノ方法ハ全ク前年度ト同様ナルモノ一罐ニ對スル裝填尾數ヲ約半減シ五尾乃至六尾宛ニ段即チ十尾乃至十二尾詰メトナセリ

製 品 處 分

本年度製造シタル製品ハ何レモ前年度ト同様全部名古屋市日本罐詰株式會社へ委託シ前年試賣シタル場所ノ外尙出來得ル限リ各所重要市場へモ見本品ヲ配付シテ其ノ品評ヲ需メ又ハ試賣シタリシガ本年度ハ原料不漁ノ爲メ製造數量少

充分試験ノ目的ヲ達スルコト能ハザリシモ概シテ好評ナリキ然レドモ惜ムラクハ近年原料鰻ノ不漁打續キ隨テ其價格暴騰シ又一方之レヲ蒐集スルニモ不撻費用ヲ要スルモノアルガ故生産費高價トナリ現在ニテハ收支ノ狀態餘リ良好ナラザルモ一朝漁況恢復セバ魚價自ラ低落スベク從テ生産費モ著シク減ズベキガ故ニ相當有望ナル事業トナルニ到ルヤ必セリ

事態右ノ如クニシテ本年度ニ於テハ充分ナル試験ノ目的ヲ達スル事能ハサリシヲ以テ次年度ニ於テ更ニ又試験スル所アラントス

輸出向塩藏鰻製造試験

前年度已ニ述ベタルガ如ク農商務省ニ於テ輸出重要水産物試賣方ニ關シ各府縣水産試験場等ト聯絡試験ヲ施行スル事ニ決定シ本試験モ亦其一ナルヲ以テ本場ハ前年度同省ト聯絡シ正味百八十斤入洋樽詰七個同百五十斤入和樽詰參個合計十個ヲ製造シ製品ハ同省ノ指定ニ基キ横濱市長者町五丁目合資會社駒田商店ノ手ヲ經テ米國桑港、紐育等へ試賣セシメタルガ同年度ハ原料不漁ノ結果魚價非常ニ昇騰シタル等ノ爲メ生産費甚ダ高價トナリ尙又試賣數量極メテ少數ナリシガ故ニ比較的運賃其ノ他諸掛等ニ多額ヲ要シ收支相償ハザル結果ヲ見タリ然リト雖モ製造上注意スベキ要點販路ノ狀況其他ニ關シ得ル所少カラズ之ヲシテ彼地ノ嗜好ニ適セシムル樣製造セシムル尙進テ試験研究スベキ必要アルヲ以テ本年度モ引キ續キ試驗ヲ施行セシモ先キニ鹽製鰻ノ項ニ於テ述ベタルガ如ク原料鰻稀有ナル不漁ニシテ僅ニ見本品少許ヲ試製シタル外試賣スベキ製品ノ製造ヲ行ヒ難ク遺憾ナガラ前年度ニ引キ續キ米國各市場ニ於ケル販路ノ狀況ヲ調査スルコト能ハズシテ本年度ハ之レヲ中止スルノ止ムナキニ終レリ然ルニ近年鰻ハ例年ニナキ好漁打續キ其ノ漁況漸次盛運ニ赴キ内海外海共ニ其ノ漁獲夥シク前年度ニアリテハ實ニ其ノ年産額二十余萬圓ノ多額ニ及ベリ而シテ之

レガ從來ニ於ケル利用製造ノ狀況ヲ通觀スルニ殆ンド全部養干或ハ田作ニ製造セラレ他ニハ利用ノ途ヲ知ラザルモノ、如シ故ニ一朝鰻ノ群來スルアリテ一時多量ノ漁獲アルヤ其ノ處理ニ窮シ空シク拍又ハ干鰯等ノ肥料ニ化製スルノ已ムナキニ至ル場合抄カラズ而シテ又鰻ハ其ノ體軀小ナルモノハ養干、田作等ノ食品ニ製シ適當ナルモ其大ナルモノニアリテハ不適當ナルガ故ニ此ノ如キ種類ノモノ多獲セラレ、ニ及ンデハ食品ニ利用セラレ、事少ク却テ肥料ニ化製セラレ、事多キ狀況ナリ

此ノ如キハ畢竟其ノ利用厚生ノ途全カラザルニ由ルモノニシテ吾人ノ愛ニ不撻調査研究ヲ要スル事項トラスンバアラザルナリ誠テ泰西諸邦ニ於ケル該魚ノ利用方法ヲ見ルニ主トシテ鹽藏トナシ其ノ需要頗ル大ニシテ價格亦甚ダ貴シ故ニ若シ之レガ販路ヲ一旦彼地ニ開拓ン得バ該魚ノ利用ハ爲メニ益々増進セラレ將來甚ダ有望ナルベキ事業ニシテ之レガ利用ノ試験ハ目下ニ於ケル急務ノ一タルヲ疑ハザルニ由リ本年度ハ鰻ヲ原料トシ兼テ農商務省水産講習所ニテ施行シタル方法ニ準據試製シタリ今左ニ項ヲ分チ試験ノ概況ヲ述ブベシ

原料

本品製造ニ當リ原料タル鰻ハ可成生鮮ニシテ且體軀ノ大ナルモノヲ選別購入シタリ其ノ大サハ普通體長三寸五分乃至四寸五分體高四分乃至六分體量二匁乃至四匁内外ノモノヲ主トセリ然シテ又體質ハ可成肥盈シ脂肪分豐富ナルモノヲ要求シタルモ本年度ノモノハ概シテ瘠瘦シ脂肪分亦欠乏シタルモノ多カリシハ遺憾ナリキ

原料購入ニ際シ特ニ體軀ノ大ナルモノヲ選ビタルハ前已ニ述ベタルガ如ク其小ナルモノハ田作、養干ニ製スル等其利用ノ途廣キモ大ナルモノハ用途狹キガ故ニ可成之レガ利用ノ途ヲ講セントスルト一方泰西諸邦ニ於テハ形體ノ大ルモノ賞用スルニヨルナリ

製造順序方法

六二

原料處理 鯉ハ他魚ニ比シ体軀矮小ニ又肉質脆弱ナルガ爲メ取扱ヒテ叮嚀ニシテ小籠ニ少量ヲ、盛り分け若シ漁場ヨリ製造場ヘ到着スル迄ニ長時間ヲ要スルトキハ必ラズ原料買廻船中ニ於テ適度ニ施漬シ運搬中其ノ形態ノ損セザル様注意セリ

原料ノ製造場ニ到着スルヤ先ツ大桶ニ海水ヲ汲ミ此内ニテ小籠ニ入レタルマ、數回洗滌シ其ノ表面ニ附着セル粘質物ヲ除去セリ蓋シ此ノ際充分粘質物ヲ洗除セザレバ爲メニ浸漬スベキ漬汁ノ混濁ヲ來ス憂アルノミナラズ且漬分浸透遲緩ナルモノ、如シ洗滌用水ハ淡水ヲ使用セズ若シ海水ヲ得難キ場合ニハ母氏三度内外ノ稀薄漬水ヲ用ユ然ラザレバ原料ハ其ノ外觀色澤ヲ著シク損スルノ憂アリ又原料中ニハ往々他魚混在スルヲ以テ豫メ之レヲ選別シ其ノ選別ニ當リテハ可成叮嚀ニ取扱ヒ鯉ニ手ヲ觸ル、事ナクシテ混魚ヲ取り除ク様注意ヲ拂ヘリ

第一漬水漬 右ノ如クニシテ選別洗淨シタルモノハ傍ラヨリ直チニ之レヲ漬水ニ浸漬シタリ之レニ用ヒタル容器ハ直徑三尺深サ二尺内外ノ木槽並ニ四斗樽ニシテ豫メ飽和漬水ヲ零半バ湛ヘ其ノ内ニ零同量ノ原料ヲ投入浸漬セリ而シテ又原料中ニ漬分浸透スルニ從ヒ漬水ノ濃度漸次稀薄トナルヲ以テ時々少許宛食漬ヲ加ヘ後浮蓋ヲ施シ置キ又浸漬中ニハ可成原料中ニ浸透スベキ漬分ノ均一ヲ計ルグ時々上下攪拌シカクシテ傍ヨリ少許宛堀ヒ出シ調理ニ着手シタリ

調理

歐米諸邦ニ於テ需要セラル、漬藏鯉ニハ頭部及内臟等ヲ除去セズシテ其ノ儘漬藏樽詰シタルモノト之レヲ除去セル後漬藏樽詰シタルモノトアレドモ今回本場ニテ試製シタルモノハ後者ニ屬セリ

先ツ漬漬セシ原料ハ傍ヨリ之レヲ小籠ニ盛り一旦其ノ漬水中ニテヨク洗滌シ一尾宛左手ニ取り右手ノ母指ト示指ノ爪切リチナセリ

原料ノ調理ヲ行フニ當リ生鮮ノマ、ナルモノト一旦漬漬シタルモノトハ著シク其ノ趣ヲ異ニスルモノニシテ其ノ作業後者ニ於テ頗ル困難ナリ然リト雖モ一時ニ多量ノ原料ヲ處理センニハ到底生鮮ノ儘之レヲ處理スル事不可能ノ事ニ屬スルヲ以テ原料ハ製造場ニ到着スルヤ何レモ一旦選別洗滌了リタル後チハ直チニ全部飽和漬水中ニ浸漬シ置キ傍ヨリ順次少許宛取り揚ケ調理シ調理了レバ直ニ血抜洗滌水切シタル後再度飽和漬水中ニ浸漬シタリ

第二漬水漬 原料ノ調理了レバ血抜洗滌水切シタルモノハ順次再度元ノ漬漬桶中ニ投入シ第一漬水漬ト同様ノ方法ヲ以テ第二漬水漬ヲ行ヘリカクシテ原料ニハ第一漬水漬着手ヨリ約一日ヲ經過セシムルトキハ漬分ハ魚体内ニ充分浸透スルニ至ルヲ以テ爰ニ漬水漬了レシ本漬ヲ行ヘリ

先ツ以テ頸骨ヲ挟ミ切り其、儘後ク引ケバ内臟ハ頭部ニ附着シタル儘共ニ除去セラル、モノトス又右調理ノ方法トシテ缺及ビ「ピンセット」又ハ小刀等ヲ使用スル事アレドモ作業上最モ便利ニシテ且迅速ナルハ今回施行シタル指頭ヲ用フル方法ナリトスカクシテ調理了リタルモノハ別ニ準備シタル飽和漬水中ニテ約三十分間内外血抜洗滌シタル後水切リチナセリ

原料ノ調理ヲ行フニ當リ生鮮ノマ、ナルモノト一旦漬漬シタルモノトハ著シク其ノ趣ヲ異ニスルモノニシテ其ノ作業後者ニ於テ頗ル困難ナリ然リト雖モ一時ニ多量ノ原料ヲ處理センニハ到底生鮮ノ儘之レヲ處理スル事不可能ノ事ニ屬スルヲ以テ原料ハ製造場ニ到着スルヤ何レモ一旦選別洗滌了リタル後チハ直チニ全部飽和漬水中ニ浸漬シ置キ傍ヨリ順次少許宛取り揚ケ調理シ調理了レバ直ニ血抜洗滌水切シタル後再度飽和漬水中ニ浸漬シタリ

第二漬水漬 原料ノ調理了レバ血抜洗滌水切シタルモノハ順次再度元ノ漬漬桶中ニ投入シ第一漬水漬ト同様ノ方法ヲ以テ第二漬水漬ヲ行ヘリカクシテ原料ニハ第一漬水漬着手ヨリ約一日ヲ經過セシムルトキハ漬分ハ魚体内ニ充分浸透スルニ至ルヲ以テ爰ニ漬水漬了レシ本漬ヲ行ヘリ

本漬 先ツ樽ノ底部ニ食塩ヲ平均ニ撒布シ原料ハ其ノ背部チ下向ニシ頭部チ側方ニ尾部チ中央ニ向ケ魚体チ稍斜ニ併列シ間隙ナク詰メ終レバ食塩ヲ施シ第二層ヨリハ前ト反對ニ魚体ノ背部チ上方ニシテ併列シ順次層々如此シテ各層毎ニ撒布スル食塩ハ下層ヨリ上層ニ至ルニ從ヒ其量ヲ増加ス）樽内ニ充滿スルハ樽ノ大サニ相應スル押蓋ヲ施シ適度ノ壓ヲ加ヘタリ其重量ハ初メ輕ク後重クシ五貫匁ヨリ七八貫匁内外ニ及ビ此際浸出セラレタル液汁ハ時々抄ヒ去リタリ斯テ數日ヲ經過スルトキハ魚体漸次壓搾セラレ容積減ズルヲ以テ更ニ原料ヲ追加シ樽内ニ充滿セシメ前ト同様加壓シ數日後又原料ヲ補充シ表面ニハ充分撒布シ蓋ヲ嵌メ樽側ニ穿チタル小孔ヨリ飽和漬水ヲ充分注入シ尙其儘數日ヲ經過セシメ鹽水ノ足ラザルモノハ之ヲ補足シ後密封シ製了セリ然シテ尙密封後數日間樽チ上下顛倒シ其ノ漬汁ノ漏洩ナ

六三

キヤ否ヤナ檢シ若シ漏洩セル個所アルヲ認メタルトキハ箍ヲ堅ク嵌メ込ミ以テ漏汁ノ少量ヲリトモ漏洩スル事ナカラシメタリ

用鹽 用鹽ノ精粗ハ製品ノ品質ニ不影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ之レガ選擇ニ注意シ本年度ニ於テハ蒸製ト同様英國産海鹽ヲ使用シタリ

容器 本漬ニ使用シタル容器ハ攝津國川邊郡尼ヶ崎町日本製樽株式會社ノ製作ニ係ル百斤入洋樽ニシテ材質槽高一尺八寸七分上下直徑(外法)一尺二寸三分腹部ノ周圍四尺五寸九分側板及蓋底ノ厚サ六分ニシテ鐵箍六個ヲ嵌メタルモノナリ

製 品

本年度製造シタル製品ハ何レモ百斤入洋樽詰合計十個ニシテ今右一樽分ニ對スル平均原料尾數同重量他詳細ヲ舉グレバ左ノ如シ

| | |
|-------------|---------|
| 原料容量 | 八斗〇八合 |
| 同 尾數 | 一二、九二〇尾 |
| 同 重量 | 三二、四〇〇匁 |
| 正味重量(調理漬漬後) | 一五、三四〇匁 |
| 撒鹽重量 | 三、〇六八匁 |
| 飽和鹽水重量 | 一、二〇〇匁 |
| 空樽重量 | 四、〇〇〇匁 |

總 重 量

一一三、六〇八匁

然シテ右製品ニ對スル成績ハ未ダ判然セザル廉アルヲ以テ追テ報告スル所アラントス

製造科傳習生養成

縣下各郡ヨリ當業者ノ子弟ニシテ將來水産製造業ニ從事セントスル希望者ヲ募集シ六月一日ヨリ十一月三十日ニ至ル六ヶ月間専ラ水産製造ニ關スル實技ト之レニ伴フ學理トヲ簡易切實ニ教授シタリ修業者ハ合計七名ニシテ其ノ住所氏名ヲ舉グレバ左ノ如シ

| | |
|--------|-------|
| 渥美郡老津村 | 彦坂茂登一 |
| 知多郡豐濱町 | 岩本宗期九 |
| 知多郡旭村 | 大江直次郎 |
| 渥美郡福江町 | 渡邊倉次郎 |
| 八名郡大野町 | 小松藤市 |
| 知多郡豐濱町 | 森本寅吉 |
| 碧海郡新川町 | 小島一也 |

調 査 部

鱈 漁 業 基 本 調 査

前年度ニ繼續シ鱈漁業ニ關スル諸般ノ調査ヲ施行シテ本漁業ノ完全ナル發展保護方法ヲ確定スルニ必要トスベキ基本
的資料ヲ蒐集センコトヲ期セシガ本年度ハ場員ノ都合其他ノ事情ニヨリ僅々數回出船調査シタルニ過ギズ從テ充分ニ
資料ヲ得ル能ハザリシモ今其結果ヲ表示スレバ左ノ如シ

第 貳 號

| 大正元年十一月十一日午後五時四十分調査 | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|---------|---------|------|---------|----|------|-----|---------|--------|------|-----|--------|
| 漁場 / 位置 | 知多郡師崎幡豆岬南方五分ノ二湊 | | | | | | 漁場水深 | 6 呎 | | | | | |
| | | | | | | | 漁場底質 | 砂 | | | | | |
| 氣象 | 天 | 氣 | 雲 | 量 | 風 | 向 | 風 | 力 | 氣 | 温 | 氣 | 壓 | |
| | 晴 | | 6 | | 北 | 西 | 2 | | 14.6 | | | | |
| 海 | 海面 | | 海底 | | 水色 | | 5 | | 潮時 | | 一合目 | | |
| | 水温 | | 14.8 | | 15.6 | | 透明度 | | 2 尺 | | 潮向 | | 南 |
| 况 | 比 | 水温 | 14.6 | | 15.4 | | 月齡 | | 2.0 | | 潮速 | | 緩 |
| | 標準 | 比重 | 1.02220 | | 1.02269 | | | | | | | | |
| 魚体調査 | 魚体 | 最大 | | | 最多 | | | 最小 | | | | | |
| | | 尾數 | 体長 | 体重 | 尾數 | 体長 | 体重 | 尾數 | 体長 | 体重 | | | |
| 大サ | 13 | 自 | 5.95 | 10.0 | 30 | 自 | 5.40 | 8.6 | 7 | 自 | 5.10 | 9.0 | |
| | | 至 | 6.75 | 14.0 | | 至 | 5.85 | 9.0 | | 至 | 5.30 | 7.5 | |
| (五十尾) | 雌 | 雄 | 2 5 尾 | | 生殖器 | 雌 | | 半熟 | | | | | |
| | 割 | 合 | 2 5 尾 | | ノ | 熟 | 否 | 雄 | | 半熟 | | | |
| 胃腸内含有物 | 種類 | 硅藻類最モ多シ | | | | | | 重量 | 7.0 | | | | |
| | 容量 | | | | | | | 容量 | 45.0 cc | | | | |
| 採種ノ類 | 上 | 硅藻類 | 鞭藻類 | ヲ | 主 | ト | シ | 採 | 上 | 7.0 cc | 採 | 上 | 海面 |
| | 下 | 硅藻類 | 鞭藻類 | ヲ | 主 | ト | シ | 採 | 下 | 6.0 cc | 採 | 下 | 水深 8 呎 |
| 参考記事 | 師崎水道附近ニテハ前表以後ニ於テ三四回程稍々好獲(一回一網百五六十桶乃至三百桶位)セシコトアリシガ中旬ニ入り再ビ不漁トナル本日モ上記漁場ニ於テ午後五時頃魚群ヲ認メ巾着網五統一齋ニ投網セシニ内ニ統十五六桶ヲ獲タリ他ハ何レモ數桶ニ過ギズ漁獲物ハ真鯷六分目鰯四分ノ割合ニ混セリ渡會附近ニテハ本月初メ四五日間稍好漁アリシモ昨今ハ其影ヲ認メズ漁況極メテ寂寥タリ | | | | | | | | | | | | |

第 壹 號

| 大正元年十一月四日午後三時調査 | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|----------------|---------|------|---------|----|--------|--------|----------|--------|------|-----|---|
| 漁場 / 位置 | 知多郡師崎幡豆岬南方二分一湊 | | | | | | 漁場水深 | 10 呎 | | | | | |
| | | | | | | | 漁場底質 | 砂 | | | | | |
| 氣象 | 天 | 氣 | 雲 | 量 | 風 | 向 | 風 | 力 | 氣 | 温 | 氣 | 壓 | |
| | 曇 | | 10 | | 東 | 北 | 4 | | 16.5 | | | | |
| 海 | 海面 | | 海底 | | 水色 | | 5 | | 潮時 | | 一合目 | | |
| | 水温 | | 18.5 | | 19.5 | | 透明度 | | 20 尺 | | 潮向 | | 南 |
| 况 | 比 | 水温 | 18.5 | | 19.0 | | 月齡 | | 24.6 | | 潮速 | | 緩 |
| | 標準 | 比重 | 1.02200 | | 1.02293 | | | | | | | | |
| 魚体調査 | 魚体 | 最大 | | | 最多 | | | 最小 | | | | | |
| | | 尾數 | 体長 | 体重 | 尾數 | 体長 | 体重 | 尾數 | 体長 | 体重 | | | |
| 大サ | 18 | 自 | 5.90 | 10.0 | 29 | 自 | 5.40 | 9.0 | 3 | 自 | 5.30 | 7.0 | |
| | | 至 | 6.30 | 16.0 | | 至 | 5.80 | 9.0 | | 至 | 5.30 | 7.0 | |
| (五十尾) | 雌 | 雄 | 1 9 尾 | | 生殖器 | 雌 | | 未熟 | | | | | |
| | 割 | 合 | 3 1 尾 | | ノ | 熟 | 否 | 雄 | | 全 | | | |
| 胃腸内含有物 | 種類 | 硅藻類ヲ主トシ其他橈脚類等交 | | | | | | 重量 | 15.0 | | | | |
| | 容量 | ハル | | | | | | 容量 | 108.0 cc | | | | |
| 採種ノ類 | 上 | 硅藻類 | 橈脚類 | 多 | シ | 採 | 上 | 5.5 cc | 採 | 上 | 海面 | | |
| | 下 | 全 | 上 | | 採 | 下 | 4.0 cc | 採 | 下 | 水深 9 呎 | | | |
| 参考記事 | 本漁場附近ニ出漁セル巾着網ニ統アリ午後二時四十分魚群ヲ認メ投網シタルニ一統ト桶(一桶ハ壹斗入)程ヲ獲タルノハ漁獲物ハ真鯷ト目鰯ト相半ヒリ本年ハ七月上旬頃ヨリ渡會(伊勢海)野島(徳島)方面ニテ小鯉ノ群游ヲ認メ八月初旬ヨリ巾着網ニ統出漁シタルモ殆ト漁獲ナシ其後渡會附近及中山水道ニ大羽並ニ中羽來遊シ九月上旬ニハ巾着網十一統ニ増加シタルモ拙々數所獲ナク全月下旬ヨリ十月中ハ全ク魚影ヲ失シ之ヲ見ル能ハサリシガ一兩日前ヨリ稍濃厚ナル魚群海口ニ現ハレタルヨリ一時休業セル巾着網ハ再ビ出漁ヲナシ一日百五六十桶乃至二三百桶位ノ漁獲アリ又本日師崎水道俗稱カミコ附近ニモ魚群現ハレタルガ稀薄ニシテ概テ四五十桶以下ノ所獲ニ過ギズ目鰯九分真鯷ハ僅ニ一分ヲ占ムルニ本年度漁場ニ出漁調査シタルノ本日ヲ以テ始トス水色ハ「フォーレル」氏水色標準液ノ番號ニヨル | | | | | | | | | | | | |

第 四 號

| 大正元年十一月十八日午前六時半調査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------------------|--------|-----------------|-----|------|-----|-----------------|-----------------|--------|------|-----------------|------|-----------------|------|------|---|---|------|---|------|-----|-----|
| 漁場ノ位 | 置 | 知多郡師崎橋豆岬東方三分ノ二湊 | | | | | | 漁場水深 | 21 _m | | 漁場底質 | 砂 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 漁場底質 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 氣象 | 天 | 氣 | 雲 | 量 | 風 | 向 | 風 | 力 | 氣 | 温 | 氣 | 壓 | | | | | | | | | | | |
| | 晴 | | 5 | | 北 | | 2 | | 9.5 | | | | | | | | | | | | | | |
| 海況 | 水 | 温 | 海面 | 15.2 | 海底 | 15.8 | 水色 | 3 | 潮時 | 十合目 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 比 | 水量 | 14.9 | 標準 | 15.5 | 透明度 | 12 _π | 潮向 | 南 | | | | | | | | | | | | | |
| 魚体調査 | 大 | サ | 尾數 | 18 | 自 | 5.90 | 至 | 6.50 | 11.5 | 16.0 | 24 | 自 | 5.40 | 至 | 5.85 | 11.0 | 8 | 自 | 5.05 | 至 | 5.35 | 8.5 | 9.0 |
| | | | 尾數 | 18 | 自 | 5.90 | 至 | 6.50 | 11.5 | 16.0 | 24 | 自 | 5.40 | 至 | 5.85 | 11.0 | 8 | 自 | 5.05 | 至 | 5.35 | 8.5 | 9.0 |
| 雌雄ノ割合 | 雌 | 19 _尾 | 雄 | 31 _尾 | 生殖器 | 未熟 | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 4 | 生殖器 | 未熟 | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 4 | | | | | | | |
| | 雌 | 19 _尾 | 雄 | 31 _尾 | 生殖器 | 未熟 | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 4 | 生殖器 | 未熟 | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 4 | | | | | | | |
| 胃腸内含有物 | 種 | 硅藻類、桡脚類、主トシ鞭藻類等ヲ交ス | | | | | | 重量 | 10.0 | | 容量 | 62.0 cc | | | | | | | | | | | |
| | 類 | | | | | | | 重量 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 採種 | 上 | 採集 | 35 cc | 水面 | | | 採種 | 下 | 採集 | 3.0 cc | 水深 | 20 _m | | | | | | | | | | | |
| | 下 | 採集 | 3.0 cc | 水深 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考記事 | 漁場附近ニテ午六時頃小魚群ヲ認メ巾着網七統何レモ投網シタルニ内三統七八十捕ヲ得タリ他ハ十捕内外或ハ四五捕位ノモノモアリ漁獲物ハ真鯛六分、鯛三分、鰯一分ノ割合ナリキ | | | | | | | | | | | 参考記事 | | | | | | | | | | | |
| | 目下漁場ハ本表記載ノ場所並ニ伊勢灣口附近ニシテ巾着網ハ此兩漁場ニ集マリ從業セルモ抄々シキ漁獲ナシ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

第 參 號

| 大正元年十一月十二日午後六時二十分調査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|--------------------|--------|-----------------|-----|------|-----|-----------------|----------------|--------|------|----------------|------|-----------------|------|------|---|---|------|---|------|-----|-----|
| 漁場ノ位 | 置 | 知多郡師崎橋豆岬南方一湊 | | | | | | 漁場水深 | 8 _m | | 漁場底質 | 砂 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 漁場底質 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 氣象 | 天 | 氣 | 雲 | 量 | 風 | 向 | 風 | 力 | 氣 | 温 | 氣 | 壓 | | | | | | | | | | | |
| | 晴 | | 5 | | 北 | 西 | 2 | | 13.2 | | | | | | | | | | | | | | |
| 海況 | 水 | 温 | 海面 | 13.5 | 海底 | 14.0 | 水色 | 5 | 潮時 | 一合目 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 比 | 水量 | 13.5 | 標準 | 13.9 | 透明度 | 不明 | 潮向 | 南 | | | | | | | | | | | | | |
| 魚体調査 | 大 | サ | 尾數 | 11 | 自 | 5.95 | 至 | 6.60 | 11.0 | 13.5 | 33 | 自 | 5.40 | 至 | 5.80 | 1.05 | 6 | 自 | 10.5 | 至 | 5.35 | 7.5 | 9.0 |
| | | | 尾數 | 11 | 自 | 5.95 | 至 | 6.60 | 11.0 | 13.5 | 33 | 自 | 5.40 | 至 | 5.80 | 1.05 | 6 | 自 | 10.5 | 至 | 5.35 | 7.5 | 9.0 |
| 雌雄ノ割合 | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 19 _尾 | 生殖器 | 未熟 | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 4 | 生殖器 | 未熟 | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 4 | | | | | | | |
| | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 19 _尾 | 生殖器 | 未熟 | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 4 | 生殖器 | 未熟 | 雌 | 31 _尾 | 雄 | 4 | | | | | | | |
| 胃腸内含有物 | 種 | 硅藻類、桡脚類、主トシ鞭藻類等ヲ混ズ | | | | | | 重量 | 7.0 | | 容量 | 46.0 cc | | | | | | | | | | | |
| | 類 | | | | | | | 重量 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 採種 | 上 | 採集 | 5.0 cc | 水面 | | | 採種 | 下 | 採集 | 6.5 cc | 水深 | 7 _m | | | | | | | | | | | |
| | 下 | 採集 | 6.5 cc | 水深 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考記事 | 漁場附近ニテ午後六時頃小魚群ヲ認メ巾着網七統何レモ投網シタルニ内三統七八十捕ヲ得タリ他ハ十捕内外或ハ四五捕位ノモノモアリ漁獲物ハ真鯛六分、鯛三分、鰯一分ノ割合ナリキ | | | | | | | | | | | 参考記事 | | | | | | | | | | | |
| | 目下漁場ハ本表記載ノ場所並ニ伊勢灣口附近ニシテ巾着網ハ此兩漁場ニ集マリ從業セルモ抄々シキ漁獲ナシ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

二月分

| 調査月日 | 一日午後二時 | 十一日午後二時 | 二十四日午後二時 |
|---------|--|---------------------------|---------------------------|
| 月 齡 | 12.7 | 23.7 | 5.9 |
| 氣 象 | 天 氣 | 曇 | 快 晴 |
| | 雲 量 | 10 | 1 |
| | 風 位 | 北 西 | 北 |
| | 風 力 | 2 | 2 |
| 氣 温 | 6.6 | 9.5 | 14.0 |
| 海 況 | 水 温 | 海面 8.5 海底 — | 海面 9.0 海底 — |
| | 比 重 | 海面 1.2335 海底 — | 海面 — 海底 — |
| | 色 水 | 5 | 6 |
| | 透明度 | 25 _尺 | 34 _尺 |
| 浮 游 生 物 | 種 類 | 鞭藻類。桃脚類。放射類等 | 硅藻類。鞭藻類。主トス |
| | 採集量 | 上 75.0 cc 下 50.0 cc | 上 55.0 cc 下 35.0 cc |
| | 水深 | 上 海面 下 13 _尺 | 上 海面 下 14 _尺 |
| | 底質 | 砂 泥 | 砂 泥 |
| 參 考 事 項 | 當月中篠島附近ニ於ケル主ナル漁獲ハあいなめ。くじめ。くろめばる。なまこ。せいご。ぼら等ニシテ一般平漁ナリ | | |

一月分

| 調査月日 | 五日午後二時 | 十四日午後二時 | 二十一日午後二時 |
|---------|---|---------------------------|---------------------------|
| 月 齡 | 15.5 | 24.5 | 1.7 |
| 氣 象 | 天 氣 | 晴 | 曇 |
| | 雲 量 | 3 | 10 |
| | 風 位 | 北 | 西 |
| | 風 力 | 1 | 1 |
| 氣 温 | 10.5 | 6.1 | 7.5 |
| 海 況 | 水 温 | 海面 12.0 海底 — | 海面 10.0 海底 — |
| | 比 重 | 海面 1.02841 海底 — | 海面 1.02160 海底 — |
| | 水 色 | 5 | 5 |
| | 透明度 | 15 _尺 | 25 _尺 |
| 浮 游 生 物 | 種 類 | 鞭藻類。硅藻類。主トス | 硅藻類。桃脚類。主トス |
| | 採集量 | 上 50.0 cc 下 2.5 cc | 上 25.0 cc 下 5.0 cc |
| | 水深 | 上 海面 下 13 _尺 | 上 海面 下 14 _尺 |
| | 底質 | 砂 泥 | 砂 泥 |
| 參 考 事 項 | 當月中篠島附近ノ主ナル漁獲物ハなまこ。くろめばる。あいなめ。くじめ。かれい等ニシテ一般少漁ナリ 水色ハ「フォーレル」氏水色標準液番號ニヨル以下各表之レニ準ス | | |

海洋觀測表

(觀測点ノ位置篠島南端ノ西微北一哩三分ノ一)

次ニ大正元年度一月ヨリ十二月ニ至ルマデ毎月三回一定ノ場所ニテ調査シタル海洋觀測表ヲ掲ゲ以テ觀測期間ノ前後並ニ一ケ年間ニ於ケル海況氣象及其他ニ關スル一般概況ヲ知ルノ便ニ供ス

四月分

| 調査月日 | 二日午後二時 | 十三日午後二時 | 二十一日午後二時 | |
|-------------|---|------------------------------|---|------------------------|
| 月 齡 | 14.2 | 25.2 | 3.6 | |
| 氣 象 | 天 氣 | 曇 | 快 晴 | |
| | 雲 量 | 10 | 0 | |
| | 風 位 | 西 南 | 南 | |
| | 風 力 | 1 | 1 | |
| 氣 温 | 12.0 | 14.0 | 21.5 | |
| 海 水 | 水 温 | 海面 12.0 海底 — | 海面 12.0 海底 — | |
| | 比 重 | 12.0 — 標準 1.02440 — | 12.0 — 標準 1.02440 — | |
| | 水 色 | 6 | 3 | |
| 况 | 透明度 | 17 尺 | 20 尺 | |
| | 沙 時 | 滿 四 合 目 | 滿 十 合 目 | |
| | 沙 向 | 北 | 北 | |
| | 沙 速 | 稍 急 | 稍 急 | |
| | 浮 游 生 物 | 種 類 | 上 橈脚類、鞭藻類、硅藻類ヲ主トシ葉脚類等混ハル 下 硅藻類、橈脚類多シ | 上 硅藻類、鞭藻類ヲ主トス 下 全 上 |
| 採 集 量 | 上 9.0 cc. 下 1.0 cc. | 上 1.5 cc. 下 15 cc. | 上 1.0 cc. 下 0.5 cc. | |
| 浮 水 層 採 集 深 | 上 海 面 下 13 呎 | 上 海 面 下 14 呎 | 上 海 面 下 13 呎 | |
| 浮 採 集 場 底 質 | 砂 泥 | 砂 泥 | 砂 泥 | |
| 參 考 事 項 | 當月中篠島附近ニ於ケル主ナル漁獲物ハ甲いか、かれい、くじめ、あいなめ、さより、すき、なまこ、等ニシテ甲いかハ頗ル好漁かれい中漁ナルモ其他ハ一般平漁ナリ | | | |

三月分

| 調査月日 | 一日午後二時 | 十一日午後二時 | 二十一日午後二時 | |
|-------------|---|------------------------------|------------------------------|-------------------------|
| 月 齡 | 11.9 | 21.9 | 2.2 | |
| 氣 象 | 天 氣 | 曇 | 曇 | |
| | 雲 量 | 10 | 10 | |
| | 風 位 | 北 | 西 南 | |
| | 風 力 | 1 | 1 | |
| 氣 温 | 14.5 | 11.5 | 15.0 | |
| 海 水 | 水 温 | 海面 11.0 海底 — | 海面 11.0 海底 — | |
| | 比 重 | 11.0 — 標準 1.02374 — | 11.0 — 標準 1.02374 — | |
| | 水 色 | 6 | 6 | |
| 况 | 透明度 | 25 尺 | 27 尺 | |
| | 沙 時 | 滿 九 合 目 | 干 五 合 目 | |
| | 沙 向 | 北 | 南 | |
| | 沙 速 | 緩 | 稍 急 | |
| | 浮 游 生 物 | 種 類 | 上 橈脚類、硅藻類ヲ主トス 下 全 上 | 上 硅藻類、鞭藻類、橈脚類等 下 全 上 |
| 採 集 量 | 上 50.0 cc. 下 2.5 cc. | 上 75.0 cc. 下 12.0 cc. | 上 50.0 cc. 下 12.0 cc. | |
| 浮 水 層 採 集 深 | 上 海 面 下 海 面 | 上 海 面 下 海 面 | 上 海 面 下 海 面 | |
| 浮 採 集 場 底 質 | 砂 泥 | 砂 泥 | 砂 泥 | |
| 參 考 事 項 | 當月中篠島附近ニ於テハぼら、せいご、あいなめ、くじめ、くろめばら、かれい、なまこ、甲いか等ヲ主ナル漁獲物トシ一般好漁ナラザルモ甲いかハ中旬ヨリ弗々漁獲ヲ見稍々好況ナリ | | | |

六 月 分

| 調査月日 | | 二日午後二時 | 十一日午後二時 | 二十三日午後二時 |
|---------|---|---------------|-------------|-------------|
| 月 齢 | | 16.2 | 25.2 | 7.9 |
| 氣 象 | 天 氣 | 晴 | 快 晴 | 曇 |
| | 雲 量 | 3 | 2 | 10 |
| | 風 位 | 西 南 | 南 | 南 |
| 象 | 風 力 | 1 | 2 | 1 |
| | 氣 温 | 22.5 | 22.3 | 25.6 |
| 海 | 水 温 | 海面 18.7 | 海面 21.3 | 海面 22.7 |
| | | 海底 16.9 | 海底 17.5 | 海底 20.6 |
| | 比 水 温 | 18.8 | 21.3 | 22.7 |
| | | 17.8 | 17.5 | 20.6 |
| | 重 標準 比重 | 1.02389 | 1.02464 | 1.02442 |
| | | 1.02565 | 1.02407 | 1.02547 |
| 水 色 | 4 | 3 | 4 | |
| 透明度 | 20 尺 | 25 尺 | 23 尺 | |
| 况 | 汐 時 | 滿 三 合 目 | 滿 八 合 目 | 干 一 合 目 |
| | 汐 向 | 北 | 北 | 南 |
| | 汐 速 | 緩 | 緩 | 緩 |
| | 浮 種 類 | 硅藻類、桫欏類、鞭藻類多シ | 硅藻類、鞭藻類、主トス | 鞭藻類、硅藻類、主トス |
| 游 採 集 量 | 上 | 1.5 cc. | 1.0 cc. | 0.75 cc. |
| | 下 | 4.0 cc. | 7.5 cc. | 1.25 cc. |
| 物 | 浮水採集層 | 上 海面 | 上 海面 | 上 海面 |
| | 水深 | 下 12 呎 | 下 13 呎 | 下 14 呎 |
| | 浮採集層底質 | 13 呎 | 14 呎 | 15 呎 |
| 参 考 事 項 | 當月中篠島附近ノ主ナル漁獲物ハあじ、かます、さす、小さい、ひらめ、かれい、すすき、こち、あい、あわび、ささゑ、等ニシテ、あじ、かれいハ稍々好漁ナルモ其他ハ一般少漁ナリ、 圖ハ本月ニ於テモ未ダ灣内ニ入込マズ | | | |

七五

五 月 分

| 調査月日 | | 一日午後二時 | 十一日午後二時 | 二十四日午後二時 |
|---------|--|-------------------------|--------------|-------------|
| 月 齢 | | 13.6 | 23.6 | 7.2 |
| 氣 象 | 天 氣 | 曇 | 曇 | 快 晴 |
| | 雲 量 | 10 | 10 | 2 |
| | 風 位 | 西 北 西 | 南 | 西 南 |
| 象 | 風 力 | 1 | 2 | 1 |
| | 氣 温 | 21.5 | 19.0 | 22.5 |
| 海 | 水 温 | 海面 18.5 | 海面 17.5 | 海面 18.7 |
| | | 海底 — | 海底 16.7 | 海底 16.9 |
| | 比 水 温 | 18.5 | 17.4 | 18.8 |
| | | — | 17.0 | 17.8 |
| | 重 標準 比重 | 1.02532 | 1.02153 | 1.02389 |
| | | — | 1.02546 | 1.02514 |
| 水 色 | 4 | 4 | 4 | |
| 透明度 | 15 尺 | 30 尺 | 20 尺 | |
| 况 | 汐 時 | 干 五 合 目 | 干 三 合 目 | 干 四 合 目 |
| | 汐 向 | 南 | 南 | 南 |
| | 汐 速 | 稍 急 | 緩 | 稍 急 |
| | 浮 種 類 | 鞭藻類、硅藻類、主トシ、桫欏類、有孔類等混ハル | 硅藻類、桫欏類、鞭藻類等 | 鞭藻類、硅藻類、主トス |
| 游 採 集 量 | 上 | 2.0 cc. | 0.5 cc. | 0.3 cc. |
| | 下 | 1.0 cc. | 0.2 cc. | 1.5 cc. |
| 物 | 浮水採集層 | 上 海面 | 上 海面 | 上 海面 |
| | 水深 | 下 12 呎 | 下 13 呎 | 下 13 呎 |
| | 浮採集層底質 | 13 呎 | 14 呎 | 14 呎 |
| 参 考 事 項 | 當月中篠島附近ニテハこうなご、ひらめ、かれい、あいなめ、くしめ、等主ナル漁獲物ニシテこうなごハ當月初メヨリ漁獲アリ稍々好漁ナリシモ中旬ヨリ減少ス其他ノモノニテハかれい稍々多獲セラレタル外一般平漁ナリ、 三四年前迄ハ概テ當月中ニハ外海ヨリ廻來遊スルノ例ナリシガ本年ハ未ダ其兆ヲ見ズ | | | |

七六

八 月 分

| 調査月日 | 一日午後二時 | 十一日午後二時 | 二十一日午後二時 | |
|-----------|---|--------------------|--------------------|---------|
| 月 齢 | 17.6 | 27.6 | 8.3 | |
| 氣 象 | 天 氣 | 晴 | 曇 | |
| | 雲 量 | 3 | 9 | |
| | 風 位 | 西 | 南 | |
| | 風 力 | 1 | 2 | |
| 氣 温 | 30.7 | 27.7 | 28.8 | |
| 海 水 | 水 温 | 海面 25.7 海底 23.0 | 海面 27.3 海底 26.0 | |
| | 比 重 | 水 温 | 26.0 | 27.4 |
| | | 標準 比重 | 24.7 | 26.5 |
| | 重 比 重 | 標準 | 1.02436 | 1.02480 |
| | | 比重 | 1.02552 | 1.02475 |
| | 水 色 | 5 | 4 | |
| 透 明 度 | 20 尺 | 20 尺 | | |
| 况 | 汐 時 | 干 三 合 目 | 満 一 合 目 | |
| | 汐 向 | 南 | 北 | |
| | 汐 速 | 緩 | 緩 | |
| 浮 游 生 物 | 種 類 | 上 硅藻類。鞭藻類ヲ主トス | 硅藻類。橈脚類。鞭藻類。放射類等 | |
| | 種 類 | 下 全 上 | 橈脚類。硅藻類多シ | |
| 採 集 量 | 上 | 2.4 cc. | 5.0 cc. | |
| | 下 | 2.5 cc. | 4.0 cc. | |
| 浮 水 採 集 深 | 上 | 海 面 | 海 面 | |
| | 下 | 13 呎 | 12 呎 | |
| 浮 水 採 集 深 | 上 | 海 面 | 海 面 | |
| | 下 | 13 呎 | 13 呎 | |
| 浮 水 採 集 深 | 上 | 海 面 | 海 面 | |
| | 下 | 14 呎 | 14 呎 | |
| 浮 水 採 集 深 | 上 | 海 面 | 海 面 | |
| | 下 | 14 呎 | 14 呎 | |
| 底 質 | 砂 泥 | 砂 泥 | 砂 泥 | |
| 参 考 事 項 | <p>當月中篠島附近ニ於ケル主ナル漁獲物ハたゞ小だい。さす。くろだい。くじめ等ニシテたゞハ甚マ多獲セラレ小だい亦稍々好況ナリシモ其他ハ一般平漁ナリ</p> <p>本月初旬ヨリ巾着網二統出漁セシモ殆ド漁獲ナク間モナク休業スルモノアルニ至レリ</p> | | | |

七 月 分

| 調査月日 | 一日午後二時 | 十三日午後二時 | 二十一日午後二時 | |
|-----------|--|--------------------|---------------------|---------|
| 月 齢 | 15.9 | 27.8 | 6.6 | |
| 氣 象 | 天 氣 | 晴 | 曇 | |
| | 雲 量 | 5 | 10 | |
| | 風 位 | 西 | 東 南 東 | |
| | 風 力 | 2 | 2 | |
| 氣 温 | 23.7 | 26.2 | 28.5 | |
| 海 水 | 水 温 | 海面 23.0 海底 21.0 | 海面 23.6 海底 22.3 | |
| | 比 重 | 水 温 | 23.0 | 23.6 |
| | | 標準 比重 | 23.1 | 22.4 |
| | 重 比 重 | 標準 | 1.02413 | 1.02266 |
| | | 比重 | 1.02526 | 1.02423 |
| | 水 色 | 4 | 5 | |
| 透 明 度 | 22 尺 | 15 尺 | | |
| 况 | 汐 時 | 満 三 合 目 | 満 四 合 目 | |
| | 汐 向 | 北 | 北 | |
| | 汐 速 | 緩 | 稍 急 | |
| 浮 游 生 物 | 種 類 | 上 橈脚類。硅藻類。鞭藻類。有孔類等 | 硅藻類。橈脚類。主トシシ鞭藻類等混ハル | |
| | 種 類 | 下 硅藻類。鞭藻類ヲ主トス | 全 上 | |
| 採 集 量 | 上 | 13.0 cc. | 65.0 cc. | |
| | 下 | 0.5 cc. | 25.0 cc. | |
| 浮 水 採 集 深 | 上 | 海 面 | 海 面 | |
| | 下 | 13 呎 | 12 呎 | |
| 浮 水 採 集 深 | 上 | 海 面 | 海 面 | |
| | 下 | 13 呎 | 13 呎 | |
| 浮 水 採 集 深 | 上 | 海 面 | 海 面 | |
| | 下 | 14 呎 | 14 呎 | |
| 底 質 | 砂 泥 | 砂 泥 | 砂 泥 | |
| 参 考 事 項 | <p>當月中篠島附近ニテハあじ。かます。小だい。さす。こち。あわび。ささゑ等ヲ主ナル漁獲物トシ其他ハひらめ。かれい。くじめ。あいなめ等漁獲セラル</p> <p>本月中旬頃ヨリ小鯛灣内ニ入込ミ來リ伊勢灣口及波會附近及篠島南方沖ニテ其魚群ヲ認ムルモ甚マ稀薄ナル狀況ナリ</p> | | | |

十月分

| 調査月日 | 一日午後二時 | 十三日午後二時 | 二十一日午後二時 | |
|---------|--|------------------------|------------------------|---------|
| 月 齢 | 20.0 | 2.6 | 10.6 | |
| 氣 象 | 天 氣 | 曇 | 快 晴 | |
| | 雲 量 | 10 | 1 | |
| | 風 位 | 西 南 | 西 南 | |
| 象 | 風 力 | 1 | 2 | |
| | 氣 温 | 22.6 | 21.5 | |
| 海 水 | 水 温 | 海面 23.0 海底 22.3 | 海面 21.3 海底 — | |
| | 比 重 | 水 温 | 23.1 | 21.4 |
| | | 標準比重 | 1.02250 | 1.02356 |
| | 重 比 重 | 標準 | 1.02383 | — |
| | | 比重 | — | — |
| | 水 色 | 3 | 5 | |
| 透 明 度 | 20 _R | 20 _R | | |
| 況 | 汐 時 | 滿 三 合 目 | 滿 一 合 目 | |
| | 汐 向 | 北 | 北 | |
| | 汐 速 | 北 | 北 | |
| | | 南 | 南 | |
| 浮 游 生 物 | 種 類 | 上 撓脚類。矽藻類。多シ | 上 撓脚類。矽藻類。多シ | |
| | 採 集 量 | 上 3.5 cc. 下 2.5 cc. | 上 5.0 cc. 下 6.5 cc. | |
| 物 | 浮 水 層 | 上 海 面 | 上 海 面 | |
| | 採 集 深 | 下 13 寸 | 下 12 寸 | |
| | 浮 水 層 | 上 海 面 | 上 海 面 | |
| | 採 集 深 | 下 14 寸 | 下 13 寸 | |
| 底 質 | 砂 泥 | 砂 泥 | | |
| 參 考 事 項 | 當月中篠島附近ニ於ケル主ナル漁獲物ハキス。小たい。くろだ い。こち。たこ等ニシテたこ。さす。小だ。ハ甚ダ好漁ナリシ モ其他ハ一般少漁ナリ 當月中ハ殆ト全ク鰯ノ影ヲ認メス漁業中止ノ状態ナリキ 知多郡西浦村ヨリ同郡豊濱町ニ至ハ沿岸各地ニ於テ鯰ノ豊漁 アリ就中野間村最モ大漁ニシテ漁具ハ豊濱町ヲ除ク外何レモ 地曳網ナリトス | | | |

九月分

| 調査月日 | 三日午後二時 | 十一日午後二時 | 二十四日午後二時 | |
|---------|--|----------------------------|--------------------------|---------|
| 月 齢 | 21.3 | 29.3 | 13.0 | |
| 氣 象 | 天 氣 | 晴 | 曇 | |
| | 雲 量 | 5 | 10 | |
| | 風 位 | 東 南 | 西 | |
| 象 | 風 力 | 3 | 3 | |
| | 氣 温 | 29.5 | 23.5 | |
| 海 水 | 水 温 | 海面 27.5 海底 26.7 | 海面 24.8 海底 25.3 | |
| | 比 重 | 水 温 | 28.2 | 24.1 |
| | | 標準比重 | 1.02252 | 1.02433 |
| | 重 比 重 | 標準 | 1.02265 | 1.02497 |
| | | 比重 | — | — |
| | 水 色 | 3 | 4 | |
| 透 明 度 | 20 _R | 15 _R | | |
| 況 | 汐 時 | 干 一 合 目 | 干 十 合 目 | |
| | 汐 向 | 南 | 南 | |
| | 汐 速 | 南 | 南 | |
| | | 北 | 北 | |
| 浮 游 生 物 | 種 類 | 上 矽藻類。鞭藻類。撓脚類。葉脚類等 | 上 撓脚類。撓脚類。矽藻類。葉脚類等 | |
| | 採 集 量 | 上 25.75 cc. 下 20.00 cc. | 上 12.5 cc. 下 22.5 cc. | |
| 物 | 浮 水 層 | 上 海 面 | 上 海 面 | |
| | 採 集 深 | 下 13 寸 | 下 12 寸 | |
| | 浮 水 層 | 上 海 面 | 上 海 面 | |
| | 採 集 深 | 下 14 寸 | 下 13 寸 | |
| 底 質 | 砂 泥 | 砂 泥 | | |
| 參 考 事 項 | 當月中篠島附近ニ於ケル主ナル漁獲物ハたこ。小だ。くろだ い。くじめ。あいなめ。ひらめ。かれい。さす等ニシテさす。たこ 稍々好漁ナリシモ其他ハ中漁ナリ 本月初ノ渡會及ビ中山水道附近ニ大鰯。中羽鰯。サツバノ混交 群現ハレ五日ヨリ巾着網十一統該方面ニ出漁セシモ稀薄ニシ テ好漁ナク下旬ニハ其魚影ヲ没セリ 知多郡鬼ヶ崎村及野間村地方ニテ弗々鯰ノ漁獲アルヲ聞ケリ | | | |

十二月分

| 調査月日 | 五日 午後二時 | 十四日 午後二時 | |
|---------|---|-----------------|--------------|
| 月 齡 | 26.0 | 5.4 | |
| 氣 象 | 天 候 | 晴 | |
| | 雲 量 | 5 | |
| | 風 位 | 北 | |
| | 風 力 | 2 | |
| 海 況 | 氣 温 | 10.5 | |
| | 水 温 | 海面 14.7 | 海面 11.8 |
| | | 水深 14.0 | 水深 12.3 |
| | 比 重 | 水温 14.5 | 水温 11.8 |
| | | 標準 14.3 | 標準 12.0 |
| | 重 比 重 | 標準 1.02340 | 標準 1.02388 |
| | | 標準 1.02386 | 標準 1.02440 |
| | 水 色 | 5 | 5 |
| | 透 明 度 | 20 尺 | 25 尺 |
| | 沙 時 | 滿 十 合 目 | 干 六 合 目 |
| 沙 向 | 北 | 南 | |
| 沙 速 | 緩 | 稍 急 | |
| 浮 游 生 物 | 種 類 | 上 鞭藻類。撓脚類。硅藻類多シ | 下 撓脚類。硅藻類主トス |
| | 採 集 量 | 上 0.50 cc. | 下 0.75 cc. |
| 物 | 浮 水 層 | 上 海 面 | 下 海 面 |
| | 採 集 深 | 12 呎 | 12 呎 |
| | 浮 採 水 深 | 13 呎 | 13 呎 |
| | 採 集 場 底 質 | 砂 泥 | 砂 泥 |
| 參 考 事 項 | <p>當月中篠島附近ニ於ケル主ナル漁獲物ハなまこ。くじら。あいなめ。等ニシテ一般平漁ナリ</p> <p>前月下旬ヨリ鰯漸次外海ニ退去スルト共ニ巾着網ノ數モ減少シ當月下旬ニハ全ク本漁業ノ終末ヲ告ゲタリ</p> <p>鯉ハ本月初旬ヨリ大イニ減シ知多郡豊濱町及師崎方面ニテ小漁アリタルニ過キス下旬中ハ天候不良ノ爲メ觀測スルヲ得ザリキ</p> | | |

十一月分

| 調査月日 | 二日 午後二時 | 十三日 午後二時 | 二十一日 午後二時 | |
|---------|---|------------------------------|------------|------------|
| 月 齡 | 22.6 | 4.0 | 12.0 | |
| 氣 象 | 天 氣 | 快 晴 | 曇 | |
| | 雲 量 | 1 | 10 | |
| | 風 位 | 北 西 | 0 | |
| | 風 力 | 1 | 0 | |
| 海 況 | 氣 温 | 14.6 | 16.0 | |
| | 水 温 | 海面 19.2 | 海面 18.4 | 海面 16.8 |
| | | 水深 19.5 | 水深 18.4 | 水深 17.5 |
| | 比 重 | 水温 19.2 | 水温 18.4 | 水温 16.8 |
| | | 標準 19.7 | 標準 18.1 | 標準 17.2 |
| | 重 比 重 | 標準 1.02399 | 標準 1.02448 | 標準 1.02440 |
| | | 標準 1.02462 | 標準 1.02421 | 標準 1.02500 |
| | 水 色 | 5 | 5 | 5 |
| | 透 明 度 | 20 尺 | 80 尺 | 25 尺 |
| | 沙 時 | 干 三 合 目 | 滿 二 合 目 | 滿 七 合 目 |
| 沙 向 | 南 | 北 | 北 | |
| 沙 速 | 緩 | 緩 | 緩 | |
| 浮 游 生 物 | 種 類 | 上 硅藻類。撓脚類主トシ 鞭藻類。放射類。葉脚類等 | 下 硅藻類主トス | 同 上 |
| | 採 集 量 | 上 3.5 cc. | 下 5. cc. | 同 上 |
| 物 | 浮 水 層 | 上 海 面 | 下 海 面 | 海 面 |
| | 採 集 深 | 12 呎 | 12 呎 | 12 呎 |
| | 浮 採 水 深 | 13 呎 | 13 呎 | 13 呎 |
| | 採 集 場 底 質 | 砂 泥 | 砂 泥 | 砂 泥 |
| 參 考 事 項 | <p>當月中篠島附近ニテハたこ。さす。かれい。こち。くろだい。チ主ナル漁獲物トシタス。たこ。ハ引續キ好漁ナルモ其他ハ少漁ナリキ</p> <p>前月中ハ灣内ニ殆ソド鰹ヲ見ザリシモ當月始メニ再ビ來遊シ灣口及ヒ師崎附近ニ漁群顯ハレタルヲ以テ巾着網十統斗リ出漁シタリ四五日間ハ稍々好況ヲ呈シタリシモ間モナク沈衰シ當月中ハ前記ノ師崎場ニテ少漁獲ヲ繼續シタル外時折篠島南濱沖ニ出漁船アリシカ少獲シタルニ過キス而シテ下旬ニハ外海ニ退去シ始メ就業者モ大ニ減少セリ鯉ハ本月モ前表各地何レモ豐漁ナリ</p> | | | |

漁況 伊勢三河湾内ノ鰯ハ例年五六月頃ヨリ來游シタリシガ本年ハ平年ニ遅ル、コト一二ヶ月ニシテ七月中旬頃伊勢湾口附近湾内篠島南濱沖及豊濱沖等ニ小鰯群ノ出顯シタルヲ初期トシ八月初旬ニハ伊勢湾口附近ニ大中羽鰯及中羽鰯ノ來游ヲ見篠島濱沖ニハ小鰯ノ滯泳アリ而シテ巾着網漁船モ當時始メテ二三漁事ニ着手シタルモノアリシガ何レモ群稀薄ニシテ漁獲極々シカラザリシト舊盆ニ際シタル爲メ同月下旬ニハ漁船一先ツ休業スルニ至レリ次イテ九月初二入ヲ篠島南濱沖ニ中羽鰯大中羽鰯さつばノ三種ヲ混ヘタル魚群顯ワル、ニ至リ巾着網十數統ノ從業者ヲ出シ中旬頃迄漁事ヲ繼續セシガ引續キ鰯ノ入込ミナカリシ爲メ漁獲良好ナラズシテ一網二百桶位(一桶ハ凡ソ一斗)ヲ最多トシ概テ二十桶乃至百桶内外ノ場合多ク時ニ皆無ナルカ或ハ又數桶位ニ過キサルコトモアリタリ其ノ他ノ方面トシテハ湾口附近及師崎水道附近ニテモ魚群ヲ認ムル事アリシモ少量ナリシ爲メ就漁者無シ而シテ九月下旬以降十月末迄ハ一帯ニ魚形ヲ失ヒ又鰯入込ノ模様モナク殆ソド湾内ニテハ魚群ヲ認ムル能ハス之レガ搜索ニ從事セル漁船アリシモ絶エテ發見シ得ザリシヲ以テ各船概テ漁事ヲ中止シ恰モ平年ノ盛漁期ヲ不況寂寥ノ間ニ過ゴシタリキ斯クテ十月末日前後ニ至リ湾口附近師崎水道附近篠島南濱沖ニ鰯群ノ出泳ヲ見シカバ十數統ノ巾着網ト數統ノ刺目網從業シ十一月初旬迄ハ稍々好況ヲ呈シ一網百五六十桶乃至二三百桶位ノ漁獲アリシモ爾後好漁ナク中旬後ハ再ビ不況ニ歸シ一網百五六十桶ト最多トシ此等ノ場合ハ稀レニシテ普通二三十桶乃至百桶迄位或ハ數桶乃至十數桶位ノ漁獲ニ過キザリシモ兎モ角十一月中ハ湾口附近及師崎水道附近ノ兩漁場ニ於テ漁業ヲ繼續シ時折篠島南濱沖ニモ出漁セシガ薄漁ニ止マレリ尙當月中ノ魚派ハ何レノ漁場モ概テ中羽鰯及大中羽鰯ニ潤目鰯ヲ混ワタルモノナリキ而シテ魚群ハ十一月末ヨリ漸次外海ニ退去シ始メ終漁期ニ近キタルヲ以テ出漁船ハ相次グ網仕舞ヒナシ十二月中旬後ハ湾口附近ニ滯泳セルモノヲ捕獲スル爲メ二三ノ從業者殘留セシト雖モ之亦同月末ニハ全部引揚ケ非常ナル大不漁ヲ以テ湾内ノ鰯漁業ハ茲ニ終了ヲ告ゲタリ然ルニ本年度湾内ニ於ケル鰯漁業ハ頗ル好況ヲ呈シ鰯巾着網業者モ小目網ヲ製シテ鰯漁業ニ轉スル者アルニ至リ殊

| | |
|----|---|
| 月次 | 一 |
| 項 | |

自明治三十二年六月至 每月平均氣象及海況表

| 考 備 | 漁 獲 高 表 | 年 月 次 | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|-------|-----|-----|------|------|-------|-----|----|-----|------|
| | | 七 月 | | 八 月 | | | | | | | |
| | | 氣 象 | 海 況 | 氣 象 | 海 況 | | | | | | |
| ○天氣日數ノ欄晴ハ雲量七以下曇ハ八以上雨ノ降水量一欄以上ノ日トス ○水温及比重ハ毎月各旬一回(午後二時)海水表面ヲ觀測シタルモノ、平均ナリ比重ハ一、〇ヲ略ス ○浮量ハ毎月各旬一回午後二時海水表面及下層ニテ採收シタルモノ、平均ニシテ ○氣象觀測点ハ釜高頂上ニシテ海水觀測点ハ海洋觀測表ノ位置ニ全シ | 三五萬 三〇萬 二五萬 二〇萬 一五萬 | 元四十五年 | 三〇七 | 西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 元四十五年 | 三〇七 | 西 | 七、四 | 三〇、七 |
| | | 三十四年 | 三〇七 | 北西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 三十四年 | 三〇七 | 北西 | 七、四 | 三〇、七 |
| | | 三十三年 | 三〇七 | 北西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 三十三年 | 三〇七 | 北西 | 七、四 | 三〇、七 |
| | | 三十二年 | 三〇七 | 北西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 三十二年 | 三〇七 | 北西 | 七、四 | 三〇、七 |
| | | 三十一年 | 三〇七 | 北西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 三十一年 | 三〇七 | 北西 | 七、四 | 三〇、七 |
| | | 三十年 | 三〇七 | 北西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 三十年 | 三〇七 | 北西 | 七、四 | 三〇、七 |
| | | 二十九年 | 三〇七 | 北西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 二十九年 | 三〇七 | 北西 | 七、四 | 三〇、七 |
| | | 二十八年 | 三〇七 | 北西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 二十八年 | 三〇七 | 北西 | 七、四 | 三〇、七 |
| | | 二十七年 | 三〇七 | 北西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 二十七年 | 三〇七 | 北西 | 七、四 | 三〇、七 |
| | | 二十六年 | 三〇七 | 北西 | 五、三〇 | 三〇、七 | 二十六年 | 三〇七 | 北西 | 七、四 | 三〇、七 |

○天氣日數ノ欄晴ハ雲量七以下曇ハ八以上雨ノ降水量一欄以上ノ日トス
 ○水温及比重ハ毎月各旬一回(午後二時)海水表面ヲ觀測シタルモノ、平均ナリ比重ハ一、〇ヲ略ス
 ○浮量ハ毎月各旬一回午後二時海水表面及下層ニテ採收シタルモノ、平均ニシテ
 ○氣象觀測点ハ釜高頂上ニシテ海水觀測点ハ海洋觀測表ノ位置ニ全シ

ノ來遊ヲ見發島濱沖ニハ小艇ノ溜泳アリ而シテ巾着網漁船モ當時始メテ二三漁事ニ着手シタルモノアリシガ何レモ稀薄ニシテ漁獲極々シカラザリシト舊來ニ際シタル爲メ同月下旬ニハ漁船一先ツ休業スルニ至リテ九月初ニ入
 〃 篠島南濱沖ニ中羽網大羽網ニつばノ三種ヲ混ヘタル魚群顯ワレ、ニ至リ巾着網十數艘ノ從業者ヲ出シ中旬頃迄漁
 事ヲ繼續セシガ引續キ網ノ入込ミナカリシ爲メ漁獲良好ナラズシテ一網二百捕位(捕ハ凡ソ一斗)ヲ最多トシ概テ二
 三十捕乃至百捕内外ノ場合多ク時ニ皆無ナルカ成ハ又數捕位ニ過キタルトモアリ、其ノ他ノ方面トシテハ河口附
 近及師崎水道附近ニテモ魚群ヲ認ムル事アリシモ少量ナリシ爲メ就漁者無シ而シテ九月下旬以降十月末迄ハ一帯ニ魚
 形ヲ失ヒ又網入込ノ模様モナク殆ンド河内ニテハ魚群ヲ認ムル能ハスレガ搜索ニ從事セル漁船アリシモ絶エテ發見
 シ得ザリシヲ以テ各船概テ漁事ヲ中止シ恰モ平年ノ感漁期ヲ不況寂寥ノ間ニ過ゴシタリ、斯クテ十月末日前後ニ至リ
 河口附近師崎水道附近篠島南濱沖ニ魚群ノ出泳ヲ見シカハ十數艘ノ巾着網ト數艘ノ刺網ト網業シ十一月月初迄ハ稍々
 好況ヲ呈シ一網百五十捕乃至二百捕位ノ魚獲アリシモ爾後好況ナク中旬後ハ再び不況ニ歸シ一網百五十捕ヲ最
 多トシ此等ノ場合ハ稀ニシテ普通二三十捕乃至百捕位成ハ數捕乃至十數捕位ノ漁獲ニ過キザリシモ見モ角十一月
 中ハ河口附近及師崎水道附近ノ兩漁場ニ於テ漁業ヲ繼續シ時折篠島南濱沖ニモ出漁セシガ薄漁ニ止マレリ尙當月中ノ
 魚派ハ何レノ漁場モ概テ中羽網及大羽網ニ網目細クワケタルモノナリキ而シテ魚群ハ十一月末ヨリ漸次外海ニ退去
 シ始メ終漁期ニ近キタルヲ以テ出漁船ハ相次グ網仕舞ヒタナシ十二月中旬後ハ河口附近ニ溜泳セルモノヲ捕獲スル爲
 メ二三ノ從業者殘留セシト雖モ之亦同月末ニハ全部引揚ケ非常ナル大不漁ヲ以テ河内ノ網漁業ハ終リテ告ケタリ
 然レニ本年度河内ニ於ケル網漁業ハ頗ル好況ヲ呈シ網巾着網業者モ小目網ヲ製シテ網漁業ニ轉スル者アルニ至リ殊

| 年 | 三月 | | | 四月 | | | 五月 | | | 六月 | | |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| | 氣象 | 海況 | 氣象 | 海況 | 氣象 | 海況 | 氣象 | 海況 | 氣象 | 海況 | 氣象 | |
| 大正元年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正二年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正三年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正四年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正五年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正六年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正七年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正八年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正九年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十一年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十二年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十三年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十四年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十五年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十六年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十七年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十八年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正十九年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |
| 大正二十年 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | 北西 | |

最低最高温度ノ平均 ○降水量ハ一ヶ月間ノ總量ニシテ單位ハ一耗ヲ以テ表ハス
 〇浮量ハ毎月各旬一回午後二時海水面及下層ニテ採取シアルモノノ平均ニシテ單位ハ一立方釐ヲ以テ表ハス

二十、十一ノ兩月ハ知多郡西南部沿岸各地地曳網ニテ甚ダ多獲セラレ近年ノ豊漁ト稱セラレタリ
以上ハ本年度ニ於ケル灣内鰹漁業ノ概況ニシテ漁獲總額ハ數十年來ノ不漁ト唱ヘラレタル四十四年度ヨリモ亦更ニ少
ナク非常ナル不況ヲ以テ終リテ告グタリシガ斯ク不漁ヲ來シタル原因ニ就テハ種々攻究スル所アリシト雖モ其關係事
項甚ダ複雑ナルト調査資料ニ乏シキガ爲メ未ダ解決ヲ與ヘ得ルニ至ラズ然シナガラ先年來本年度迄本場ニテ觀測シタ
ル氣象及海況ト其年々ノ漁況トヲ對照シ且各年相互ノ關係ヲ比較觀察スルニ漁況略同フシテ氣象海況ヲ異ニスル年ア
リ或ハ又之ニ反スルガ如キ場合等アルノミナラズ既往ノ觀測ニ徴スルモ前年度及本年度ニ於テ氣水兩界ノ現象ニ殊ニ
著シキ變化ヲ來シタルガ如キ事實アルヲ認ムル能ハザルニ拘ハラズ兩年度共鰹ノ來游稀薄ニシテ甚シキ不況ニ終リタ
ルハ灣内ノ海況及氣象ノ影響ニヨルニアラズシテ外海沖合ノ海流ニ變異ヲ生シ魚道ニ變化ヲ來シタル結果灣内ニ入込
ミ來ル魚群ノ減少シタルニアラザルナキカ然レドモコハ元ヨリ既往數年間灣内ノ一部分ニ於ケル氣象海況ノ觀測ヲ綜
合想像シタルニ止マリ漁不漁ノ原因ヲ確實ニ判定セントスルニハ充分ナル資料ヲ要スルヲ以テ一層調査ノ步ヲ進メ研
究ノ上後日更ニ報告スル所アラントス
左ニ既往十ヶ年間ニ放ケル氣象海況等ヲ示シ參考ニ供ス

養殖適地調査

前年度ヨリ繼續シテ之レガ調査ヲ行ヒ本年度ハ寶飯郡ノ東部沿海地先ヲ踏査シわさり、はまぐり等ノ適地數十萬坪ヲ
得タル結果既ニ之レガ養殖ニ着手スルモノアルニ至レリ

短期水産講習

技手 粟屋 協二

本年度モ前年度ノ主旨方法ニヨリ左表所載ノ三十一ヶ所ニ於テ五日間宛開催シタリ
講習期間ハ七月ヨリ三月ニ亘リ修了者二千八十六名外ニ傍聴者六百四十七名ニ及ビタルヲ以テ聴講者ノ總數ハ二千七百三十三名ニ達シタリ而シテ前年度ニ比シ青年聴講者ノ數ヲ増シタルハ慶スベキ傾向ナリトス今各地ニ於ケル講習狀況ヲ表示スレバ左ノ如シ

大正元年度短期水産講習狀況一覽

| 開期日 | 郡別 | 町村名 | 會場 | 科目 | 講習修了者 | | | 計 | 傍聴者 | 合計 |
|---------|-----|-------|---------|----|-------|----|----|----|-----|----|
| | | | | | 講 | 習 | 者 | | | |
| 自七月二日 | 郡飯 | 大塚村 | 尋常高等小學校 | 養殖 | 〇 | 〇 | 〇 | 五九 | 一一 | 七〇 |
| 自七月六日 | 郡飯 | 浦郡町 | 永向寺 | 漁撈 | 〇 | 〇 | 〇 | 二四 | 〇 | 二四 |
| 自七月十一日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自七月十三日 | 同 | 前芝村 | 尋常高等小學校 | 總論 | 〇 | 三 | 三 | 三 | 〇 | 三 |
| 自七月十七日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自八月十六日 | 郡受知 | 下ノ一色村 | 同 | 製造 | 八 | 一三 | 一一 | 三三 | 四 | 五八 |
| 自八月十七日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自九月七日 | 郡海部 | 鍋田村 | 役場 | 養殖 | 二 | 二六 | 〇 | 二八 | 二 | 三〇 |
| 自九月十一日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自九月十九日 | 郡飯 | 一色村 | 尋常高等小學校 | 漁撈 | 〇 | 三六 | 一四 | 五〇 | 一 | 五八 |
| 自九月二十三日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自九月三十日 | 同 | 寺津村 | 同 | 養殖 | 二六 | 三三 | 一 | 五九 | 八 | 七三 |
| 自十月四日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十月七日 | 同 | 吉田村 | 同 | 同 | 〇 | 三七 | 〇 | 三七 | 一 | 四〇 |
| 自十月十一日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

| | | | | | | | | | | |
|----------|-----|-------|---------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 自十月十二日 | 郡海部 | 蟹江町 | 舟入分敷場 | 漁撈 | 〇 | 一五 | 五七 | 二 | 二 | 七六 |
| 自十月十六日 | 同 | 上野村 | 役場 | 總論 | 〇 | 六〇 | 七 | 一 | 〇 | 六八 |
| 自十月十八日 | 郡知多 | 横須賀町 | 尋常高等小學校 | 製造 | 五三 | 二六 | 二 | 八〇 | 五 | 一〇〇 |
| 自十月二十三日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十月二十七日 | 同 | 八幡村 | 第一尋常小學校 | 漁撈 | 〇 | 六八 | 三 | 七四 | 五〇 | 一二四 |
| 自十一月一日 | 同 | 西浦町 | 青年俱樂部 | 製造 | 五 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 五 |
| 自十一月三日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十一月七日 | 同 | 野間村 | 第一尋常小學校 | 同 | 〇 | 六六 | 〇 | 六六 | 一 | 七九 |
| 自十一月九日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十一月十四日 | 同 | 内海町 | 第二尋常小學校 | 總論 | 五 | 六 | 一六 | 二七 | 四 | 四一 |
| 自十一月十八日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十一月十九日 | 同 | 豐濱町 | 第一尋常小學校 | 製造 | 四六 | 四三 | 七 | 九六 | 〇 | 一四一 |
| 自十一月二十五日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十一月二十九日 | 同 | 篠島村 | 尋常高等小學校 | 同 | 二七 | 八 | 三六 | 七〇 | 一 | 一一二 |
| 自十二月二日 | 同 | 龜崎町 | 第一尋常小學校 | 同 | 〇 | 七六 | 〇 | 七六 | 一 | 一〇〇 |
| 自十二月六日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十二月八日 | 同 | 河和町 | 同 | 總論 | 〇 | 三三 | 五 | 三八 | 〇 | 四九 |
| 自十二月十四日 | 同 | 師崎町大井 | 同 | 漁撈 | 〇 | 一四 | 六 | 二〇 | 〇 | 二〇 |
| 自十二月十八日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十二月十九日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十二月二十三日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自十二月二十四日 | 同 | 日間賀島村 | 尋常小學校 | 製造 | 九 | 一 | 六 | 一六 | 一 | 二五 |
| 自十二月二十八日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自一月八日 | 郡飯 | 佐久島村 | 尋常高等小學校 | 養殖 | 〇 | 二二 | 二八 | 五〇 | 四 | 八〇 |
| 自一月十二日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自一月十五日 | 同 | 福江町 | 青年俱樂部 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自一月十九日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 自一月二十一日 | 郡海部 | 伊良湖岬村 | 堀切尋常小學校 | 漁撈 | 〇 | 六一 | 四五 | 五 | 〇 | 一一〇 |
| 自一月二十五日 | 同 | 同 | 同 | 同 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

| 平均 | 計 | 自一月二十七日起至二月二日 | 自二月六日起至二月十二日 | 自二月十四日起至二月十八日 | 自二月二十五日起至三月一日 | 自三月四日起至三月八日 | 岩手郡 | 美濃郡 |
|---------|---------|---------------|--------------|---------------|---------------|-------------|---------|---------|
| | 三二 | 泉 | 田原町 | 高豊村 | 老津村 | 高師村 | 高濱町 | 高濱町 |
| | | 農業補習學校 | 北部高等小學校 | 豐南高等小學校 | 尋常高等小學校 | 大崎高等小學校 | 高濱高等小學校 | 高濱高等小學校 |
| | 九、九、八、五 | 養殖 | 漁撈 | 同 | 總論 | 養殖 | 同 | 同 |
| 七、六 | 三、九 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 三、九 | 七、二 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 三、二 | 六、六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 四、九 | 一、〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 一、九 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 六、七、三、九 | 二、〇、八、六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 二、〇、八、七 | 六、四、七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 八、八、一、六 | 二、七、三 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

大正三年三月廿五日印刷
 大正三年三月三十日發行

發行所 愛知縣水產試驗場

印刷者 東崎作藏
 愛知縣名古屋市中區元田町三丁目四番戶

印刷所 會社長谷川活版所
 名古屋市中區天王崎町番外三十六

421
451

大清宣統元年二月廿五日
大清宣統元年二月廿五日

大清宣統元年二月廿五日

大清宣統元年二月廿五日

大清宣統元年二月廿五日

大清宣統元年二月廿五日

大清宣統元年二月廿五日

終

